290

41

始

秋田縣教育會編纂

文部省主催
實業補習教育講演集

完

秋田縣教育會藏版

290-4/

秋田縣教育會編纂

文部省主催
實業補習教育講演集

秋田縣教育會藏版

定
大
11. 12 4

凡例

一、本書ハ文部省主催實業補習教育講演會ヲ秋田市ニ於テ本年六月十二日ヨリ十四日マデ三日間開催セラレシ當時ノ講演ヲ講演ノ順序ニヨリ印刷セルモノナリ

一、講演ハ總テ貴族院速記技手荒木竹治郎氏ヲ聘シ速記シタルモノニシテ講演者ノ校閲ヲ經タリ

一、本會ハ前項ノ講演筆記ノ讓與ヲ得實業補習教育振興ノ資ニ供セン爲メ之ヲ印刷頒布スルコトトセリ

大正十一年十一月

秋田縣教育會

目次

一、開會の辭　文部省督學官　關口壯吉
一、實業補習教育制度　文部省實業補習教育主事　岡篤郎
一、經濟事情　東京帝國大學教授　法學博士　河津暹
一、農村實業補習教育　東京帝國大學教授　農學博士　澤村眞
一、都市實業補習教育　名古屋高等商業學校長　文學博士　渡邊龍聖
一、農村問題　東京帝國大學教授　農學博士　佐藤寛次
一、實業補習學校ニ於ケル公民教育　文部省書記官　關屋龍吉
一、閉會辭　文部省督學官　關口壯吉
一、挨拶　秋田縣內務部長　細川長平
一、同　會員總代青森縣視學　吉松盛吉

○開會の辭

文部省督學官　關口壯吉

講演會を開くに當り主催者と致しまして、茲に一場の御挨拶を申述べることは私の光榮と致すところであります、實業補習教育講演會は昨年初回を新潟市に開かれましてより以來、仙臺、名古屋、福岡、水戸を經まして本日から御當地に於て開きますことに相成りましたのであります、今回此講演會を御當地に開きますに當りましては、本縣の御當局を初めまして關係せられました方々の非常なる御盡力に依りまして、斯の如く盛會を見ることを得ましたのは主催者と致して最も欣幸と致す所であります、茲に一言お詫を致し且つお斷りを致して置かなければならぬ事は、實は此講演會には文部省の主務局と致しまして、山崎實業學務局長が參りまして一場の御挨拶を申述べ、且つ此補習教育の制度に付きまして講演を致す筈でありました、所が不幸にして四五日前より健康を害しまして、水戸にも出席を致すことが出來ず又御當地にも參ることが出來なくなつたのであります、洵に遺憾な事ですが病氣のことでありますから、已むを得ぬ事と特に御諒承を願ひたいのであります、實業補習教育も皆樣の御熱心なる御努力に依りまして、其數に於きましても亦其質に於いても近來長足の進歩を致したのでありますが、尙ほ之を歐米の先進諸國に較べましても亦我國の現狀から考へましても、更に振興も致し改善もしなければならないのでございます、文部省に於きましては大正八年の春に實業學務局が開設せられまして、此實業

學務局が開設せられました第一の事業と致しましては、實業學校に於きまする制度を改正致さなければならぬ事になりまして、先づ農業、工業、商業等に付きましての教育の調査委員會を、文部次官の委員長の下に開くことになりましたのであります、其調査を本と致しまして遂に實業學校令を初めとし、又各實業學校の規程を改正致したのであります、此改正に依りまして實業學校の程度とか或は其内容等がハッキリと極つたのであります、でそれに次ぎましては實業補習教育の地位とか待遇とかゝ向上されたのであります、又それを各地に普及致しますことに付いては、實業教育主事（講習生）を昨年より本省に置くことになりました、それから又尚に微々たるものではありますが、實業補習教育の改善に對して國庫補助の制度も布くことになつたのであります、で本講演會も亦其一事業と致して先刻申述べました、昨年以來既に五回の講演會を開きまして今回は第六回目に當る譯であります、幸に秋田縣を初めとして青森縣、山形縣等の多大の御同情に依りまして、今回の講演會も斯の如く多數の御來聽者を得ることになりましたのは、主催者と致しまして洵に滿足に堪へざることであります、で先刻申述べたやうに補習教育の制度に付きましては、初めより主務局長として非常に盡力されました山崎局長が講演を致す筈になつて居りましたが、先刻述べました如く病氣の爲に出られぬ事になりましたに付いては、斯教育には多年非常なる研究と又御經驗とを持つて居られます岡實業補習教育主事が山崎局長に代つて御講演をされることになつたのであります、是より直ちに　君の講演がある筈でありますから、どうぞ暫く御靜聽をお願ひ致します、開會の初めに當りまして不束ながら一場の御挨拶を述べました次第であります。

實業補習教育制度

文部省實業補習教育主事　岡　篤　郎

只今御紹介を願ひました岡でございます、今日は實業學校の局長に代りまして實業補習教育の制度と云ふ題目の下に御講演を申上る事になりました、演題が大變に大きな演題で、一寸此演題の下にはどう云ふ事をお話申上げて宜いかと迷ふのであります、殊に制度に關しましては稍々規則めいた事が多うございますので、折角皆さんの御靜聽を煩すのには甚だ御迷惑のことゝ考へます、そこで大體私は次のやうな要項に就てお話申上げる考で居ります。

第一に此實業補育教育の制度の起りに關することを申上げ、それから其制度の發達に就てのお話を申上げ、次いで歐羅巴の大戰爭が如何に此補習教育の發達に對して影響をしたかと云ふことを申上げて、引續いて第四に我國の實業補習學校制度、此制度の本質と云ふことに就て大體のお話を申上げ、最後に外國の此補習學校制度と我國の補習學校制度とを引較べて見まして、私の愚見を多少付して申上げやうと思ひます、なるたけ理屈めいたり或は規則づくめにはならぬやうには致します、けれども題目がさう云ふ題目でございますから、どうか暫くの間御辛抱をお願ひしたいと思ひます。

實業補習教育の制度は御承知の通り其發達は獨逸に於て最も早く行はれたのであります、獨逸は實に

實業補習教育制度の本山であります、殊に獨逸の「ミュンヘン」市は實業補習教育の發祥地と言はれて居るのであります、獨逸に於きましては十六世紀の末頃から既に基督教會の日曜學校に於きまして、實業補習教育の起源になる一種の補習教育の方法で以て子供を教育して居つたのであります、それが段々發達致しまして此十九世紀の初に於て、「バハリア」州に於きまして、一種の義務として日曜學校の教育を行つたのであります、十六歳までの女の子供男の子供も必ず日曜學校に出て、日曜日毎に一般の普通教育と宗教教育とを受けなければならぬ、と云ふやうな事を規則で以て極めたのでございます、尙ほ進んで丁度今から五十年前でございますが、千八百七十三年の四月であります其頃に「ザクゼン」と云ふ國に於きましては、立派な補習學校の規則を極めましたのであります、勿論此時分は實業補習學校の制度として立派な獨立の規則が出來たのでありませぬで、小學校に關する法律として、小學校に關する法律の內に於て補習學校の制度を極めたのであります、其中に斯う云ふ事が書いてあります、「小學校を卒業したる少年は他の方法に於て教育を受けざる場合には三ヶ年間補習學校に出席するの義務あり、滿十五歳まで中等或は高等の小學校に出席したる者にして、其年齡に相當する學校に達したる場合には補習學校に出席する義務を免除す」と斯う云ふ事を今から五十年前に獨逸では規定をして居つたのであります、尙ほ同時に此規定が非常にやかましく而かも義務的性質を帶びて居つたと言ふことは當時已に嚴重な罰則を極めて居ることであります、それを御參考の爲に申上げると、「官廳は學校管理者の通告に依り兩親又は生徒の教育者の不良なる怠慢に對し三十馬巾以下の罰金を科し支拂不能の場合には帝國刑法に依り拘留に處す」是が只今から五十年以前の獨逸の補習學校の制度の先づ一端であります。

斯の如く獨逸の補習教育の發達は非常に古い歷史に持つて居ります、然るに其後只今から丁度二十年前でありますが、西暦千九〇二年であります此年に「エルフールト」と云ふ所にある、帝室學藝院が懸賞の論文を募集致しました、其題目は、「獨逸青年の國民的訓練如何」と云ふやうな題目であります、此題目の下に一般に論文の募集をしたのであります、で此論文の募集に應じましてさうして而かも一等に當選するの名譽を得た者は、今日彼の有名な實業補習教育制度に付て獨逸に於て最も貢献した一人の「ケルシエンスタイナー」(Kerschensteiner)博士でありますが、此「ケルシエンスタイナー」の論文にはどう云ふ事があるかと申しますと「ケルシエンスタイナー」は此論文の中に斯う云ふ事を書いて居りました、其の第一番に、今日此の獨逸の少年及獨逸の青年の將來の教育に對しては、現在の小學校の義務教育と云ふものは洵に不十分である不完全であると云ふことが第一であります、もう一ツは此獨逸の今日の義務教育の制度では、青年教育と云ふ此大事の問題に對して全然沒交渉である、此二つの缺點に對して獨逸の國民教育は大に改められなければならぬ、と云ふ事をと主して論じたのであります、で此「ケルシエンスタイナー」の論文は天下の學者は勿論獨逸の一般の教育家の非常な賛成を得まして遂に、今日獨逸の實業補習教育制度改善に對して根本的の意見になつたのであります。

即ち此「ケルシエンスタナー」の意見は廣く獨逸國內に採用せられまして、今日の實業補習學校の制度の本をなしたのであります。さうして歐羅巴の大戰爭以前に於て獨逸は完全な實業補習教育制度と云

ふものを確立するやうになつて居たのでありました、然るに歐羅巴の大戰爭後獨逸帝國は崩壞致しまして獨逸共和國が成立致しました、けれども矢張實業補習教育制度は當時の帝國時代の制度を其儘使つて居るのであります、それを以て見ても獨逸の戰前の實業補習教育制度が、如何に立派に出來て居つたかと云ふ事が想像されるのであります、で此獨逸の實業補習教育制度が洵に立派に發達致しまして、此制度に依ります一般國民の青年教育としての實業補習教育が非常に盛大に行はれて、非常に立派な成績を國民教育の上に現はしつゝあつたことを諸外國の學者教育家がそれ〴〵注意を致しました結果、茲に獨逸の實業補習教育の制度が段々歐羅巴亞米利加の列强國の間に採用されるやうになつたのであります。

其最も著しき一例は卽ち此歐羅巴の戰爭の中頃に英吉利が教育に關する法律を改めまして、新しく英吉利王國の教育制度と云ふものを制定したことであります、御承知の通り、まだ、英吉利は歐洲大戰爭の最中でありますが、千九百十七年でありました、卽ち只今から五年前でございますが此年に於て大戰爭の眞最中であるにも拘はらず、英吉利の國民教育の制度、殊に、實業補習教育制度が非常に振はない、此制度を根本的に改めることの必要を感じました英國は、國家多事の際、殊に、軍國の議會として議すべきことは隨分多い場合であるにも拘らず、總理大臣「ロイドジョージ」及文部大臣の「フイッシャー」はお互に打合せ致しまして、大なる決心を以て、軍國議會に英吉利の國民教育の改革法律案と云ふものを議會に提案したのであります、何故に斯の如き大戰爭の眞最中である軍國多事の議會に於て、斯の如き悠々國家百年の將來を期する如き教育案を出さなければならぬ破目に英吉利が立至つたかと云ふことは、是は洵に吾々が考へ吾々が研究して面白い問題であると思ふのであります、今日は英吉利は立派に歐洲戰爭に於て獨逸に勝つたのであります、成程、海軍に於て、陸軍に於て、英吉利は强敵國獨逸を擊破したのでありますが、一方教育の制度から申しますと立派に英吉利は獨逸に負けたのであります、獨逸の國民教育制度は明かに英吉利の國民教育制度よりも遙に優れて居つたのである、それ故に、此制度の點に於て、英吉利は遺憾なことであるが獨逸に降伏したとも言はれるのであります。

併ながら將來の英吉利の國民教育として將來の英吉利の青年教育の根本的改造の爲には何と惡口を言はれてもどんなに苦しい事情になつても、どんな手間暇を掛けてもどんな大事な目先の問題を差置いても、英吉利國としては此國民教育の制度を改正する調査を十分にして一日も早く之を法律として出し、さうして獨逸に倣つて大英帝國の國民教育及青年致育と云ふものを盛に行はなければならぬ、と云ふ必要に驅られて左樣な決心を以て到頭此案を議會に提案したのであります。

當時文部大臣でありました「フイッシャー」は此の重大な法律案を議會に提案をしました場合に於て演說を致しました。

其演說の中に此青年教育としての實業補習教育、此爲に國家が義務的の制度を布いてさうして多くの國費を投じて教育を行ふことは一つの教育上の徵兵である、と云ふことを明に言つて居るのであります又其際の演說に於て、教育と云ふものは產業の發展國運の進步の爲に吾々が負擔する、一ッの租稅ある、故に吾々は教育の制度を改める爲に少しも費用を惜んではならない、斯う云ふやうな事を議會に臨んで

盛に申し述べて居るのであります。

斯の如く熱心に努力した結果千九百十七年に出しました、此改正教育法律案と云ふものは翌年の千九百十八年の八月に多少修正されましたが無事に議會を通過致しました、さうして法律となつて現れたのであります、で是で以て今日の英吉利の國民教育に關する立派な制度が確立致しましたのであります。

其大要を申上げますと從來英吉利では小學校教育と云ふものが甚だ不徹底でございまして、動もすれば免除であるとか或は猶豫であるとか云ふやうな關係より、實際義務教育を受けない者が多かつたのであります、而かも其修業年限も區々であつて之を獨逸の小學校の義務教育の制度に較べますと非常に拙かつたのであります、此制度を改めて全然取除け免除猶豫を設さぬことになりまして、さうして小學校の義務教育を一定に八ヶ年と云ふ事に規定を致しました、尙進んで小學校の義務教育の上に、更に實業補習教育の義務と云ふことを規定して、之を一般の國民に對し、義務教育として强制的に行ふやうにして小學校を卒業致しました者は、凡て、更に四ヶ年間一年に三百二十時間は必ず實業補習學校に出て、さうして國の授ける實業補習教育を受ける義務があると云ふことに極めて、之を、國内の大部分に命じたのであります、で之に依て將來英吉利は小學校の義務教育を終つて、更に一段高い一種の中等教育としての實業補習教育と云ふものを一般の國民にずつと授けてしまつて、將來の國民の素質を善くしやうと云ふ事にしたのであります。

此英吉利の思ひ切つた戰時中の教育法律の改正は、矢張亞米利加佛蘭西に於ても同樣に行はれました、米國に於きましては矢張此千九百十八年でありますが、英吉利に於て教育の新しい法律が出來た其當時に於て、上院議員「スミス」「ヒューズ」と云ふ二人の建議案が出ました、其建議案は大多數の賛成を得まして今日の亞米利加の職業教育振興條令と云ふのが出來たのであります、是の條令は非常に莫大な國庫の補助を以て一般に亞米利加の職業教育、殊に實業補習教育を義務にしてさうして亞米利加四十八州一般に之を施行すると云ふ精神の下に行はれたのでありますから、是が爲に今日は殆ど亞米利加全土は實業補習教育が徹底的に行はれることになつて居るのであります、又佛蘭西に於きましては丁度大戰爭の時分に大臣をして居りました「ピアーニー」と云ふ人が矢張佛蘭西の青年教育法案と云ふものを議會に提案を致しました、是は佛蘭西の下院を三度通過致しまして已に早く法律となつて現れて、英吉利、亞米利加同樣に將來の青年教育實業補習教育の本になる譯でありますが、或る事情の爲に上院の通過が困難であつて、今日迄佛蘭西では法律としては現れて居りませぬ、併ながら大體に於て世界の大勢は斯の如く大戰爭の半ばに於て、言ひ合したやうにお互に相談し合つたやうに、英吉利がやれば同時に亞米利加もやり佛蘭西もやり、各强國が相列んで實業補習教育の制度を完成しやうと思つてお互に努力したのであります、此點は餘程妙味の在る所でありまして、實業補習教育の一新時期革新期として吾々は今度の歐羅巴の大戰爭を考へると、彼のやうな大戰爭が斯の如き決心をそれ〴〵の强國に持たせたことは餘程考ふべき面白い問題であらうと思ひます、私は此歐羅巴の大戰爭が斯の如く言ひ合せたやうに列强國をして、國民教育制度の改正を急に思ひ立せて戰時中の大事な何を措いても、兎も角も教育の制度を

改めなければならぬと思はせた理由が三ッあると思ふのであります、其理由を三ッ算へて見たいと思ふのであります、今、其第一番には實業補習教育と云ふものは澤山の青年國民、若い國民の殆んど全體に對する教育であります關係上、此れが現代の國民教育の制度としては最も重大な教育制度となるのである、他の教育の機關他の教育の方法は幾らもありますけれども、實業補習教育の如く簡易にしてさうして多數の青年子女を教育し得る制度は外に例がないのであります、仍てそれ〴〵列强國は將來國民教育として努力すべき點は、此實業補習教育にあると云ふことを感じたに違ないと思ふのである。

それから今日の經濟上の戰爭に於て或は產業上の戰爭に於て、國家が一番先きに考へなければならぬ問題は一國の生產に從事する人如何の問題であります、其生產に從事する人は矢張今日の青年であります多數の若い國民であります、是等の人の頭を良くし、知識を磨いて置くことは卽ち其國が他國に對して經濟戰爭に於て列强國中に優秀の位置を占めることになるのであつて、此が其國を其青年の教育に依て守ると云ふ事にもなるのであります、斯う云ふやうな上から考へれば實業補習教育の制度と云ふものは、大變に良い制度であると思はれるのであります、此が第二の理由であります。

それから第三番目には將來國家として立派な國民を養成せんとせば、單に知識の教育だけではいかない、どうしても國民道德或は公民道德として優れた國民を養成せなければならぬ、それで小學校の教育に於てはまだ生徒の年齡が若い爲に十分な國民的、道德を施すには未だ十分の時期でないのであります、卽ち、小學校に於ては公民的教育を施すには、稍々不便な點が多いのであります、併し實業補習學校に於て青年子女に授ける公民教育及び國民道德と云ふものは國民教育全體から見ると、非常に結果が宜いのでありますから、それ故に、將來道德的素質の立派な國民を得やうと思ふならば、どうしても國家は、實業補習教育の制度を極めて、之に依て國民教育を行はなければならぬ、斯う云ふことを第三番目に考へるやうになつたのであります、是等が三ッの理由が卽ち歐羅巴の强國及亞米利加の國をして、斷乎として實業補習教育の制度の改正に對して、急に、思ひ切つたことをさせた理由となると思ふのであります。

尙ほ之を教育上青年教育と云ふもの丶上から一般的に考へて見まするとと、私共は矢張同樣に青年教育としての實業補習教育は、今日國民教育上必要であると云ふことの三つの要件を算へることが出來ると思ふのであります。

其第一番目には皆さんも御承知の通り實業補習教育は今日の國民教育と云ふものを或る意味からは延長することになるし、或る意味からは此教育を繼續することになります、國民教育として小學校の義務教育の年限は何年になるか八年にも十年にもすることが出來ませうけれども、小學校教育を終つて直ちに其儘生徒を社會に拋り出して、それ以後に於ては全然學校の教育と沒交渉にすることは、甚だ國民教育上不利な場合が多いのであります、國民としては洵に不仕合な點が多いのであります、それ故に小學校の義務教育を終つた者は更に一定の時間或る方法に依て實業補習教育を受けさせるやうにして、さうして一般の小學校の義務教育の間に折角立派に造られた小國民を、更に一層其質を善くし、之を惡くせ

ぬやうにすることは勿論其知識の分量をも減少せぬやうにして、更に之を立派な國民として造上げて行く制度が必要であるのであります、斯う云ふ風に教育の延長及繼續と云ふ上から申しますと、非常に此青年教育上實業補習教育の制度の價値があるのであります。

それからして又其次には公民教育と云ふ問題に進むのでありますが、「ケルシエンスタイナー」の申して居ります通の彼の公民教育の徹底と言ふことは小學校では餘程むづかしい、小學校に於ける公民的訓練は殆ど十分にやることが出來ないと云ふ事を申して居ります通り、年齢に於て漸く尋常小學校を卒業する時分には僅かに十三四歳で未だ無自覺の時代であるからであります、此點に於て今日の青年に對する公民的訓練と云ふことを小學校で十分に行ふことは洵に困難でありますが、實業補習學校制度は小學校を卒業致しまして、それから三年でも五年でも實際の生活に觸れながら今日の實情に應じ地方の情況に依て學校教育を受け、長いのは八年も實業補習學校に入つて居ることになつて居るのである、此間に於て教育者が立派な人であれば業務に從事しながら學校に於て教育を受けると言ふ所を利用して十分に公民教育を施すことが出來ます、殊に「ケルシエススタイナー」の申して居ります通り、又、今日の青年心理が十分に吾々に教へる如く、十四五歳から十八九歳が青年の心理狀態の最も危險な時期である、此時期に彼等に對して適當の教育を施し適當の指導を與へて、さうして正當の訓練を施すことは國民教育上最も必要なことで最も有効なことである、斯う云ふやうな點から申しますると吾々は青年教育上公民教育を施すのは、此時期が最も有効な時期であると考へるのであります、即ち、吾々は國民教育を徹底すると言ふ上から第二に實業補習教育制度の必要なることを主張するのであります。

第三番目には職業準備教育であります、小學校の教育は國民教育として兎も角も良い日本人を造ると云ふ理想の下に、少年を完全なる人に仕立る、良い人と云ふ國民の人格的基礎を造つてやるのでありますす、別に小學校を卒業したから理想的店員となれる或は立派な給仕が出來る或は立派に子守が出來る立派に米が作れると云ふ譯には行かない、それらは小學校の教育の目的ではないからであります、それ故に小學校を卒業したから直ぐに手紙が書けない、或は使に出して役に立たない店の用事に使つても一向どうも間に合はない、と云ふ事の批評をするのは誤つて居るのでありまして、決して小學校の教育と云ふものは其樣なものでない、併ながら小學校の教育其ものを以て直ちて將來の職業に間に合うものでないと云ふ風に小學校の教育を考へる以上、此小學校の卒業者が將來職業に就て間に合うやうにするには相當の職業準備の教育を要する、此教育の上から補習教育制度と云ふものが洵に必要なものになるのであります、そこで國民教育上小學校を卒業した者に或は四年或は五年或る種の職業教育を施しまして、之に依て小學校卒業生が將來或る職業に就く時のために其職業に關する色々の豫備知識或は豫備的訓練を授けることを必要とするのであります、それが爲に其卒業生が將來其職業に就て段々伸びて行くのに、大變都合が宜いやうな教育を受けることが出來るのである、是が實業補習教育が職業教育と云ふ意味に於て國民教育上必要な制度とせられる第三の理由となるのであります。

此國民教育と云ふものを繼續して行ふことや、公民教育を最も有効に授けることや、職業準備教育を

行ふことは教育の一般の理論の上からして實業補習教育制度の必要と云ふことを主張する三大主張となるのであります、斯の如き譯合で我日本の國民教育制度中にも實業補習教育の制度と言ふものが出來たのでございます我國の此の實業教育の制度は御承知の通り明治二十三年の十月小學令の規則の中に初めて、實業補習學校を小學校の種類とすると云ふことを書いたのであります、詰り小學校の規則の中に宿借をして實業補習學校の規定を設けたのであります、是は恰も初に申しました「ザクゼン」の補習學校の規則が、小學校に關する法律と云ふ中に於て極められたと同じやうな意味でありまして、初めて實業補習教育制度の設けられた其當時は斯う云ふやうな、一種の宿借の形を取るのは已むを得なかつたのであります、それから明治二十六年十一月に初めて獨立した補習教育の規定が出來ました、更に三十五年一月に新しく改正を加へまして第三回の補習學校の規定が出まして、更に最近に一昨年大正九年の十二月の實業學校令の改正と共に、省令で以て實業補習學校規程と云ふのが出來たのでございます、で從來明治二十三年から此方實業補習學校規程は幾度か改正されて居ります、けれども實業補習學校教育の目的と云ふものに付ては、餘り委しい條項がなかつたのでありまして明治二十六年には當時の文部大臣の詳しい訓令が出ましたが、其訓令の中に於て多少普通教育の補習としての實業補習教育のことが說いてありまして、吾々の承知して居る所であります。以上大臣の訓令以外に特別に實業補習教育の目的、と云ふ事に付ては委しく述べたところの規則はなかつたのであります、所が今回の文部省令で出しました實業補習學校規程は非常に詳細なものでありまして、此規程の中に於て實業補習教育の目的と云ふ事を明に規定して居ります、之に依て我國の實業補習教育の精神と云ふものが確に極つた譯であります、是は實業補習教育の制度と致しまして非常に大事な部分でありますから、此實業補習教育の目的に付て少しく申上げたいと思ひます。御承知の通り實業補習學校規定の第一條の中に、實業補習學校に於きましては職業に關する知識技能を授けると共に、國民生活に須要なる教育を爲すを本旨とす斯う云ふ風に極められてあります、職業に關する知職技能の教育と云ふのは即ち先程申しました通りに是が職業準備の教育であります、職業に關する教育であります。それから國民生活に須要なる教育と云ふものは、是は公民教育になるのであります、此規定の第一條は簡單に申上げますれば卽ち實業補習教育と云ふものは公民教育と職業教育とを、此所でやるものであると云ふことを申して宜いものであります、然らば此職業教育と云ふものは一體どう云ふやうな意味でありませうか、近來職業教育なる文字は段々盛に取扱はれまして、實業教育は段々盛になると共に職業教育に對する意見が色々雜誌や新聞に現れますが、此職業教育に二つの解釋があるのであります。

第一は職業に關しての職業準備教育を與へるのでありまして、職業準備の教育を施すこと是が即職業教育であると斯う云ふ解釋であります、もう少し委しく申上げますと、詰り、將來生徒の卒業の後の經濟的の生活に對して、一種の經濟的能力を與へるものが職業教育である、斯う云ふ風にも言はれるのであります。

其次に第二の職業教育に關する解釋は、職業教育と云ふものは職業を授くる事に依て、其授けられる

人間の人格の淘冶をやるのである、人格の訓練をやるのである職業と云ふものを授ける目的は、職業を授ける事に依て或は熱心とか勤勉とか、或は共同一致とか云ふやうなさう云ふ教育を施すのである、即ち職業を授けることによつて、ある教化を施すものが職業教育である、斯う云ふやうな二つの解釋があるのであります、で吾々は此三つの解釋に對しで何れを取るかが此職業教育に問題に付て大變なことになるのであります、そこで吾々は此職業教育の解釋に付ては其何れをも採るのであります、吾々は此職業教育に依て實業補習學校に於ては、一方に職業準備教育を施しまして更に職業準備教育を施すと同時に、此職業教育に依て一種の職業教化職業訓練と云ふものを生徒に與へるのであります、即ち職業と云ふものは人間社會の生活に大變大事なものであつて、此職業に依て人は其經濟的の能力を與へられる、所講生活と云ふものは職業に依て出來る、職業がなければ人間は經濟的獨立の生活は出來ない、人の厄介者になつて自分で獨立した生活は出來ない、さう云ふ所から申しますと非常に職業は大切なものであります、此職業と云ふものは之に依て人間の生活と云ふものに意義を與へるものである、獨逸の或る大學の先生の話に人間の一生と云ふものは唯自分一人が食べて行く、或は暮して行くと云ふ事では意義を爲さない、其人間の一生の生活が社會的に國家的に意義があり關係があつて初めて其人が人生の意義を爲すのである、斯う云ふ事を申して居ります、即ち、人間は唯個人として生活した時分には價値はないのである、社會に於ける一つの個人が國家の一つの公民として初めて其人の生存に意義がある、斯う云ふ事を申して居ります。斯う云ふ事から考へて見ましてもどうしても、人間の生活として意義のあるやうに教育をする爲には、社會的に國家的に有力な關係を持つた生活をするやうな國民の教育は、國家的に社會的に大なる意義のある生活をしやうとする立派な職業につき、國家社會と全體的に關係ある職業に奉仕すると云ふ決心を以て職業に從事しなければならぬ、即ち職業教育と云ふものは斯う云ふ場合には國家社會の安寧幸福に關係を持つのであります、斯うふ云やうな意味に於て吾々は職業教育と云ふものを主張するのであります、それで更に此職業教育に對しまして公民教育と言ふものは何であるかの問題でございます、然らば此公民教育と云ふものはどう云ふものであるか、公民教育と云ふものは立憲國民と致しまして立憲治下の國民と致しまして、其公共的生活に必要なる知識を授けると同時に、其道德を授けると云ふ事が國民の公民教育であるのであります、それ故に國家社會の組織の大要を知らせる、或は公共團體の組織を知らしめる、或は其内容を教へるとか、或は、國家の產業の組織其產業經營の一般を知らしめる、又社會國家の文化の發達の趨勢を授けると云ふやうなことや、又國民の保健の問題或は公衆衛生問題と云ふやうな事の今日の社會的生活に必要なることを教へなければならぬ、斯う云ふやうな事項に對して極めて國民の公共的生活に必要なる知識を授けまして、同時に其實踐的指導を行ひまして、之に對する訓練を施すのが公民教育であります。それ故に此公民教育と云ふものは餘程職業教育と關係の近いものでありますから、實業補習教育として吾々がやつて居る職業教育は之に則つて公民教育を施して行く爲めの教育で、公民教育は精神的道德方面の教育であるが其の訓練は職業教育によつて授けると斯う云ふ風に考へます、けれども實は此兩方のものは同じ目的を持つて居るのであります、公

民教育と云ふものは直接職業教育と相互に共鳴し相互に助合つて、さうして結局兩方が一つとなつて實業補習教育の目的を達することになるのであります、唯職業を持つてさうして職業上の熟練を持つて居ると云ふ事は、是は單純な功利的の職業教育でありましてそれ以上に其職業の熟練に加ふるに、其人の人格を造る事に依て職業教育の目的を達しなければならぬ、又此公民教育は職業教育の目的を達する上に必要な職業の堪能に必要な道德的要素に對して色々の知識を與へなければならぬ、斯う云ふ風にして此職業教育と公民教育とがお互に並行致しまして、さうして國民教育を行ふ、さう云ふ場合に國民に對して、一方に於ては此職業教育に依て個人の經濟的の能力を十分に喚起しまして、經濟的の能率の高い國民を養成すると同時に、一方に於ては此の公民的道德的の能率の高い立派な公民を養成することになるのであります、此二つのものを引括めて吾々は公民としての能率の高い國民と稱するのであります。此の公民としての能率の高い國民を養成することが實業補習教育の第一の目的になるのであります、然るに此職業教育公民教育の教授及訓練の方法に關しては色々方法がございます、單に第一條に書きました目的だけでは少し足りない點がありまのすで、更に此公民教育の方法に付て示す爲に實業補習學校の規程の第八條に於ては、委しく公民教育の方法に付て示して居るのであります、即ち「實業補習學校に於ては適當なる學科目の外法制上の知識其他公民として心得べき事項を授け兼ねて經濟觀念養成に努むることを要す」、斯う云ふ風に申して居りますのは是は公民教育の方法に付て述べたのであります、時間がございませぬから委しくお話することは出來ませぬ極く大體に致しますが、第八條の說明だけして置きます、それで我國實業補習教育の制度の上から、此教育の目的を論じますと只今申上げます通り職業教育と公民教育の此二つになるのであります、何れも其最後の目的は矢張立派な公民を造る、公民的能率の高い國民を造ることを目的として居るのであります、公民的能率の高いと云ふことは之を分析して考へますと、先に述べましたやうに一方に於ては道德能率の高いことである、他の方面に於ては、經濟的能率の高いことであります、で道德的能率の高いと云ふことは公民として立派な道德的德操を具へて居り、さうして常に職業に從事して居る場合に何時でも自分の一身と云ふことを考へると同時に、常に國家社會と云ふ廣い立場から問題を考へると云ふことが、此道德的の能率として必要の要素であります。近來能く農村あたりでは田舍で百姓をやつて居るのは實に詰らぬ洵に收入の點からは僅なものである、若し都會に出て車を挽けば一日に何圓と云ふ金になる、都會でなくても町に出て鐵道普請に從事すれば一日に三圓や四圓の金にはなる、然るに朝に月を踏んで田を耕し夕には星を頂いて家に歸つて僅に一日の收入が一圓五十錢、或は二圓であると歎ずるやうな傾向が今日の農村青年に多くありますが、公民教育の必要と云ふものは此所にあるのであります、農家に於て天然に接しましてさうして各々自分の鄕土で自分が田を耕して自分が工夫して其の收穫を得る、斯の如くにして自分が一粒の米を得る爲に汗の幾千粒と云ふものを費し、此勤勞の價によつて此國の食料の問題或は一國の此米の生產の問題に對して、どれ位の大なる國家的社會的關係を有意義に持つて居るかと云ふ事を考へなければならぬ、又之を考へなければ農業と云ふものゝ價値はないのであります、それを徒に農業に從事して居れば一日一圓五十錢

で町に出れば三圓になる、三圓は一圓五十錢の二倍であると唯單純に考へては、今日の道德的の能率は洵に低いと言はなければならぬのであります、先程獨逸の學者のお話を申しました通り獨逸の「メッサー」と云ふ學者は、人間の一生の意義は其人の働きが社會國家に關係を持ち初めて意義を爲すのである、其人が如何に立派な家に住み如何に立派な着物を着て居つても、一日に十萬圓儲けやうが百萬圓儲けやうが其人の働きと云ふものが其人の勤働が社會國家に對して、或る公益的關係を持ない場合には何等の生存の意義をなさないのである、それ故に誰でもやれるやうな鐵道工夫誰でもやれるやうな車を挽いて居ると云ふ事よりも、自分の熟練と自分の工風に依て初めて此米を作つたのである此麥は作られたのであると云ふやうな仕事であれば、さう云ふ事を自分がした場合に、其算盤勘定が假令一日の働きが、彼の町の勞働賃金の半額の一圓五十錢であつたとしても、其人の職業上の働きは社會的國家的に大なる意義を持つて居ると言はなければならぬ、斯う云ふやうな意味に於て將來此道德的の德操の上から、單に自分自身の問題を考へるのでなくして、自分自身の問題を考へると同時に國家社會と云ふものと、自分の仕事とが如何なる關係を持つて居るか、と云ふ事を考へるやうな國民を養成しなければならぬ、で又職業的能率に對する經濟的の能率でありますが、勿論獨立の生活をしなければ其人は社會的に立派な職業を持ち立派な生活をしたと云ふ事は言はれないのであります、で或る程度までは職業の熟練を持ち、其職業の堪能に依て相當の經濟的獨立的の生活を爲すことは必要であります、けれども單に澤山の金を儲ける澤山の賃金を得る、澤山の俸給を得る澤山の富を積むと云ふことは、決して公民教育の目的の全都ではないのであります、經濟的能率の高い、職業的熟練に依てさうして立派なものを生產する事は洵に結構であります、立派なものを造つて少しでも大なる利益を得る事も亦結構なことでありますが、併しそれよりも其立派なものを造つて、さうして、社會を益し國家を益すことを考へるのでなかつたならば、其人の經濟的の能率は本當に高いとは言へないのであります、で斯の如き意味に於て新しい實業補習學校の制度は、職業教育それから公民教育と云ふ二大眼目を掲げられたのであります、併ながら此二大眼目は決して別々のものでない、公民と云ふものは即ち職業教育を眞面目に授けられた人が、職業をやりながら其人が公民的の訓練を受け、公民的の道德を學んで居なければならぬと云ふことになります、又此公民教育を施すと云ふことそれ自身は既に熱心に其職業に從事することによつて、自分は社會的に他の人と共同して助け合ひ眞面目なものを生產すると云ふ、其精神を矢張公民教育の場合に大に授けなければならぬ、即ち此兩方の教育は別々の方面から見ても宜いのであります、けれども結局其目的の最高の理想は公民的能率の高い人を造ると言ふ事に過ぎないのであります、以上大體此公民教育職業教育に關するお話はそれまでに致して置きます。

時間がございませぬから我國の實業補習教育制度を極く概括して申上げます。我國の實業補習教育の現在の制度は既に皆さん御承知の通りでありまして、工業・農業・商業・水產・商船と云ふ五ツの種類の實業補習學校を設けまして、さうして何れも工業・農業・商業或は水產に於て男子及女子共に教育致すことになつて居ります、そして前期に於きましては商業工業或は農業水產は總て二ケ年、後期に於ては商業

工業が二ヶ年農業水産が三ヶ年と云ふことになつて居ります、是も大體に於て文部省から見て、日本の實業補習教育の制度は、今日の場合に於ては是れ位の年限が必要である、是れ位の年限が宜からうと云ふ事で極めたのでございまして、實際、是より長いのもあります、現に、地方に依りましては、前期二年後期三年其上に研究科を置くと云ふやうな所もございまして、長いのは尋常小學校を卒業してから八年と云ふやうなのもあります、斯う云ふ事も先程申上げました通り、今日の青年教育と云ふ上から申しますれば洵に必要なことでありますからして、一概に文部省の極めました、此四年或は五年の年限に今日の實業補習學校全體を定めてしまうと云ふことしないのであります、併ながら大體此教育をします上から考へて見ますると、餘り此年限が長くなりますとどうしても、其間に於て稍々教育の緊張を缺くと云ふ事がないとも限らぬので、どうしても前期二年後期約三年で、一ト切りと致しまして更に改めて研究科が一年、又は、高等補習學校が二ヶ年と言つたやうに致した方が洵に教育の方法から見て非常に都合が宜い、又隨つて結果から見ましても、さう云ふ方が常に緊張の程度を維持しまして結果が甚だ宜からうと、斯う云ふやうな考で大體の規則を一定を致しましたのであります、一定はしましたが決して是で劃一にやらうと云ふ精神ではないのでございます、此點はどうか十分に御諒解を願ひたいと思ひます、尙ほ前期及後期に於きましては一年に教授致します時間を定めまして、大體是位と云ふ例へば二百時間或は二百十時間以上の教授を必ずやると言ふことが必要であると考へまして、一年の教授時間と云ふものを極めましてはありますが、併ながら是も大體を極めたのでございまして、二百時間二百五十時間、或は三百時間、四百時間と云ふやうに、實業補習教育の教授時間數は千時間以上ありましても一向差支ないのでありますが、大體に於て時間の最少の標準を極めた譯であります、是も皆さんの實際實業補習教育を施す學校としての經營を試る上に於て、更に時間を增した方が宜いと云ふお考ならばどれ位お增しになつても宜からうと思ひます、又教授の時刻の如きも或は早朝もございませうし、或は午前午後にやるのもございませうし、或は晩方にやるのもありませうし或は一晩泊つて、其所で晩と朝とにやる宿泊教授と云ふ形式もございませう、斯う云ふものはそれ〴〵適當の方法に依て、其土地々々に適應するやうな時間に依て、學校の經營を爲さしめると云ふことも最も必要であります、それ故に實業補習學校は他の學校と違ひまして、午前何時から午後何時までと云ふやうな教授時間の標準と云ふものは一切極めて居りませぬ。其他實業補習教育の普及振興に關しまして必要な附帶的制度でありますが、其點に關しては茲に委しくは申上げられませぬが、先づ第一に必要なるものは教員養成の問題であります、是は實業補習學校の經營に付て最も必要な前提であります、所が今日はまだ法令が出まして日が淺うございますから、全國總て實業補習學校の先生を養成する場所は出來て居りませぬ、併ながら制度と致しましては御承知の通り、大正九年の十月の三十日に勅令を以ちまして、實業補習學校教員養成所令と云ふものを出しました、それに又省令で以て實業補習學校教員養成所施行規則と云ふものを出しまして、將來實業補習學校の教育に當る實業補習教員養成所の卒業生が、其中心になつて主として此教育を擔當することになります途だけは開かれてございます、併し是もまだ〴〵前途遼遠でございまして、斯う云ふ學

校から出た人が我國民教育の仕上げとも言ふべき實業補習教育に對しての大部分の責任を引受けるのはまだ〳〵長く掛るだらうと思ひます、尙將來皆樣の御盡力御同情を願はなければならぬと思ひます、其他實業補習教育制度に關係致します規程と致しましては、或は國庫補助の規定即ち實業補習教育の補助として、大正九年に約年額三十萬圓を國庫から出しまして、之を實業補習教育の專任教員の俸給を補充する費用にして居ります、尙ほ此金額は決して十分でありませぬので將來は總ての先生に對して、更に多額の費用を出すことが必要であると私は信じて居ります、又此新しい制度では學校及學校の職員に對しての待遇を形式上から稍々高めまして、實業補習學校長教員は一般に師範學校中學校其他同程度の校長及教員と同等の待遇を與へることにして居ります、斯う云ふやうな事も新しい制度としては特色のあるものであらうと思ふのであります、斯の如く致しまして我國の實業補習教育の制度は、其體を兎も角も大體に於て具へる時期に達したのでございます、併ながら斯の如き制度も實は之を運用する人の如何に依て、其教育の效果が大變に違ふのでございます、それ故に將來此教育の制度を運用する方々の御盡力に待なければならぬ事が多いだらうと思ひますのであります。

最後に簡單に私の意見を申上げたいと思ふのでありますが、それは中等教育と實業補習教育の關係に付ては、先程から述べるやうに、どうしても將來は產業の立國或は國力の充實と云ふことは將來吾々は國民教育上の主たる目的として進まなければならぬ大切な問題である、殊に實業補習教育と云ふものはさう云ふ事を目的にして教育をしなければならぬ、併ながらさう云ふ風に產業を以て國を起し、さうして國力を充實させると云ふことは、是は矢張大多數の青年の頭腦の問題である、大多數の青年の頭と知識との問題に依て解決せらるべきものでありまして、立派な制度が出來て居りましても本當の大數の人が此學校の教育を受け、本當に大多數の人が此制度に依て有效な實業補習教育を受けなければ、如何に立派な目的を叫んで居りましても、其效果を擧げることを期待することが出來ないのであります、極く新らしい統計に依りまして今日の我國現在の實業補習教育の情況を見ますのに、大正十年に於きましては全國の實業補習學校の數が、一萬四千五百でございます、此の一萬四千五百の中に收容して居ります生徒は、百二十萬人でございます、此の內に大正十年に新しく入學した生徒が四十八萬五千人であります、そして、之に要する實業補習教育の費用は六百萬圓と云ふことになつて居りますが、一校平均三百八十圓乃至四百圓と云ふことになつて居ります、此數字を大正元年と比較して見ますと、大正元年は實業補習學校の數が全國で七千三百校でありまして、今日の實業補習學校の數は約倍數になつて居るのであります、生徒の數は大正元年の三十五萬人に較べますと約三倍强になつて居ります、又一ヶ年內の入學を見ると大正元年に於ては漸く十九萬人であつたのでありますが、是は正しく三倍に增加して居ります、殊に又實業補習學校の經費の如きは大正元年の六十六萬圓に較べて見ると、大正十年は六百萬圓で約九倍强の增加を示して居ります、斯う云ふやうな事から考へて見ますると、我國の實業補習教育の制度は段々其の國民教育上の重大な精神を實際に行つて居る、一般に實業補習教育は段々進んで居ると確に明言が出來ると思ふのであります、

併ながら先刻來申上げました今日現代の青年の教育の上から言ふと、大事な將來の國家を托する所の青年の教育をする、非常に大事な、さうして非常な多數のもの丶教育機關である此實業補習教育に對して、僅に六百萬圓の經費で以ては決して吾々ぼ安心し、滿足することは出來ないのであります、又全國の小學校を卒業致しまして上の學校に進めない生徒の數は隨分澤山で、實業、補習學校に、約四十七萬人のものが一ヶ年に入學すると云ふことは決して少ない數ではない、之を將來十分に教育することは實業補習教育の任務である、殊に今日は都市の實業補習教育に於きましては、必しも二十歳未滿の青年ばかりに限りませぬ、二十歳以上の青年であつて學校に入ることの出來ない者は都市ばかりでなく、農村にも充ち滿ちて居ります、そして、前期二年後期二年若くは、三年とすれば先づ二年若くは三年の後期に入つて、實業補習教育の課程を學ぶべき人が隨分多いのであります、斯う云ふ後期の實業補習教育を受ける筈の青年、處女を多數集めて全部の人を一人も殘らず實業補習學校に收容するものとすれば、其數は約三百萬にも近いものには直ぐなるだらうと思ひます、前期を合すれば五百萬にも近い大數である、私共が實業補習教育は頗る意味の重い、大きな國民教育であると云ふのは此點であります、實業補習教育は國家としての重大な國民教育制度であると云ふのは此意味であります、而かも此教育は何等人に依て制限を受けませぬ學校の入學資格もない、又年齡にも制限はやかましくありませぬ、苟も將來勉强したい知識を磨きたい或は修養したいと云ふ青年があれば、實業補習學校は是等の青年の爲に自由に門戸を開放して居ります、さう云ふやうな機關でありますから其多數の生徒を十分に教育することになれば

是は實に立派な一ッの大量な機會均等の國民教育になると思ふのであります、斯の如き事から申しますれば實業補習教育は我國の將來の國運の發展上非常に大事な問題と思つて居るのであります、幸ひ吾々は斯の如く大事な實業補習教育の仕事に關係して居ることを非常に大なる光榮として居ります、どうか將來多數の皆さん方の一層の御同情に依りまして、折角成立致しました此實業補習教育の制度によつて實際に徹底的の效果を擧げ得られるやうに致したいと思ひまして、將來一層此方面の教育に御盡力を願ひたいと思ふのであります、少々急ぎましたのと私は別段此迄に多數の諸君の前で斯う云ふお話をした經驗もございませぬので、多數の皆さんに十分に徹底したお話をすることが出來兼ねましたと思ひます又所々一貫せぬやうな點があつたかと思ひますが、併し多數の皆さん方には非常に長い時間御謹聽下さいました事を厚く御禮を申上げます。（拍手）

經濟事情

帝國大學教授法學博士　河津　暹

私は只今御紹介を得ました河津でございます、今回實業補習教育に關する御協議並に講演がありますに付きまして、經濟事情に就てお話を申上げるやうにと云ふ御命令でございました、私の申上げやうと思ひまする事柄は、詰り我國の經濟狀態はどう云ふやうな狀態になつて居るか、と云ふ事の大體のお話を申上げたいと思ふのであります、更に其要點を摘んで申上げますれば、我國の經濟は目下の所非常に困難な狀態に居る、其困難な狀態に居ると云ふことは我國の經濟が謂はば非常にむつかしい狀態になつて居る、加ふるに色々外の國の競爭が中々激烈である、隨つて吾々は餘程此際に奮發をしなければならないものであらう、斯う云ふ事を申上げたい。現今に於きまして、諸國の經濟競爭と云ふものは中々激烈な狀態に居る、其現今に於て諸國の經濟競爭が激烈なる狀態に居ると云ふ事は詮じ詰めて見ますると云ふと、諸國が此歐羅巴の戰爭に依て非常なる打擊を被つた、其非常なる打擊なり非常なる損害を恢復しやうと云ふのには、迚も自分の國の市場を目安にして居つたのでは爲すことが出來ない、何故かならば自分の國の購買力或は需要と云ふことは著しく減退致して居る、隨つてどうしても此經濟上の損害を恢復しやうと云ふのには、戰爭に依て大した打擊を被らなかつた方面に市場を開拓致して、此方から

色々の利益を得て、之に依て自分の國の經濟恢復と云ふことをやらなければならない、斯う云ふやうな事が一ツの原因であります、もう一ツの原因は戰爭前に於きましては方々の國が、相當に東洋なり南洋なり或は其他の方面に於て市場を持つて居つた、所が戰爭が起りましてから此市場は交通の閉塞致しましたるが爲に大部分を失つてしまつた、其隙に乘じまして例へば我國の如き比較的有利なる狀態に居つた所のものは、其歐羅巴諸國の持つて居つた市場に代つて之を得ることが出來るやうになつた、併ながら再び平和が恢復致しまして後の歐羅巴諸國は、折角自分等が持つて居つた市場であるから、之を恢復しやうと考へることは理の當然であらうと存じます、其結果と致しまして中々猛烈に此市場を恢復しやうとし、今まで自分等が得て居つた所の市場が、外の國に依て奪はれて居つたものを恢復しやうと云ふ事の爲に非常に努力を爲しつゝある、是が第二の原因であります、第三の原因と致しましては此戰爭に依て相當利益を得た國がある、其最も顯著なるものは北米合衆國である、御承知の通り北米合衆國は戰前に於ては歐羅巴諸國に對して、寧ろ債務國で借金を致して居つた國であつた、所が今度の戰爭に於て此借金を返してしまつたのみならず、可なり大きなる債權國になることが出來た、併ながら是等の事に依て得たる所の資本を自分の國に於て使ふよりは、矢張方々に出してさうして自分の國の位置をより多く安固にしやうと云ふ事を考へるやうになつた、勿論戰爭中に於きましてさう云ふやうな計畫に依て色々の調査會が出來ましたし、色々の研究が起つたのでありまするが、詰り南米諸國並に東洋諸國に持つて參りまして、其自分の得たる所の資本を放資致しまして、之に依て大なる利益を得やうと云ふことを考へて出すやうになつて參りました、で御承知の通り昔から北米合衆國の國是と致しましては、所謂「モンロー」主義と云ふものがあつて「モンロー」主義は、亞米利加と云ふ所は亞米利加人の爲に在るものであつて、外の國の蠶食することを許さぬと云ふ事である、是は大統領の「モンロー」と云ふ人が言ひ出した事なんであります、其意味は歐羅巴の人が亞米利加に行つて居つて、利權を得たり地所を開拓したりなんかされては甚だ困る、さう云ふものに對して何所までも排斥すると云ふ意味なんであります、さうして申さば門戸を閉塞致して他國の侵蝕を防ぐと云ふ意味であります、併ながら近頃に於きましては此「モンロー」主義と云ふものが大分解釋が違つて參りました、成程亞米利加と云ふ所は歐羅巴諸國からの侵蝕は許さない、けれども亞米利加は東洋方面南洋方面に向つては、自分の勢力を扶殖することに些つとも抵觸するものではないと云ふやうに考へるやうになつて參りました、今申上げるやうに亞米利加のみならず他の國々に於きましても、戰爭に依て若干の利益を得たり或は苟も今まで何所からも侵害を被らなかつたところの國は、矢張何とかして此際に自分等の勢力を大に擴張しやうと云ふやうな意味に於きまして、それには迚も自分の國だけの事では駄目であるから、何所か新しい所の天地に其領土を得やうと云ふやうになつて參りました、斯う云ふやうな譯で方々の國の經濟競爭と云ふものは中々激烈なる狀態になつて居るのであります、でまだ其歐羅巴諸國は戰爭に因る疵が容易に恢復することが出來ませぬから、それ程甚しく此經濟競爭が現れては居ませぬが、其弱つて居りまするのを、恢復を致しまするため相當の努力を致しつゝあると云ふことは、疑を容れざる事實であります、而して外國の國々が經

濟競爭を致しますに付きましては、如何なる準備を致して居るかと云ふ事を極めて簡單に、其一二を申上げて見れば北米合衆國に於きましては、所謂經濟力保存の運動と云ふことが中々激烈に行はれて居る經濟力の保存運動と云ふことはどう云ふ事であるかと言へば、詰り自分の國の經濟力を濫に使はない浪費をしない、さうして之に依て自分の國の經濟の基礎を固くし、之に依て此經濟競爭に打勝たうと云ふ意味であります、此經濟力の保存運動（Conservation Movement）と云ふことは、何も今日に始まつた譯ではない、戰爭の初めから萠芽を發して居るのであります、一番初に於きまして「ハイゼ」と云ふ學者が、亞米利加に於ては森林がどつさりある其森林を濫伐をして顧ない、金にさへなればドン〳〵伐つてしまう、伐つてしまう許りでない算盤に合ふだけのものは使つて、合はないものは棄て〻顧みないと云ふ有樣であつた、それを見て今言つた「ハイゼ」と云ふ學者が是ではいかぬ、如何に北米合衆國の森林は豐富であるにしたところで、濫伐をして顧ないと云ふやうな事では自然の富源は長くは保つことが出來るものではない、それであるからしてどうしても斯樣な濫費をしないやうにしなければならぬ、と云ふ事を大聲疾呼して國民に訴へたのであります、それで「ハイゼ」と云ふ人が色々森林に對して無駄な事をした例を擧げて、それを恢復しやうと云ふのには非常に時間が掛る、伊太利の如きは矢張森林を濫伐したところの國であるが、其伊太利が森林の濫伐をして之を恢復致しまするが爲には二百年以上も掛つたのである、それであるから森林濫伐と云ふやうなことは何でもないやうな事であるが、併ながら是から生ずるところの害は經濟上に於て社會上に於て非常に大きなものである、それであるから詰り其經濟力を保存するが爲には、森林濫伐なんかをしてはいけないと云ふ警告を致した譯であります、併ながら其議論から推して行きまするとは、是れ以上の理由を以て此森林を濫伐するよりは尙ほ濫費をしてはいけないところのものがある、それは森林の如きものは申上げるまでもなく段々大きくなつて行くものであるから、植林の途を旨く立て〻置けば一方に於て濫伐を致したもの〻替りが出來るからまだ宜いのでありますが、例へば石炭の如き鐵の如き金の如き銀の如き鑛物のやうなものは、是は一旦掘出してしまへばもう再び之に代はるものを拵へる譯にはいかぬ性質のものである、それであるから若し濫費をしていけないと云ふ事が言へるならば、森林よりも寧ろ是等のものに向つて濫費をしてはいけないと言はなければならぬ理窟である、それで「ハイゼ」の議論が起つた所からそれならばそれより以上に、今の石炭の如き或は鐵の如き永久に無くなる性質のものを濫費しないやうにしなければならぬと言ふ者が大分出て來た、所で段々考へて見るとそれ許りでない若しや濫費をしていけないと云ふ事であるならば單り斯う云ふやうな自然の富源ばかりでない、吾々の勞働力吾々の力と云ふやうなものも濫費してはいけない、一國の經濟が發達して行くには勿論自然の力も必要である、けれども吾々の勞働力と云ふものは言ふまでもない非常に大事なものである、之を濫費すると云ふことは甚だ宜くない事である、詰り私共が色々の勞働問題なんかに付て議論を致して居るのは、それは人道からして勞働者の狀態は憐むべきであるから之を救はなければならぬと云ふ意味ばかりではない、それよりより以上の意味は一國の經濟の進んで行くのには、其國の勞働力の發達を圖らなければならぬ、勞働力の發達を圖るにはどうしても

色々の勞働條件の改善、賃金の增加、或は勞働者の知識の向上と云ふことを圖つて行かなければならんそれであるからそれが爲には大に其力を盡さなければならぬ、と云ふ考を私共は持つて居るのでありますが、斯樣に考へて見れば一國の勞働力は十分に發達させて行かなければならぬ性質のものである、所が現在に於ては自國の勞働力と云ふものを十分に發揮しつゝありはしない濫費をして居ることが隨分多い、それであるからどうしても勞働力の浪費をしないやうに無駄使をしないやうにして居なければ、一國の經濟の發展上に大なる害があるものである、斯う云ふことをやかましく言出して參りました、其意味に於て所謂經濟力保存運動と云ふものが起つて參りました、でそれの中心人物として前の大統領であつた「ルーズベルト」が、一生懸命に力を盡して此運動をやつて居るのであります、所で此經濟力の保存運動と云ふものは色々の形に現れて參りました、其一ッは所謂能率增進運動であります、で能率增進と云ふ事は我國なんかに於きましても、實際近頃に於ては多くの人々が頻りに議論をして居りまする所でありますから、自然皆さんも御承知の事であらうと思ふが、どうすれば吾々の勞働の効果をより多く擧げることが出來るかと云ふことである、多くの工場はあれだけの多數の勞働者を使つて居つて、色々の仕事を致して居るがそれがどうすれば十分の効果を擧げることが出來るやうにする事が出來るか、是が所謂能率增進と云ふことで如何なる力法に依て、此能率を增進すべきかと云ふことは今日に於ては色々の人が言つて居るところであります、それの先鞭を附けましたのは北米合衆國である、今申上げた經濟力保存運動と云ふものゝ一面に於ては此形に於て現れて來て居る、それで御承知の通り北米合衆國と云ふ所は非常に人間の賃金の高い勞働の高い所で、それであるから成たけ一面に於ては勞働を省いて、之に換へるに機械を以てする機械力を使つて、さうして此勞働を省いて行く事に一生懸命になつて居るそれは諸君は既に御承知のことであらうが、或る我國の實業家が亞米利加に行きまして歸つての感想の中に斯う云ふ事を言つて居る、自分は亞米利加に行きまして感じた事は文明と云ふものは捻るにある、捻るにあると云ふことはどう云ふ事であるかと言へば、例へば宿屋に於て日本ならば色々の人の手を使つて用を達すのである、併ながら北米合衆國と云ふ所は勞働に換ゆるに機械力を以てする國である、それであるから宿屋に參りましても高い所の部屋に行くには「エレベーター」に乘りそれで行く、三越なんかでもやつて居るのは人間が運轉する、併ながら北米合衆國では人間が高い所に行くにはそんな仕事はさせない、それで五階なら五階に行かうとするには捻りさへすれば「エレベーター」が上つて行く、五階に行つて捻りさへすれば「エレベーター」が止まる、又他人の部屋を捜すことも出來る又部屋に這入つても捻りさへすれば白湯も水も出て來る、或は捻りさへすれば照明も點く何をするにも少し手で捻つたり何んかするだけで用が便ずる、成程文明と云ふものは亞米利加に行つて見れば捻るにあると云ふ事を痛切に感じた、我國の實業家が行つてさう感じたと云ふのでありますが、捻るにありと云ふ事が餘程面白い私が言へば機械力を以て勞働力に換へると云ふ所であります、けれども唯機械力を以て勞働力に換へると云ふ事を言つたんでは面白くない、矢張文明は捻るにありと言つた方が餘程面白い、さう云ふやうな譯で一面に於ては又今申上げたやうに成たけ機械力を使つて、さうして勞働力を省かうとする

是が亞米利加の一ッの特徴である、併ながら機械力が如何に進んでも機械力のみで勞働力を使はないでやる譯には行かない、矢張人間を使はなければならぬ人間を使ふと云ふ事になれば、どうしても成たけ人間を少なくして成たけ各々のものをして大に働いて貰ふやうにしなければならぬと云ふ事が起つて來るのであります、能率が擧がるならば幾らでも賃金を出さう、成たけ人間は少なくしてそれだけの仕事の効果を擧げるやうにさせなければならぬ、さうしなければ雇ふ方の人から言ふても損である斯う云ふやうに考へるやうになつて來た、それが即ち能率增進と云ふ事である、此間亞米利加や歐羅巴を見て來られた我國の實業團の歸つての色々の報告の中に、其人は主に鑛山の方を注意して來た人でありますが亞米利加のやうな所では我國の鑛山の同じ位の採掘力を持つて居る所は、我國の之に使つて居る人間の數と亞米利加の鑛山に於て使はれて居る人間の數とを比較すれば、約三分の一である向ふは遙に少ないそれで立派に仕事をして居る、成程賃金は高い生活の程度も高い併ながら人間が少なくて、それだけの仕事をすると云ふ事を言つて居られました、實際に於きまして我國の鑛山なんかは人間を使ふことが多い、是は單り鑛山許りではありませぬが鑛山に於きましても、或は其他の色々のものに於きましても人間の使ひ方が多い、人間の使ひ方が多いと云ふことは一面から言ふと、其事自身だけに於て非常に費用が掛るばかりでなく、各々の者の能率がずつと減つてしまう又勞働能率と云ふものは一番低い所に行くもので、多數働きます中には懶け者の方に自然近いて行くものである、數が少なければ懶ける譯には行ないそれだから非常に數が少ないと統一が取れる、又能率が大に擧がるものである、所が我國なんかに於ては鑛山に限りませぬ、其他の工場に於ても人間が多過ぎる、人間が多過ぎる爲にそれは少ないよりは幾らか多く出來るか存じませぬ、けれども能率を考へて見れば非常に劣つて來るものである、それは吾々が體質やなんかに於て歐羅巴亞米利加なんかの人に較べて劣つて居ると云ふ譯もあるか知れぬが、併ながら今お話したやうに勞働能率は一番低い所のものに自然統一して來るものである、だから餘り多數の必要を超えた人があると却つて邪魔になるのみならず、必要の人間の勞働能率をも低下させるものである、それであるからどうすれば成たけ少ない人を使つて、さうして勞働の効果を擧げることが出來るであらうか、我國なんかに於ても近頃唱へられて居るが、亞米利加に於ては勞働能率增進と云ふ事が頻りに言はれて、「テーロア」の時間で働く勞働者は之に依て勞働を旨く結び付けて、各々の人が一生懸命に働くことが勞働能率を擧げる方法である、と斯う云ふ考へである是は其一端に過ぎないのでありますが、色々の形に於て勞働能率の增進と云ふことはやかましく言はれて居り、我國に於きましても近頃此勞働能率の增進は色々の人に依て頻りに唱へられて居ることであります、私共から申しますれば甚だ結構な事であると思つて居ります、其本は北米合衆國であるが、今の經濟力の保存運動の一ッとして變つたものである、是は又單り勞働能率の增進と云ふ事ばかりでない、段々考へて行くと色々の社會制度の上に於きまして、之を改めなければならぬものは幾らもあるが、社會も色々の制度を持つて居る。社変の方面なんかに於きましても、亦吾々の生活なんかの上に於きましても吾々の勞働力を濫に使つて居る場合が幾らもある、それであるから社會制度の改善並に吾々の生活の改善と云ふ運動が、矢張亞米利

加に於て頻りに起つて來て居る、近頃我國なんかに於きましても矢張此生活改善と云ふやうな運動或は色々の社會制度の改善と云ふやうな運動が、甚だ微力ではあるけれども御承知の通り起つて參りました、此點に於ても私共は甚だ結構な事であると思ふ、私の考へるところでは我國の色々の家庭の生活と云ふものは、お客さん本位になつて居る、例へば座敷を拵へると言へば一番良い位置の所を座敷にして居る、さうして大きな家ならば知らぬこと、それ程大きな家でなくても座敷だけは綺麗にして置き、そこで家族は小さい所の日當りの惡い所に住んだ居る、それで客室だけは一番良くして置くと云ふ事になつて居る、果してさう云ふやうな事にして良いかどうであるかと云ふ事は矢張問題の一ッになる、又我國の色々の家庭の生活難と云ふことから申しますれば人間が多う過ぎる、吾々のやうな者の家にも下女若干名を置いてやつて居る、それで御自身は横のものを縦にもしないであゝだ斯うだと言つて、さうして人を使う事ばかり考へて居る、それは甚だ間違つて居る事だと思ふ、それであるからしてどうすれば矢張亞米利加式に人間を多く使はずして、自分等の生活をして行く事が出來るか、と云ふやうな事を考へることも一ッの大きな問題である、又我國に於ては矢張葬祭本位でありまして、例へば多くの家庭に於きましても一年に一遍か二遍しか使はないやうな着物を買つて置かなければならぬ、勿體ない話でそんな事を廢めてしまへば餘程助かる、さう云ふやうな事も我國の此家庭生活の改善と云ふことの一ッの問題になる、斯う云ふやうな色々の方面に於て、色々の點に付て先覺者が御議論のあることでありますが、北米合衆國に於ては之を徹底的に社會制度をどう改めたならば、所謂勞働能率をもつと發揮せしめることが出來るか、どう云ふやうに吾々の生活を改善したならば宜いかと考へて居る、御承知の通り亞米利加には禁酒運動と云ふものがありました、此運動も詰りは生活改善の運動の一ッの現れに過ぎない、酒なんかは飲んでは色々の詰らぬ費用を使ひ第一身體を壞す勿體ない話である、殊に之に依て勞働力の半分は浪費されることに外ならない、そんな事は廢めやうぢやないと云ふ事が、此前の勞働力保存運動能率保存運動斯んな事をやかましく言つて居つた連中が、色々の婦人や坊さんやなんかと協力を致してやり出した一ッの事である、其効果がどのやうな所まで旨く行くかと云ふことは問題でありますけれども、併ながら其一ッ一ッの大きな運動であると云ふ事は疑はない、それで斯樣な經濟力を保存する無駄使をしない、さうして他日大に雄飛するところの本を拵へやうと云ふ事に於て、亞米利加では一生懸命になつてやつて居る、一體吾々の消費狀態を變へると云ふことは餘程むづかしい事である、けれどもそれにも拘らず一生懸命にやつて若干の効果は御承知の通り擧つて居る、近頃に於きましては英吉利に於きましても矢張同じやうな運動が起つて、どうすれば色々の經濟力を保存して無駄使をしないやうにすることが出來るか、と云ふ事の研究又運動が熱心に行はれて居るのであります、是は詰り今の諸國の經濟競爭に對する一ッの準備行爲である、と私は見て差支ない事であらうと存じます、又此經濟競爭に對する第二の準備と致しまして、方々の國殊に英吉利に於て致して居る所は戰前に於て獨逸が行つた所を研究をして、之を自分の國に應用しやうとするところのものであります、短い言葉で言へば經濟政策の獨逸化であります、御承知の通り獨逸と云ふ所は自然の富源はそれ程豐富でありませぬ、寧ろ貧弱な所であ

ります貧弱な國であるに拘らず、兎に角十九世紀の半ば以後に於きましてあれだけ經濟力を發達させる事が出來て、さうして正に英吉利の壘を廢することが出來る、と云ふやうな程度の經濟力を發達させることが出來た、それで戰爭になりましてからも御承知の通り、豪い強い國々を向ふに廻して兎も角もあれだけに自分の國を維持することが出來た、それは餘程經濟力が強くなければさう云ふ事は出來るものではございませぬ、さう云ふやうな次第でございますからして、どう云ふ所に於て此獨逸の經濟力を發達させたか、其原因が何時にあるか又どう云ふ方法を以て自然の經濟力を發達させたか、自然の富源はそれ程でないのにあれまでに發達させたのは、どう云ふやうな政策に依てなしたのであらうか、其事を一生懸命に研究することになつて來た。獨逸が貧弱なる富源を持ながらどうしてあれだけの經濟力を發達さすることが出來たか、其原因を段々研究して見ると、一ッは政府と國民、國と國民と云ふものが力を合せてさうして色々のことをやつたのである、殊に海外に出て販路を擴張すると云ふやうな事になりまするれば、是は政府も國民も一生懸命になつて、決して其間に矛盾がないやうに足並を揃へて相助けて、あれだけの力を發達させることに致したものである、此國家と或は政府と國民と云ふものは共同一致してやると云ふ事が、是が獨逸が經濟力を發達させて來た大きな原因である是が一ッと、尙ほ其外に引括めて申しまするとと組織的産業と云ふことである、組織的産業と云ふことはどう云ふ事であるかと言へば、決して産業を唯此自分達の勝手氣儘にしないと云ふことである、恰も戰爭なんかを致しますのに當つて烏合の衆では迚も勝つことは出來ない、軍隊的に結合して居るところで戰爭に强いのである、産業に於ても軍隊的にちやんと組織を立てゝそれで一糸亂さずして行くと云ふやうなやり方をする方がどうしたつて勝つ、此組織的産業と云ふことはどう云ふ事であるかと言へば、それの要素は三ッある。一ッはどう云ふやうに自分等の事業の經營を行つて行くかと云ふと、出來るだけ學問的に出來るだけ組織を立てゝ秩序紊れないやうにやつて行くと云ふことである、此點に於きましても我國なんかに於ては餘程學ぶべきところがあると思ふのです、御承知の通り我國の色々の事業の經營と云ふものは、それは例外は勿論ございませうが、大體から申しまするとまだ〳〵組織的には決してなつて居らぬ、それで前の獨逸の學者でもあり又戰時中に於て内務大臣をやつて居つた「ヘルプレッヒ」と云ふ人が、此點を說明致しまして詰り此色々の經濟を組織的にすると云ふことは、學問と技術と云ふものを結合させると云ふことである、又外の見方からは技術を經濟的にすると云ふことである、之に外ならぬと云ふ事を言つて居りますが、成程それでも說明することが出來るかと思ふ、先づ第一に十分に研究して置いてから計畫を立てる、計畫を立てるまでには出來るだけ遺憾のないやうに研究を致して、是ならば大丈夫だと云ふ事が分ればさうして計畫を立てる、計畫を立てた以上は着々として其方に進んで、どんな故障が起らうとそれに構はずしてやり通す、それだけの決心がなければ計畫はしない、と云ふやうな事で自分の事業の經營を組織的にする、我國に於ては其所までやつて居やしない、それだから其結果と云ふものは矢張旨く行かない、我國の色々な大きな資本家と向ふの資本家と較べて御覽になつても分る、向ふの資本家と云ふものは決して色々の種類の仕事なんかに手を出す人はない、自分の狹い撰んだところの仕事に向つて何

所までも突進する、所が我國の大金持、大なる資本家と云ふものは色々の仕事に手を出す、儲りさうなものであるならば何でもやる、勿論是は我國の經濟事情が甚だ狹いと云ふ事が大なる關係を以て居ることであるとは思ひます、けれども其樣な事ではいけない、一旦組織を立てゝさうして自分の撰んだところの事に何所までも何時までも之をやつて行くやうにしなければならぬものである、單り是ればかりでない色々の事情に於て、自分と同じやうな仕事をして居る者が互に競爭をする是は甚だ怪しからぬ事だ、今日に於ては競爭の爲に非常に力を盡し、或は團合に多くの資本を使ふと云ふ事は甚だ詰らぬことである、御承知の通り新聞なんかを御覽になると、彼の化粧品だとか藥だとか云ふやうなものになれば、新聞なんかの豪い廣告で競爭者を負して自分の方にお客樣を引張る、東京なんかでは芝居を利用して何とか「デー」と云ふやうな事を言つて、其時に行つてやればお土產に藥をやつて安く芝居を見せてやると云ふやうな事をして居る、吾々のやうな慾の深い奴が少しでも安く芝居を見ることが出來ると云ふやうな譯で、其樣な時に出掛けて行くのは甚だ結構なやうに思ふが、是等の費用は結局誰が負擔するかお客より外にありはしない、色々の化粧品が高く賣られる。詰りは其品物を高く買つた一般の需用者が出すのか賣る者が出すのか分らぬ、其樣な事までやつて居るそれは甚だ詰らぬやうな話である、其樣な事は詰らぬ話だから、競爭をしないで吾々の方で言ふ所謂起業の聯合或は起業の合同をする、例へば皆で値段を一定して賣る、或は是だけのものは必ず生產して賣るがそれ以外の者には賣らないと云ふやうな、所謂私共の方で言ふ起業の聯合をする、或は今まで競爭して居つた者が一ッに合同してしまう、さうして喧嘩をしないでやつて行く、亞米利加に於ての所謂「トラスト」は其顯著なる例である、其方が利口なやり方であるさうすれば競爭なんかに金を使ふことは要らない、卽ち需用者の吾〻の方の事を大に考へるならば成たけ生產費を安くして、さうして安く賣つて呉れることも自然出來る、今申した競爭の方に金を使はずにやる事も出來る、所謂需用者と供給者を互に結び合つてする、是も一ッの卽ち產業を組織的ならしめることである、細かい事を申すことは廢めますが、もう一ッの事は經濟の色々の機關なり商業の機關の間に大體に聯絡を造つてやる、聯絡がない中は駄目である例へば工業をやる者と銀行と云ふ機關の金融の聯絡がなければならぬ、又交通機關と云ふものが旨く聯絡しなかつたならば何の役にも立たない、交通の發達と云ふ事は詰り生產費を安くするのが主なる目的なのである、所が我國なんかに於ては此交通機關が甚だ惡い聯絡が旨く取れて居ない、只今に於きましても例へば、亞米利加から物を東京に輸入して參りますのに、亞米利加から橫濱に來まする費用と運賃と橫濱から東京まで來まする運賃が殆ど同じであると云ふことであります、片方は非常に遠い地球半分位廻るだけの所を持つて來るのと、一方の東京と橫濱間の運賃と殆ど同じである、と云ふやうな事は甚だ變な話であると言はなければならぬ、是は一例に過ぎませぬが工業に於ても卽ち工業をやるのに金融機關と聯絡がなければならぬ、又工業と交通機關とも旨く聯絡がなければならぬ、是等のものゝ聯絡が取れゝば產業を組織的ならしめると云ふ事になるのであります、それだから此事に就ては非常に考へて居るそれが旨く行つたが爲に獨逸は先きに申上げて居るやうに自然の富源がそれ程豐富でないにも拘らず、あれだけに經濟力を發達せ

しめることが出來たと斯う云ふ譯である、さうして見れば是は大に味うべき所の點があると斯う云ふやうな譯で、今まではさう云ふやうな方面に向つては殆ど注意を拂つて居りませぬでしたが、英吉利の如きも近頃に於きましては一生懸命になつて、此獨逸が如何にして經濟力を發達せしめたかと云ふことに付て研究を致して、さうして勿論採用すべきものも採用すべからざるものもございませうが、色々の調査をして良いものは之を採つて自分の國の經濟力を發達せしめて、世界市場に於て活躍しやうとして一生懸命になつて居る、ですから皮肉な人が言つて居るのに、英吉利は獨逸を戰爭では負した、併ながら色々の戰後の經濟と云ふ事に付ては獨逸に負かされたんだ、英吉利は獨逸の眞似をするやうになつた、斯う云ふやうな事を言つて居る人がありますが、それはどうでも宜い方々の國に於て、獨逸が自然の富源がそれ程豐富でないのに、あれだけに經濟力を發達せしめることが出來た、其原因がどう云ふ所にあるかと云ふ事を研究した、是は我國の如きに於ても大に味ひ大に學ぶ所があつて然るべきものと思ふ、私共は組織的產業と云ふことは甚だ必要であるし、又大なる利益のあるものであると云ふことを信じて疑はぬ一人でありますが、さう云ふ事に於て無頓着なる英吉利が、今日は其方面に於て一生懸命に力を盡すと云ふやうな狀態である、之をお話申しますれば此經濟競爭に向つてどうすれば大に發達する事が出來て外の競爭者を負して行くことが出來るかゝ分つて、其準備行爲であると云ふ事が分るのでありまして、第三の準備行爲と致しましては、是は戰爭が起ると同時に諸國が物價調節の上に向つて非常に力を盡して居ると云ふことです、で私が申すまでもない此物價が必要の度を超えて高くなつてしまうと云ふ事は、詰り其國の經濟發展を邪魔することになる、何故ならば成程物の價が高いと云ふことは其物を賣る人の爲に都合が宜いことかも知れない、併ながら急激に物の價が高くなると云ふ事になりますれば、其結果はどうであるかと言ひますれば社會の可なり多數の者が、是が爲に非常なる苦をしなければならぬ、買う人から言へば非常に苦まなければならぬと斯う思ふのです、それでありますからしてそれが爲には多勢の殊に社會の下の方に居る者が、生活を脅さるゝと云ふ事に自からなる、此生活が脅されゝば衣食足つて禮節を知るで、生活が困難になれば其先きは思想も惡化して、現に過激なる思想も起つて居る、尙ほ我國なんかに於ても色々の社會事業色々の事が出來て居りますが、併ながら私から言へば斯樣な事をするよりは物を安くする工夫をする方が餘程宜い、物を高くして置いてさうして一方に若干の成金を拵へて社會多數の者が物價が高い爲に苦むと云ふやうな事をすれば、何と言つても過激なる思想が起つて來るのが當然のことである、又色々な其位置を濫用することの出來るやうな位置に居る人は、生活に脅さるゝやうな事になると、皆が君子でないから色々の惡い事をするやうに自然になる、皆がさうなるとは申しませぬけれども矢張人間でありますから、美味しい物を食べたい美い着物を着たい樂な生活をしたい、と云ふ事の爲に自然に自分の持つて居る位置を濫用する、申さば袖の下を受けるやうな氣になる、一寸自分が頭を振るだけでどうでも出來る事が幾らもさう云ふ所にある人間が其地位を濫用する、所謂綱紀の廢頽綱紀の紊亂と云ふやうな事が起つて來るのは當り前の話だ、さう云ふやうな此社會上の害と云ふものが、矢張物の價が急激に高くなつたと云ふ事からして自然起つて來るものである。そ

んなら社會の下層の方の人間は物の價が高くでもなつて來れば、それに伴れて賃金は高くなるから宜いではないかと云ふ。即ち何時でも此問題は、斯う云ふ形になつて出て來るが物の價が高くなつて後とから追掛けて賃金が高くなるやうになつて來るのは事實である、所が今日に於きましても立派な人々が我國は勞働賃金が高いから物の價が下らないと云ふ事を言つて居るが、私共は其反對に物の價が安くならなければ勞働賃金はどうしたつて安くならない、賃金の高いのは一方の物の價の高いので起る、だから物が高いのに勞働者の賃金を引下げをやらうと言つて見ても何の役にも立たない、それを强ひてやれば色々の騷ぎが起る位の所が結局で、詰りさう云ふ結果になるから其樣な事をするよりは、寧ろ今申げたやうな矢張物の價を低くする方が宜いと斯う云ふ事が言へると思ふ、政治上に於きましても御承知の通りどうしても物の價が高い時に於ては非常に歳出が增すが、財政上の歳入がそれだけ伴つて參りませぬから、即ち歳出入の權衡が取れなくなると斯う云ふ事が言へる、どうしても財政は膨脹して困難にならざるを得ない、又經濟上から考へますれば是ではどうしたつて輸入超過にならざるを得ない、高い所に安い物は賣れますが高い物が安い方に賣れるものでございませぬ、それは近年の我國の狀態に付て御覽になつて見ても分る、我國は物の價が非常に高い物の價が高い、爲に輸入超過と云ふもの丶勢が凄じい、例へば我國は銅の產出國である銅の國であるが、其生產の分量に於ては世界の他の產出國に比べてそれ程優勢ではありませぬ、けれども我國の經濟から言へば我國は銅の產出國であるから、斯う云ふものは決して輸入されるものでないと私共は思つて居つた、所が近頃はドン〳〵亞米利加あたりからして銅が入つて來ると云ふやうな狀態である、我國が銅の輸入國になるなど丶云ふ事は夢にも思つて居なかつた、所が我國が物が高いが爲にさう云ふやうな結果を生じて來て居る、或は近頃我國には色々のものが方々から這入るやうになつて來た、御當地はどうであるか知れませぬが東京あたりへは支那から雨傘が頻りに這入つて來る、支那で拵へた傘をさして歩いて居るあんなものが這入つて來て居る、或は爪楊枝割箸のやうなものが亞米利加から這入つて來て居る、東京なんかに於きまして私共が蕎麥屋に行つて使つて居るところの箸の半分と言つてはどうだか、其大部分は亞米利加から這入つて來たものを使つて居ると云ふやうな狀態で、是は甚だ近い例に過ぎませぬが物の高い國からは、どうしたつて輸出する事が少なくなり輸入の多くなると云ふ事を例を以て申上げた事である、斯う云ふやうな問題から見ますればどうしても物の價を高くして置いては危險思想も起る國が旨く行かぬ、又經濟の發達を期して待つことが出來ない、それであるからどうしても物の價は安くしなければならぬが、歐羅巴諸國なんかに於きましては戰爭が起ると共に氣が附いた問題である、併ながら一方に於て此戰爭を致しますが爲にはどうしたつて、方々の國々に於きまして英吉利や亞米利加や北米合衆國や二三の國を除いて、其他の交戰國は皆今まで流通させて居つた金銀貨幣を廢めてしまつて、所謂不換紙幣の國になつた我國が丁度明治維新の際に於て不換紙幣國であつた如く、方々の國が不換紙幣の國になつた、それで戰爭をするが爲にどうしたつて何と言つた所で、どつさり紙幣を出さなければならぬけれどもそれは國を賭しての爭であるから、それで一生懸命になつて其戰爭を長くやつて行く爲には、紙幣の濫發を致したと斯う云ふやうな譯であ

る、通貨が膨脹して物價が高くなると云ふ事は、是はどうも仕方がないと云ふやうな狀態に於て、どう云ふ工合に通貨が膨脹し紙幣が濫發を致して居つたか、と云ふことを何所の國を例に取つて申上げても宜いのでありますが、假に佛蘭西を取つて申上げて見ると、佛蘭西に於ては佛蘭西銀行が是は日本で申すと日本銀行に當るのでありますが、其佛蘭西銀行が此戰時中に於きまして銀行券を盛に出した、其數でありますが例へば千九百十四年の六月の時に於きまして、佛蘭西銀行は六十億法の紙幣が出て居つた、それが千九百十四年十二月になりますると百〇一億法になつて、千九百十五年の六月には百二十二億法、同じく十二月には百三十三億法になつて居る、千九百十六年六月には百五十八億法になつて、十二月になりますると百六十六億法になつて居る、千九百十七年六月には百九十五億法になつて、十二月には二百二十七億法になつて居る、千九百十八年には二百八十五億法になつて、十二月になりますると三百〇二億法になつて居る、千九百十九年六月には三百四十四億法になつて居り、同じく十二月には三百七十二億法になつて居る、是は甚だ煩しい話でありますが、斯の如くドン〳〵ゑらい勢で不換紙幣になつて出て居るからどうしたつて物は高くならざるを得ない、物が高くならざるを得ないからして、自然に通貨は膨脹をする是は佛蘭西を例に取つたのであるが、獨逸もさうであり露西亞は尙ほさうである何所の國を例に取つても、其程度は違うけれども同一である。戰爭をする爲にどうしても是より外に仕方がない、今佛蘭西を例に取りましたが佛蘭西に於ては、どうして斯んなに不換紙幣が殖えたかと云ふと、佛蘭西銀行が斯の如く不換紙幣をどつさり出しましたのは、詰り政府に融通をしたんである政府に融通をしたが爲に出したので、政府は又戰爭をやるが爲に融通をさせた譯であります。それで佛蘭西は斯樣な借金の方法に依て戰爭の費用を辨じなくして、もつと多く租稅に訴へたならば宜いぢやアないか、と云ふ議論は佛蘭西に於てもあつた議論なんである、併ながら一方から考へるとそれはどうしてもさう行かない事があつた、何せかと言へば佛蘭西と云ふ國は最も經濟上優秀なる所の土地工業地と云ふものは、獨逸の軍隊に依て占領せられて大きさから言へば、全國の六分の一の面積は獨逸の軍隊に依て占領せられてしまつて居る、のみならず佛蘭西に於きましては男の二十歲からして四十七歲までの壯丁と云ふものは九百三十三萬人ある、其中に於て八百三十九萬人だけは戰爭に出て、壯丁の中の大部分と云ふものは戰爭に從事して居ると云ふやうな狀である、さうすれば家に殘つて居る者は老人か婦人か子供かと云ふやうな者ばかりである。迚も租稅の負擔力はどうしたつてありはしない、それに向つて多くの租稅を取ると云ふことは出來ない、斯う云ふやうな譯でお負に佛蘭西は財產が小さく劃れて居る、是は佛蘭西の相續制度が所謂數子分產の制度で、私に財產があれば私の子供五人なら五人に平等に分けてやるのが佛蘭西の制度である、それで財產が小さく分れて居る其爲に租稅を澤山取ることは出來ない、それであるから租稅を取ることをしないで、今申上げたやうな借金政策でやつて行くより仕方がない斯う云ふやうな次第でありました、さう云ふやうな譯で方々の國が戰爭の爲に通貨が膨脹して仕方がないのであります、けれども通貨の膨脹と云ふ事は甚だ面白くないことであるから、戰爭中に於ては國民生活の必要品と云ふものに向つては、色々の方法を以て値段を安くする工夫をして熱心にやつたものである、御

承知でもございませうが、英吉利に於きましても獨逸に於きましても、吾々の消費までも干渉を致してお前等は「パン」は斯う云ふ「パン」を食べなければならぬ、是より多くを食べてはいかぬと言つて獨逸なんかに於きましては、色々のやかましい所の規則が出來まして、例へば馬鈴薯なら馬鈴薯を皮を剝いて食べてはいかぬ皮の儘食べろ、皮を剝くと云ふとどうしても實の所の量が減る其樣な勿體ない事をしてはいかぬ、皮を剝くなら茹でゝ置いて後とで剝けさう云ふ細かい所まで干渉したものである、さうして一生懸命になつて吾々の生活を安くしやう、吾々の生活の費用を成たけ少なくしやうと云ふ事に鋭意熱心に努め、一方に於ては通貨が膨脹して居るから安くならぬやうになつて居りますけれども色々の物に對して政府が自分の方で或る値段を極めて、或は賣る者に金を與へて安くさせる等と云ふやうな事をして財政上に於て損をしても物を安くする事に一生懸命になつて居た、さう云ふやうに物を安くして賣ると云ふ事に付ては、通貨は大分膨脹して居るからでありますけれども、獨逸あたりに於きましては一年に五千六百萬馬克の金を政府が出して、色々の生活必要品を安く賣らせると云ふ事までやつて居る、どうもさうして國民の生活を安くさせなければ生産費が安くならない、それではどうしても生産が出來ないから生活を安くさせる爲に色々の方法が出て來る、併ながら通貨が非常に膨脹して居るからそれだけの効果が現れなかつた、それで戰爭が濟んでから今度は鋭意熱心に通貨の縮小と云ふ事に向つて力を盡しつゝある、所が果して通貨を縮小して行くことが出來るかどうかと言へば、是は何人と雖もそんなに妙案のあるものではない、どうしても歳入を多くして不換紙幣を少くするより外はない、我國に於ても明治十五年あたりに於てやつた如く、財政を整理して歳入を歳出に超過せしめて申さば金を溜める、財政を緊縮して金を溜める、其溜めた所の金で不換紙幣を償却して行くより外に方法はない、どんな豪い人が出て見てもそれより外に途はない、是はむづかしい問題であるけれどもそれより外に問題はない。だから佛蘭西に於きましては通貨を全然縮小して戰爭で濫費した不換紙幣を、是で段々返して行かうと斯う云ふ事を一生懸命になつてやつて居る、それで佛蘭西に於ては十二年經てば卽ち先程申上げた膨脹して居る通貨を元通りに直すことが出來ると云ふやうな計算を立てゝ居ります、十二年の間一生懸命に通貨の縮小をやり、經濟を元の形にすることが出來ると言つて鋭意熱心にやつて居る、勿論之には獨逸から取るところの償金が大變に關係がある、それであるから新聞なんかで見ても獨逸の償金問題は、世界の經濟に關係する大きな問題である、さうして御承知の通り是が這入つて來れば、大分經濟を元の形にするのに非常に都合が宜いことになつて來るのです、斯の如くにそれはほんの物價問題の一旦を申上げたに過ぎないけれども、方々の國に於ては戰時中に於て生活に必要品をうんと下げることを一生懸命になつて、戰後に於ては通貨の膨脹をうんと小さくすることを鋭意熱心にやつて居る、是は詰り申さば是から起つて來るところの諸國の經濟競爭と、云ふものに向つての準備行爲であると考へる事が出來る、其外にまだ色々な事をやつて居りますが、今後はどうしても方々の國々に於て經濟上の競爭と云ふものが、激烈に起つて來ることを豫測を致しまして其準備の爲めであると云ふやうな狀態である、所が此點に於きまして我國の如きは如何なものであうませうか、それは若干は斯う云ふやうな事に付て議論する

人もある、又政府なんかに於きましても斯う云ふ方面に若干は氣が附いて居ります、併ながら政府の行ふところのものも甚だ範圍の狹いもので、國民も此問題に付てはそれ程熱心になつて居はしない、物價問題なんかに於きましても前に申上げたやうに色々の關係があるものであるに拘らず、一向國民は此問題を解決しやうとはして居らない、それであるから却て戰爭に直接關係して段々苦んだところの國の方が我國に較べて物價が安くなつて來て、隨つて尙ほ我國の方は輸入超過がドン〳〵のると云ふやうな譯であるから甚だまづい狀態にある、此問題を解決しないで即ち我國の經濟を元の形にしないで置いて、此我國の經濟の發達をさせると云ふ事は到底出來るものではないと私共は思つて居る、物價問題に付て今申上げた色々の問題或は經濟力保存の問題、或は色々の產業保護と云ふやうな問題に付ても吾々の大に考へて見なければならぬことがあり、又之を爲すことが出來なければ、我國の經濟を發達せしむることか出來るものでない、斯う云ふ事を私は申して憚らないと思ふのであります、是は主に歐米諸國が一生懸命にやつて居ることを申上げたので、我國の方に於てはそれに對する準備はして居らない、是は國民も考へなければならぬが、政府も大に考へて戴かなければならぬ、と云ふ事を大略を申上げたのであります。

之に加ふるにもつと近い所に我國に取つて大きな競爭者があることを附加へて申さなければならぬ、それは何所であるかと言へば支那であります、我國に於ては此支那の經濟と云ふ事に餘り注意する人が少ない、それで何だか支那と言へば我國に較べて迚も競爭することの出來ない國のやうに思つて居る、さう考へて居る人間も多い併しながら吾々の眼に多く映ずるものは、經濟上から言つても商賣は惡く狡猾に過ぐるし、工業や何かに於ては迚も歐羅巴は勿論我國なんかに較べても迚も較べものにならぬ程に考へて居る人が幾らもある、併しそれは今から致して十數年前の支那で今日の支那は決して其樣なものでない、今は御承知の通り內亂があつて騷いで居りますから、どう云ふやうな狀態になつて居るか分りませぬが、併ながら經濟上から觀察致しますと、支那は我國に較べて非常に怖い敵であると云ふことは、第一に支那は生活の費用が非常に安い同じやうな生活をすることになれば、支那人は我國に較べて二分の一で生活する隨つて賃金も安い、それで勞働の能率は我國に較べて優るとも決して劣つて居ない、元は支那人は或は威力を以て監督でもしなければ働ないものであると云ふやうな事を、我國なんかの多くの人に言はれて居つた所である、併ながら今日の支那の勞働者と云ふものは其樣な狀態ではない、勿論さう云ふ奴も居りますけれども大體から申しますると決してさう云ふやうなものではない、勞働能率は强くなつてそれで賃金が安く生活が安い、此點に付て考へて見ても非常に怖い敵であると云ふ事を言はざるを得ないのである、のみならず支那からして亞米利加なんかに行つて研究をして、先きに申上げたやうな工場管理或は勞働能率と云ふやうな事の增進に付て研究をした人が幾らもあり、是が國へ歸つて來て色々な事業を經營致して居ると云ふやうな譯である、又我國あたりから或は色々の技術者を招聘して自分等の生產を一生懸命になつてやつて居る、それで聞く所に據りますれば我國の東京の高等工業學校を出た人でも、支那の色々の地方の技師とか技術とか云ふ方面に亘つて三百人近くも行つて居る、是

は一ッ學校に過ぎないのでありますけれども、其以外に於ても日本や或は外國やからさう云ふやうな技術者を輸入して、鋭意熱心に産業を發達させつゝあると云ふやうな狀態である、是は我國の實際家が各々行つて見て皆異口同音に、日本では斯う云ふやうに物價が高く賃金が高く勞働能率が劣つて生活が高くては、迚も支那と競爭する事は出來ない、我國より支那に行く紡績業の絹織物毛織物なんかに致しましても、今後は向ふに行つて向ふで會社を拵へ工場を建てゝやるより外はないと言つて居る、それで亞米利加の人もやつて居り或は英吉利の人もやつて居るが、向ふに行つて是と競爭して打勝つより方法はない、どうしても我國に於て此事業をやつて行かうと云ふ事になれば、さう云ふ事にならざるを得ないと斯う云ふ事を申して居ります、さう云ふやうな次第でありまして段々考へて見ると、吾々が怖いと思ふのは矢張一面に於て歐米諸國との經濟競爭のある事は言ふまでもないが、又一面に於ては支那の經濟の發達が怖いので私が申上げるまでもない我國の經濟發達の一番の障害とする所は何所にあるかと云ふと詰り市場がない、我國が大きな仕事をしやうと云ふ事になれば一ッの障害になるものは市場がない、狹い土地で迚も日本はあれだけの人を持つて居るのではいけない、何所か外國に人物を吐かして行なければ外に工風はないと云ふことである、外國から買ひに來る事を努めるのも宜いかも知らぬが、それより積極的に考へて我國の人間はどうしたつて外の方に飛出して販路を擴張してやるより外に方法はない、詰り我國の經濟市場が狹いと云ふ事です、斯う云ふやうな風であるからどうしても我國から言へば、さうして經濟競爭をやつて行くより外に方法はない、經濟競爭をやつて行かうと云ふのにはどうすれば宜いかと言へば、方々の國に於て今一生懸命になつて只今申上げたことを皆力を盡して居るから、吾々も亦之に對抗して行くだけの事を大に考へて見なければならぬ、斯う云ふ事は明瞭な話であります、所が段々申上げた通り我國に於て吾々が此問題に付てそれだけの考を持つて居るか、否な考は持つて居るが、吾々は是等の事を實行しつゝあるかと言へば、甚だ殘念ながら此問題に付て十分なる考を持つて居らない、それで今日までやつて來たから我國の經濟界と云ふものが申さば行詰つた形になつて居る、で或る人は言つて居るもう大概此位で我經濟界も恢復するだらうと云ふが、中々さう旨く恢復するどころでない私共から言へばもう少しく惡くなるかも知れぬ、尤も是より惡いとなれば甚だ困る今年あたりが一番どん底で來年あたりは徐ろ〳〵恢復するかどうか私共には分らない、けれども今日位がどん底で是が段々恢復するかと云ふと、どうしたつて私共にはさう云ふ徵候が見えない、で私共は甚だ亂暴な議論のやうであるけれども、自から求めて物價を引下げて自から求めて不景氣にして來て、其不景氣を吾々が堪へ忍んで新規卷き直して經濟をやつて行くと云ふより外に方法はない、それまでの間は吾々はどんな苦しい思をしても、それを辛抱して行くより外に道はない斯う云ふ診斷である、私は斯う云ふやうな手段を以て、假令我國の經濟狀態は丁度腸窒扶斯などの患者が、豫後のやうな狀態で非常に何か物を食べたいのであるけれども、其所に於て宋襄の仁を出して色々ものを緩めたり物を食べたりすれば死んでしまうより外に仕方がない、どんなに空腹でも知らぬ顏をして居て、それでもう少し食べないで居さへすれば其内に恢復の時期に到達する、それをしないで何か茲に救濟の方法を講じなければならぬと言つ

で、或は通貨を膨脹したり或は急激な事をやつたりすると云ふ事は決して宜いことではない、東京なんかに於きましては不景氣直しに博覽會なんかやつて居るが、あんな事なんかは今申した窒扶斯の病氣をした後に「カステラ」位は宜からうとつ言て食べさして居るやうなもので、尙ほそれが爲には大工の手間が不足して建物が手遲れになつたやうなことで、又色々地方の者が東京に金を落した位で、茶番見たやうなもので花火を揚げるやうなものであります、其後とはどうであるかと云ふと必ず宜くないと云ふ惡い狀態で、私共から言ふと是はそんなに出鱈目な亂暴な議論でもない、さう云ふ豫言は確に當ると思ひます、勿論私共はお醫者さんとしても甚だ藪醫者だから當にはならぬけれども、併ながらさう云ふ今私が申したやうな事は傷寒論の一冊でも讀んだ人は知つて居る、吾々の方からは別に珍しい事でも何でもない當り前の事である、斯樣に我國の經濟狀態は行詰つた形にある、さうすれば矢張同じやうな處方を渡すより外に仕方がないと私共は思つて居る、其樣な事を今更上げても仕樣がありませぬが、併ながらどう申我國の經濟は今申上げたやうに甚だ行詰つた狀態にある、さうして暫くの間と云ふものは歐羅巴諸國の者は斯の如く骨を折つて居るのもあるし、我國に於ても戾るべき事件が彼方にで此方にもあると云ふ事を忘れてはならぬ、であるからそれに對抗して行くには國民も政府も此上大に奮發をしなければならんと云ふ事も絶叫して已まない譯である、是等の事を色々を數やなんかを擧げて細かく申すと長い時間を要することであらうと思ひますが、私は斯の如き我國の經濟を見、斯の如き歐羅巴諸國の人々が一生懸命になつて居る一端を申上げたに過ぎない、多少とも諸君の御參考にして下さる事が出來れば甚だ光榮と思ふのであります、私は唯經濟事情と云ふ御命令に依て極めて茫漠たる題の下に、私の若干承知致して居る所を申上げたに過ぎませぬ、是だけで御勘辨を願ひます。（拍手）

農村實業補習教育

東京帝國大學教授農學博士　澤村眞

諸君此度文部省に於きまして實業補習教育に關する講演會を當地に開催されまして、私も此機會に於きまして諸君にお目にかゝることを得まして、甚だ光榮に存じます。私の申上げます事柄は卽ち農村の實業補習教育と云ふことであります。私は御當地には二回參りまして、此前參りました時には公會堂が彼方に在つたかと覺えて居ります。其時は本縣で彌高神社の設立の記念講演會と云ふものを催されまして、それに出席を致したのであります。彌高神社に祭られて居ります人は、御承知の通り本縣に生まれられたところの偉大なる人物の御兩名であります。其一人は平田篤胤翁で一名は佐藤信淵翁であります。平田氏は國學の振興に就て非常に努力されまして、佐藤先生は產業の振興に就て日本に多大の貢献をせられた人であります。佐藤氏に付きましては本縣の產の事でもありまするし、能く皆さんも御承知でもありませうが、此お方は雄勝郡の產で先祖は直江山城守の臣下で代々醫業を營んで居りました。所が佐藤信淵翁の祖父さんは殖產興業に志を有たれて、鑛山の事を餘程研究された方ださうであります。それから信淵翁になりまして鑛山の方を止めて農業の方に志を立てられた。其農業の方に志を立てられた動機は何であるかと申しますると、信淵翁の著書は澤山ありますが、種樹園法と云ふ著書がありますで、

其書に書いてあります。其要領を申上げますと、田舍の狀態を見ると百姓は父母を養ふ衣食も足りないで、其妻が懷姙をしても內々で墮胎をする、或は子供を隱殺し子供を育てる事が出來ない。さう云ふやうな悲慘な事があるのは即ち衣食の足りない爲めである。自分はどうかして之を助けてやりたい。けれども自分の資力では之を救ふことは出來ないが、自分の家には代々農政殖產に關する研究をした事柄が澤山あるから、それを世間に公にして資力のある人に土地を開墾させて、さうして企業者も利益を得其餘慶を以て貧乏なる百姓も衣食が足りて、貧困の爲に殺さるべき所の小兒を救ふことも出來やう、と云ふ所から此本を公にすることにしたと云ふことが書かれてあります。

其時代から食糧問題は社會に於て隨分重要なものであつたと思ひますが、今日に至つては食糧問題は我國に於ても更に重大はる問題の一ッになつて居ります。人が生命を保つて行くには一定の養分を攝らなくてはならぬ。近頃の營養學の方で申しますと、一日に少なくとも二千四百五十「カロリー」を攝らなくてはならない。若し食物が不足を致すと云ふことであれば、或は元氣が衰へ精神も肉體も働きが鈍りまして、十分の勤勞を致すことも出來ない。其上に又傳染病と云ふやうなものにも冒され易くなる。例を擧げると獨逸と云ふやうな所では衛生の方の施設が隨分行屆いて居りまして、傳染病などは非常に少ないのであります。日本では小學校教員の結核病の多いことは一ッの著しき事實になつて居つたのである。是は多分彼の教壇に立つて「ボールド」を拭くと、白墨の粉が飛んで呼吸器に入るから結核病が多いだろふと云ふやうに思ふて居つたが、文部省の學校衛生の關係の人が獨逸へ行つて調べると、獨逸の小學校でも「ボールド」を使ふけれども教員に結核病は割合に少ない。是は全く教員と云ふ職業關係でない、其他の關係であるだらうと云ふ事であつた。それは一ッは衛生上の施設も行屆いて居ると云ふこともありましたらうが、結核病は營養との關係が非常に厚くて營養が惡いと結核病に罹り易い。其頃は獨逸あたりの小學校の教員は日本に較べて餘程待遇が宜かつた。隨つて營養の點に於ても缺ける所がなかつたが、近頃になつて獨逸は結核病が非常に多い。其外窒扶斯と云ふやうなものも餘程流行つて居る。是は戰爭の結果食物の缺乏になつた爲に營養の不良の爲であるらしい。さう云ふやふに食物の不足の爲に直接に飢餓に苦むことの外に、傳染病其他に惱まされることもあるし、それから又食物が不足すれば社會の人心が頗る險惡になる。英吉利の諺に「ハングリー、マン、イズ、アン、アンガリ、マン」飢えたる人は怒る人であると云ふのがある。食物が缺乏すると社會の全體の氣分が險惡になる。夫れで食物問題は適當に解決して國民の營養に缺けることのないやうに遺らなくちやアならぬ。

此食糧問題は一方に於ては食物の生產を多くすることで、一方に於ては食物を消費するもの所謂人口問題で此二ッの問題が聯關して居る。食糧は殖えなくても人口が增さなければ苦しいことはない。人口が增しても一方に食糧が增せば何にも問題はない。日本はとうであるかと申しますと、今日では人口の增すことに於ては世界無比と言つても宜いかも知れない。一年の間に千人に付て十三人位增して行き居る。何所の國でも人口は多くは增すと云ふやうな傾向になつて來ると云ふのは、一ッは醫術などが進步して不治の病とされた病氣も助かり、衛生思想が普及すれば傳染病で斃れる者も助かり、卽ち死亡率が

減るからであります。そこへ持つて來て食物の方はどうでありませうか。食糧に關する研究は中々近頃やかましくなつて、日本にも營養研究所と云ふ專門の場所も出來た位でありまして、何所の國でも食糧に關する研究は非常に重要視されて居ります。けれども食糧研究が進んでも食糧を減すと云ふ事に就ては、まだ一ッも成績が擧つて居らない。一方に於て食糧を消費する人口は遠慮なく增す傾向であるが、一方に於て食物を減ずると云ふやうな研究は成功して居らない。

是も色々考へて居る人もあるやうです。何か食物に依らず人間の生命を繋ぐ方法がありはすまいか。人間が食物を攝ると云ふのは、學問的に言へば食物の中に含まれて居る、蛋白質脂肪炭水化物と申すやうな養分を身體の細胞の中で分解して、其所に生ずる「エナージー」を以て或は筋力或は體溫に變して生きて行く爲めである。身體內に「エナージー」を生ずれば生命を繋げるといふことである。それで今日では蛋白質なり脂肪なり炭水化物なりを食物に依て得て、其「エナージー」に依て吾々の身體を養つて行き居るが、之を他の「エナージー」で間に合せることが出來はしないかと考へた人もある。電氣も熱も「エナージー」であるが、今一番安いのは電氣である。今日は電氣が旨く利用されて照明にも物を動す「モーター」にも電氣を利用して居る。電氣が一番安い「エナージー」であるから之を食物の代りにするやうな工風はあるまいかと研究した人がある。是が出來れば大變に結構な話で飯を食う代りに電線に捕まつて、それで生命が繋げるとなれば成程簡單なことであります。身體に「エナージー」の無くなつたのを、電氣で補充することが出來るかどうかと研究して見てたが、それはどうしても今日では出來ない。穀物の養分に含まれて居るところの「エナージー」を身體の中で新に發生して、それで養はなければならぬ。どうしても養分は生活に入用である。

それで此養分を工業的に拵へることが出來ないかと考へた。今では此養分をどうして造つて居るかといふと、植物を利用して空氣の炭酸を以て炭水化物とか蛋白質とか脂肪とかいふものを造らせて居る。即ち植物の生活力で吾々の要する養分を生產をして居ります。所が段々人が殖えて土地が足りなくなるので此食物を田や畑で作らないで化學の力で出來やしないかと工風した者もある。化學者はそれに就て是まで澤山研究して居りまして、今日に於きましては蛋白質なり脂肪なり或は炭水化物なりの養分を試驗管の中で拵へる。植物の力で造るのと異ならないものを、試驗管の中で拵へることに成功して居る。其中で一番むづかしいものは蛋白質の人造でありますが、蛋白質も御承知の通り十數年前に獨逸の「フイッシャー」といふ化學者は合成することに成功して居る。卽ち肥料などにある安母尼亞といふものを土臺としてアミノ酸といふものを造り、其アミノ酸を化合させて蛋白質に似寄つたポリペタイドといふ蛋白質に似寄つたものを造る。それから脂肪は是も矢張たしか本縣などで產出する石油にあるメタン瓦斯から造つた。それだから工業の力で食物を造ることも全く不可能の事ではないが、實際に於ては費用がかゝく掛つて經濟上計算に合はぬ。蛋白質のやうなものは鷄の卵に含まれて居るものは十錢か五錢で買はれるが、其雞の卵だけの蛋白質を人工で造らうとすると、數百圓數千圓の金が掛る。夫れで今日の所で養分は工場で生產するよりも植物を育てゝ、それに造らした方がずつと安く得られるから、食糧の問

題はも農業に依て解決しなければならない。之を工業に委せる事は出來ないのであります。

愈々農業に依て此問題を解決しやうとするならば、第一に考へなければならぬのは土地の事である。人は漸く增加致しますが土地には限りがある。日本は朝鮮臺灣を入れましてどれ位農業に土地を利用致して居るかと申しますと、丁度八百萬町歩あります。是を外國に較べて見ると外國の中でも獨逸を例に擧げますと、獨逸は戰爭前は國の面積は殆ど日本と同じく朝鮮臺灣を入れると日本が少し廣かつた。國の面積は日本獨逸略ぼ伯仲の間にあつたのであるが、日本では農業に用ゐる土地が僅か八百萬町歩であるのに對し、獨逸では三千五百萬町歩になつて居つて、四倍の耕地を持つて居つたのです。是は何が爲めであるかと申しますと獨逸あたりは平原が多く山が少ない。それだから隨分能く開墾が出來て居るが日本は海の中に突出した島國で山が何れも險しく勾配が甚しいから、開墾をすることが餘程困難で其爲に耕地が少ない。けれども將來此耕作面積を增すことが全く出來ぬかと云ふとさうではない。(表を示す)此所に簡單に書いてありますが、是が日本の人口と耕地並に收穫即ち食物生產高との比較であります。緣の線が人口であります。紫線が耕地面積、赤いのが一段歩の收穫で、青いのが一年間の米麥の收量です。米と麥が主なる食物だからこれだけを統計してあります。明治十五年に初めて統計が出來まして、明治十五年から大正八年までの間に人口の增した度合がどうであるかと申しますと。明治十五年を百とすると、大正八年は百五十三と云ふ指數になつて居ります。それから米麥の產額は明治十五年を百とすると、大正八年は百八十九になつて居ります。これまでは食物の增加率が人口のものより多かつたのであります。是はどう云ふ事から來るかと申しますと、即ち耕地面積が增して居る、田畑が開墾されて殖えた。それから一段歩の收量が段々農事の改良に依て增して、此二ッの結果から米麥の收量の高が增したのであります。大正八年位までは人口は殖えても食物も增したので餘りやかましい食糧問題も起らなかつた。今後人口が今日までの割合で增して參りますと、大正百五十年位までには七倍位の人口になる。それで此割合で米麥の產額が一緒に增して行けば宜しいのであります。けれども不幸にして農事の改良進歩が今日で止つてしまつて、もう食糧の生產が增さぬとなると、無論食糧は缺乏する、其度合はどうであるかと云ふことは此黃色の線で現してあります。大正八年では全國の米麥の產額を人口に割當ると、一人當り一石四斗七升になつて居ります、所が人口は遠慮なく增して農業の方は進歩が止つて食糧が愈々不足して參りますと、今から四十年後の大正五十年には九斗一升になります、それであるから丁度今日の一人當りの三分の二に減つてしまう、今から四十年の後になりますと、三度の食事を二度に減じなくちやアならぬと云ふ結果になる、是は不可能な事で出來る事ぢやアないから、其時になつたら必ず先程申しました通り、食糧缺之に依て起る色々の害が社會に現れるだらうと思ひます。

で或は外國から食物を輸入したら宜いぢやアないかと云ふ說も一部の經濟學者の唱へる所であるが、是も色々の點から不可能である、殊に此度の歐羅巴の戰爭につきて考へて見ますると、食物の自給自足と云ふことは國防の上に、非常に必要なることである事が示されて居ります、でどうしても食物の自給自足をやらなくちやアならぬ、それで人口は遠慮なく增す之を養ふだけの食物はどうすれば宜いかと申

しますと、第一には耕作面積を増すことに努めなくちやアならぬ。第二には一段歩の收穫を増すことに努めなくちやアならぬが、此二ツの事柄は可能であるだらうか、之を企てゝも、出來ない事であるならば此所で大に考へなくちやアならぬ、是は出來ることであるかどうかと申しますと、第一の耕地面積を増加することは先づ可能と思はれます。それで極くざつとした事を申しますと、農業に用るべき所の土地は非常に傾斜が甚しい所は駄目でありますが、傾斜の十五度以下の所であるならば、之を拓いて畑なり田なりにする事が出來る、で我國には十五度以下の土地が内地にどれ位あるかと申しますと、全面積の二十五「パーセント」あります。所で其中で實際今日田畑に使用されて居るものが幾らあるかと云ふと十四「パーセント」あります。其殘り即ち十一「パーセント」と云ふものは、まだ原野なり山林なりとして放置されて居る。實際に東北地方には全く平野でさうして草の生えるに委してある所が大分に見えます。是は東北地方ばかりではない都に近い例へば京都の船井郡の如きにも今日大きな原が殘つて居る。都に近い所にどうして斯んな原が棄てゝあるだらうかと調べて見ますると、これは例の酸性土壤で作物が出來なかつた爲めである。所が今日は酸性土壤も肥料のやり方で改良されるので、船井郡の農學校では土地を改良して立派な收穫を擧げて居るのです。それで不毛の土地も僅の改良を加へると立派な土地に改良される。先年農商務省から技師を各縣に派遣して、實際開墾の出來る土地がどれ程あるかを調べさせたが其報告を讀みますと朝鮮臺灣を除いた内地だけで、二百萬町歩の開墾する土地がある。今日は内地には六百萬町歩はない、五百五十萬町歩位のものでありますから、將來今日の田畑の半分位は増加する事が出來ることになる。それで十五度以下の傾斜の土地を是までのやうな速度で開墾すると、大正百二十七年まで掛らなければすつかり開墾が出來ぬ勘定になる。夫れで大正百二十七年までは耕地を増す事が可能である。

又一方に於て一段歩の收穫を増加することを圖つて行けば、人口が是までの速度で増して來るのでは左程食糧に窮することは無いと云ふ結論を得ることが出來るだらうと思ひます。で一段歩の收穫を増す方法であります。是はどうするかと申しますと農事の技術の改良である。例へば米麥の品種の改良と云ふことも其手段の一ツである、今日では農家は皆良い種を撰んで居ると云ふわけでない。若し良い種子のみを用ひたならば同じ土地で同じ氣候でも收穫は相應に増すに相違ない、現に米なども二石とか三石とか以上は取れぬと云ふ地方が多いが、九州あたりでは五石取つた者もある、多收穫の競爭などをやる時には六石取る者もある。それだから東北地方でも品種の改良を加へたならば、今よりも數倍の收穫を得ることも決して不可能でないと思ふ。品種の改良に依りまして作物の性質の變はると云ふ事の、最も著しいのは亞米利加の「ハンバー」と云ふ種物商が仙人掌を改良したことである、仙人掌は暖地では非常に能く蕃殖するものである、仙人掌は亞米利加の暖い所即ち墨西哥あたりには澤山野生のがあるが、あれは刺のある爲に牛馬に食はすことが出來ない、刺の無い仙人掌があつたならば牛や馬の飼料になるから、刺無し仙人掌を造らうとハンバーは品種改良の原則を應用して、到頭刺無し仙人掌を造り出した。品種の改良の方法に依りますれば今日一段歩二石外取れない米でも、六石も七石も取れるやうになるこ

とは無論可能と考へます。それから、病虫害の驅除の如きものでも完全に行へば全國に一割位の收穫を増すことは無論出來る。規に此農商務省の統計を見まするとと、十年前には全國の米の平均收穫高は一石五斗であつたが、今日全國平均は二石になつて居る。十年の間に二割五分増加されて居る、それでありますから耕作面積もまだ増すことも出來、一段歩の收穫も農家の努力に依ては之を増すことが出來るから、一方に人口が増加致しましても農事に改良を施すことを努めて行けば、其の食糧を得ることは決して出來ないことではない。

然し此事が出來ないかと云ふことは、第一に農業が盛になり農村が榮えるか否かと云ふ事に依て決するのである。農村が衰へて來れば食物の生産は不可能になる農村が衰へるのは卽ち農村を逃出す人が増すのであります。今日は各國に農村を脱走して都會に移ると云ふ風がある。其最も甚しい例は英吉利でありまして、英吉利では國民の七割以上は都會に住んで居て、僅に三割ほか田舍に住んで居らないから、英吉利人の食糧は英國に生産することが出來ないで皆他國から輸入する。自分の殖民地が澤山あるから多くは自分の殖民地から持つて來るが、兎に角海外から入れて居るでありますから、此前の戰爭の時には獨逸の潛航艇に非常に脅かされたのである。英吉利のやうな所では農村から都會に移る者が非常に多いか、何れの文明國でも段々此傾向が現れて來て居るのでありまして、日本も矢張其例に漏れず、田舍から都會に移る者が増す傾きである。其例を擧げますと明治四十二年から大正七年までの人口の増加率が、農村では四、二八「パーセント」でありますのに、都會では四一、一四「パーセント」である。都會の人口の増すのは農村の人口の増すのに較べて十倍になつて居ります。それから明治四十二年では農村に住ふ者が總人口の七十八「パーセント」でありましたが、大正七年には七十二「パーセント」に減つて居ります。斯樣に農村から都會の方に移住すると云ふ傾きがある、段々農村から都會に移住するやうになれば、農業は努力を要する業でありますから、農業が營めないやうになるのは言はずとも明かである。それで獨逸の如きは戰前には農村を脱け出すこと卽ち農村脱走を防ぐ事に付ては非常に苦心を致して居りました。

どうして農村を脱走する者がさう増すかと申しますと、其原因は凡そ次ぎの如きものであります。第一は青年が勞働を厭ふと云ふ事である。第二は教育の關係も農村脱走を促すことになる。それから田舍の生活は不便で不愉快であるやうな所から段々に都會に移る者もある、それから終りに殊に最も大なる原因をなして居るのは、農業の利益が少ないと考へることである。農家が農業は利益が少ないと云ふ事を認めるが爲に段々田舍を棄てゝ都會に出る、曾つて「ベーリー」と云ふ亞米利加の「コロネル」大學の學長、此人は數年前に日本に一寸見えた事がありますが、此人が農科の大學生に就て調査をして居ります。農家に生れた學生に就て家へ歸つて農業を營むかどうかと云ふ事を聞いた所が、家へ歸つて農業をやらぬと云ふ答をした者が大部分であつた、夫れで農業をやらぬと答へた者に就て何故家へ歸つて農業をやらぬかと云ふと、それには色々の答をする者がありましたけれども、其中四十「パーセント」は農業は利益が少ないから農業を家へ歸つてやらうとは思はないと云ふ答をして居る。其外は色々の理

由がありますが經つて多かつたのは、農業の利益の少ない事を認めたからである、それで農業の利益が少ないと認める爲に段々農業者の都會に移ると云ふ事が起る。農業家が農村を脱走する事を防がなくてはならぬが、其爲には或は小學校時代から勤勉の習慣を養ふやうにするとか、或は小學校で無謀な向上心を唆り立てぬやうに、實直に祖先の業を守るやうに敎へて行くと云ふやうな事も必要であらうと思ひますが、併しそれよりも最も大なる事は、農村に居る者は農業の利益が少なくて安住して居れぬ、で農業を棄てる者が多いから、農業の利益を增すやうに工風をしてやる事が、農村を繁昌させる最も肝要なる事柄であらうと思ひます、それで食糧問題の解決をするには、農村の脱走を防ぎ農業者を增すやうに圖らなければならぬ。

それに今一ツ我國に緊急な問題が起つて居りますのは、即ち思想問題であります。近頃は何れの階級にも思想の變動と云ふものがありますが、農業者は保守的であり、思想の變動は從來餘り無かつた階級であります、それで從來過激なる思想の如きは都會に起り、農村は常に穩健なる思想を持ちまして、社會の擾亂を防ぐと云ふやうな有樣で、都會は思想動搖の震源地であつて、田舍は思想動搖の防波堤であるやうな有樣でありました。所が近年は田舍にも思想の動搖が大分起つて來て、洵に寒心に堪へない次第であります、思想の動搖することに就て著しく認識されることは何であるかと申しますと、第一は農業者の社會的奉仕の觀念が大分缺之したと云ふ事であります。昔は農業者と云ふものは社會奉仕的行動が餘程顯著なものであつて、或る人が農業者を詠ひました歌に、

「此秋は水かあらしか知らぬども今日の務めに田草取るなり」

と云ふやうな事を申して居る。暑いにも寒いにも拘らず務めをするのは全く社會奉仕の意味であつたのである。所が近頃は社會奉仕に關する農業者の心理狀態はどう變じたかと申しますと、勿論ずつと田舍にはさう云ふ變りは無いかも知れませぬが、東京近傍でありますと社會奉仕と云ふやうな考は、農家の頭から全く無くなつてしまつたやうである。それはどう云ふ事柄で認めるかと申しますると、下肥取り即ち下掃除でありますが、下肥取りは大都會の周圍の農家の仕事になつて居ります。一番先きに之に依て町と周圍の農家と衝突したのが、名古屋市であつたが、それが近頃では東京あたりも此問題で苦むやうになつた。即ち段々農家の方で足下を見て附込んで下肥に因らせられるのであります。これは或は人造肥料などが澤山出來ますから、下肥のやうなものゝ需用が減つた事も原因をなすかも知せまぬけれども、農家が足下を附込で、下肥を取らなければ都會の方で弱るから、酌取料を澤山出すだらうと云ふ考が大部分であるやうである。東京あたりでは以前は下肥に對して農家の方から幾分かの代金を持つて來たのであるが、それが段々變つて今では代金を持つて來るどころではない。今度は下肥を取つて貰ふ方から農家の方に報酬を出すやうな事になりまして、今日ではどれ位出すのであるかと云ふと、一荷の下肥を取つて貰ふのに八十錢位は少なくも遣らなければならぬ。自分の友人などは郡部の畑の見える所で一度の下肥を取るのに十圓取られた。それは特別に惡い掃除屋でありませうが、兎に角下肥は矢張農家の入用な品物であるから、快く之を取つて田舍と町と社會は相持だから助合つて行くやうにして行つた

ら宜からうと思ふが、今日では高い酌取料を請求する事になつた。是なども社會奉仕の念が餘程薄くなつた爲めなのである。而して其結果はどうなるかと云ふと詰りは農家の方の損になるやうであります。

東京市の如きは酌取人の無い所から、遂には下肥は海に流してしまうと云ふ計畫を立てゝ今日頻に工事を進めて居ります、それで下肥を海に流してしまうと云ふ事になるですが、之を海に流してしまへばどうなるかと申しますと、東京二百萬の糞尿の中に含まれて居る植物の養分は隨分多い。一ッ窒素を例に擧げますと全國の肥料として用ゐて居る、窒素の百分の一に當るものが東京市の人糞尿に含まれて居る。それだから之を海に流してしまへば、全國の肥料の窒素の百分の一が無くなる譯である。窒素が僅に百分の一無くなるのは大した問題であるまいと思はれますけれど品物の不足が百分の一だから價の騰貴が百分の一で濟むかと云ふわけではない。米の不足が一割であるから、米價が一割騰貴して濟むかと云ふと、米價の騰貴は或は二倍或は三倍に及ぶ事がありますから、窒素が全國の百分の一だけ減少すれば窒素の肥料としての價が或は十分の一とか十分の二とか騰貴しやうと思ひます。併是も詰り社會奉仕の念か薄くなつて來た結果と思はなければならぬ。

社會奉仕の念の薄くなつた位ならまだ宜いのであります。けれども、思想の險惡と云ふやうな事が認められるやうでは憂慮に堪へぬのであります。それはどう云ふ場合で認めるかと申しまする、と地主小作人間の爭議の場合に一寸認められます。地主小作人の爭は屢々お聞きでありましたらうが、最も甚しいのは岐阜縣愛知縣あたりであります。これらの地方では小作人の方では組合を設け其組合の規約に背けば五百圓位の違約金を取り、公成證書を作つて皆之に聯盟して、さうして地主に小作料の減額を迫るのである。屢々地主を脅迫するのでありますから或る地主は土地を賣つて何所か外へ移住してしまはうと企て、居るやうであります。小作人は小作料を下げなければ土地を地主に返し又地主は安い小作料ら土地を引上げてしまうとか致して、斯う云ふ爭が起ると農業は能く營まれる事は出來ない。一地區の收量は減るから詰りは一國の食糧問題に影響するやうになるのです。

岐阜あたりの小作爭議は大分盛であるから、岐阜あたりの小作料は全國と較べて見て高いかと云ふと左程の違はない。全國の平均の小作料が二毛作田は一段歩一石一斗五升八合であります。それに對して岐阜の最も小作爭議の激しい所で一石一斗六升で、僅に一段歩に付て二合だけ小作料が高いに過ぎない。斯う云ふやうな小作問題の騷がしいのは、全然小作人の生活問題から起つて居るのであろふかと云ふと是は小作料が高いから苦しいと云ふ事ばかりで起つたのではないやうであります。どうも一方には思想の變化を起して居る爲めであるかゝ疑はれます。兎に角思想の變化が起りて、さうして小作爭議の赤みを帶びて來ると云ふやうな事があつては、非常に國の爲に憂ふべきことでありますから、小作爭議のやうなものは之を根絶やしにしなければならない。小作爭議が段々激しくなつて土地は地主に返してしまう、土地を耕作せぬと云ふ事になると、食糧問題にも影響する。

夫れで小作人地主間の關係を圓滿にして爭を絶滅させる事に努めなければならない。絶滅させる事に付ては、農商務省あたりでは餘程苦心をして今日では小作法の如きものを制定すると云ふやうな計畫も

あるのです。けれども斯う云ふ爭と云ふものは中々一片の法律で之を止めさせることは困難である。法律が幾ら出來ても實際に於て二者の感情がしつくり融和しなければ迚も爭の止まるものではない。それでどうすれば宜いかと云ふと、先づ一方に於ては地主の自覺を求めなければなりませぬ。地主が是までのやうに君主と云ふやうな考を持つて居つてはいけない。それから一方に於ては小作人の收入を增すことを圖らなくてはならぬ。地主も是までのやうに殿樣見たやうな氣で居ては困るから、是も小作人に同情して共に農事の收良と云ふ事に努めなくてはならぬ。又小作人の方は徒に小作料を下げて貰はぬでも農事を改良して農業の利益が增したならば自分の利益も自から增すことになるから農事の改良に努むればよい。例へば茲に小作料が一段歩一石とすると、其時に收穫が二石外ないならば收穫の半分を小作料として取られるから中々小作人も苦しい。併ながら農事が進歩して一段歩に付て三石取れるとしたならば、一石の小作料を納めても二石自分の手に殘るから、以前に較べると小作人の收入は二倍になることになる。さうすると別段地主と喧嘩をしなくても自分の生活を裕にするやうになる。これが地主小作人間の爭の最も安全な解決法ではないかと思ふ。

前に申しました通り農村の脫走を防いで農業を盛にし、又地主小作人の爭を絕つたお互に農事の改良に努めしめるには、農業の利益を增進するのが最善の手段と申さなければならぬ。農業の利益が減ればは地主小作人の喧嘩が起ると、農村を脫走して都會に移る者も澤山出來る。それで農業の利益を增すにはどうするかと云ふと、是は二ツの手段がある。其一ッは農業の技術を改善することである。卽ち生產を增すことで一段歩の收穫を增すと云ふことであります。もう一ッは農業の經濟の改良を圖ることである。農業の技術の改善を圖るにはどう云ふ手段があるかと申しますると、卽ち農學校なり或は農事試驗場なり其他で農業の技術に就て之を研究して、斯うすれば比較的收穫が增す斯うすれば品質の良いものが得られると云ふやうな事柄を研究して之を民間に宣傳することである。農業の技術の改善をする研究は一人々々でするより、試驗場なり學校なりに委せてやると宜いと思ふ。それから農業經濟の改善と云ふ事は是は政府の施設に依る外はない。今日の農業者の利益の薄いことは或は賣買或は金融と云ふ事の爲に多く不當なる損失を被つて居る爲めである。賣買などの場合でありますと、仲買など者の爲に賣る時には安く値切り倒されて、此方の入用な肥料なり農具なりは馬鹿に高い物を賣附けられる。賣買共に損害を被つて又金融の關係からは高い利息の金を借りなければならぬと云ふやうなことで、之が爲めに隨分收入を減せられて居る。こう云ふ事を防ぎ農家の經濟の改善を圖る爲に產業組合法農業倉庫法或は特殊銀行に就て法律も出來て居ります。

斯う云ふやうに農家の經濟を改善する仕組は立派に出來て居る。けれども斯んな仕組が出來ても之を利用する所の者の頭がなくては何にもならない。幾ら政府に於て色々の法律を拵へて農業の利益を增さうと云ふ手段を講じても、肝心な當局の農業者が薩張其知識がなくては、此施設を利用する事が出來ないから何にもならないのである。例へば產業組合法に依て色々の組合なるものを拵へても組合員が誠實でなければ折角出來た組合の爲に農家は却て損をする事もあり、又政府が試驗場などを拵へて色々研

究をして報告を公にしても、當業者が之を讀んで諒解することが出來て、さうして實地に應用して行なければ何の役にも立たぬ。實際農業の利益を增すには農業者が充分の知識を具へ、十分の德性を有つて居らなければ、幾ら政府が良い法を設けても一向役に立たぬのである。農業者の知識の啓發德性の涵養は農業教育に依て初めて遂行する事が出來る。故に農業の利益を增す手段は外にはない、農業教育を盛にして、農業者の知識技能を進めるやうにする事が、最も安全な最も確實な方法と考へられます。

然らば農業教育を盛にしてどれ位農業の利益が增すのであらうかと云ふと、日本には斯う云ふ問題に付て調べたのがありませぬが、亞米利加の「ニューヨーク」州で「リーク」と云ふ人が調べたでは同じやうな仕事をして居つても一年間の收入が、教育の程度に依て大變違ふ。即ち小學校卒業だけの農業者でありますと、一年の平均收入が三百十八弗であるが、中等學校を卒業して居るものであると六百二十二弗、大學を卒業した者では八百四十七弗と云ふやうに、教育の程度に依りまして收入が大變に違ふと云ふことを報告した居ります。それから又「ミゾーリー」州の農業者に就て調べたのがあります。小學校を卒業した許りの農業者の平均の收入と小學校を卒業して彼二年農業教育を受けた者との收入を比較して見ますると、小學卒業後二年餘計に農業教育を受けたものでありますと、其方の收入が七割以上多いです。斯樣に教育の程度に依て農業者の收入が增すと云ふことを示して居る。でありまするから亞米利加の諺に「多く儲けんと欲せば多く學べ」と云ふのがあります。即ち生活問題は教育問題と云ふことになるのであります。

それで農業の利益を增すと云ふ事に付ては、農業者に農業に關する知識を多く持たして行くことが、最も安全な確實な方法だらうと思ふ。所が農業と云ふものは比較的知識を要せぬもので、是までは百姓と云ふと無學なものゝ代表であるやうに思はれて居つた、けれども近頃では社會に立つて相當の利益を擧げて行くやうに、農業を營まうとするには、々知識を要するものである。寧ろ工業などの方が知識は比較的少なくても宜いのであります。と云ふのは工業でありますと分業が行はれて、下級の勞働者は頗る仕事が簡易で知識を餘り多く要せぬ。所が農業は昔から分業が行はれない職業である。分業が行はれないから何もかも一人でやらなければならぬ。それには相當の知識を持つて居らなければならぬと云ふ事になる。即ち農業の方でありますと耕作の外に蠶も飼はなければならぬ、牛馬も飼はなければならると云ふやうな事である。養蠶專門と云ふのは蠶種製造位であつて普通の農家では養蠶ばかりで生活する譯には行かない。養蠶もやれば米も作らなければならぬ麥も作らなければならぬ。さう云ふ事もあるし農業者の仕事は非常に複雜だから、各方面に亘つての知識を持なければならぬのみならず、其時代に適應する所の農業を營まうとするには、農業も進步して來るから其新しい知識の方に進んで行かなければならぬ。土地を耕作するのでも昔は鍬一本で耕作して居つた、所が鍬が進步して犁になつた、犁を用ゐれば馬や牛を飼養することの知識も持なければならぬ事になる、犁には牛や馬を用ゐるのが普通でありますが、それが今では牛や馬の代りに發動機を使ふから發動機に關する知識もなければならぬ更に又爆

發して耕作をする方法も或る所では行はれて居る。所々に「ダイナマイト」を埋めて導火線で一方から火を點けてパチ〳〵とやると土地が粉のやうに碎ける。かう云ふやうな事で農業者は新しい知識を持つて居なければならない。肥料でも昔は人糞〆粕のものであつたが、近頃は新しい肥料が出來て來て智利硝石、過燐酸石灰更に石灰窒素と云ふやうなものが段々殖える。新らしい肥料の知識を相當に持つて居らなければ農業は出來ない。それでありますから農業をするには比較的多くの知識を要する。無學な者は農業者と云ふやうな事を言つたのは昔の時代で、今日の農業者は複雜な色々な知識を持なければならぬと云ふ事になつて來た。隨つて農業の利益を增さうとするならば、農業に對しての知識を十分に具へて置かなければならぬ。

所で農業教育には今日本ではどう云ふ機關があるかと申しすまると、御承知の通り大學程度のものも專門學校程度のものもある。それから農業學校と云ふやうなものもありますが、併し農業學校以上の教育機關は是は、中農以上の子弟の入學すべき所でありまして、我國に於て最も多數を占めて居る、小農の子弟の入學する所は農業補習學校である。青年の教育が小學校級の教育だけでは不十分であると云ふ事は、世界一般に認めて居る事柄である。歐米などでは小學校の義務教育が七年乃至八年でありますが、義務教育を終つた者に男も女も更に二ヶ年乃至四ヶ年は補習を强制して居る國が澤山ある。所が日本はどうであるか、世界の三大强國の一ッとか言はれて居りながら、義務教育は僅に六ヶ年である。是ではどうしても不足である。無論補習教育の必要が他の國々に較べると一層大なるものである。所が今の日本の補習教育の狀態はどうであるか、振つて居るかと云ふと遺憾ながら餘り振つて居ると云ふ事は認められない。即ち全國には一萬二千の町村がありますけれども、實業補習學校を設けて居らない町村が三千もある。全町村の二割五分は補習學校に全く關係して居らぬ。それから又入學者に就て見ましても尋常小學校を卒業する者が九十八萬人あります。其外高等小學校を出る者が男女で四十五萬人ある。尋常を終つて高等小學や上級の學校に入る者が六十二萬人あります。それで尋常小學校を卒る九十八萬人と高等小學校を出る四十五萬人と合せて、百四十三萬人の中から上級の學校へ入る六十二萬を減じまして八十一萬人殘る。此八十一萬人の青年は何れの學校にも入り得ない者でありますから、是に補習學校へ入らなければならぬ。所が實際補習學校へ入學して居る者は僅に三十一萬人外ない。當然補習學校に入らなければならぬ者の中六十二「パーセント」即ち六割强は補習學校に這入らないと云ふ有樣であります。夫れで現在の補習教育は振つて居るとは認められぬのである。

併し補習教育は中々むづかしいものである。諸君は何れも御經驗のある事で其困難は御承知のことゝ思ひますが、色々の事情で經營難がありませうが廣く見渡した所で、此經營難は三ッの原因があるやうである。農村の補習學校は夜學であるから通學の困難な爲に、出席歩合なり入學者が少ないと云ふ事もある。それより大なる原因は、補習教育の效果が適切に現れないと云ふ事がある。第三には良い教員が得難いと云ふことがある。此三ッが農村の補習教育の振興を餘程妨げて居るやうであります。是は自分が日本の狀態を見て申すのであるが、獨逸あたりでも矢張此三ッの原因で苦しみて居ります。農村の補

習學校は夜學であるから通學が困難である。日本は獨逸から見ると、村が集團的であるから通學する距離は短い。尤も東北地方では冬は雪が降るから夜學に困るが、獨逸あたりでも此方と同じやうに雪の爲めに通學に困る夜學も工商業補習教育は都會であるから宜いが、農業補習教育には之が不利益なる點であります。

それから教育の效果の不明であると云ふことが補習教育の不振の原因の一ッになつて居りますが、是は農業と云ふ學問の性質が然らしめるものである。教育の效果の割合に早く分るのは讀書や數學のやうな學科である、所が農業であると學んだところの知識が實際に應用されることが直ぐ翌日出來るものでない。其教へられた知識が半年か一年の後に實地に應用されて實現されると云ふやうな事である。それから其教はつた事柄を實地にやつて見ても、それが其通りいかぬ事がある。農業は自然に支配されるものであるから、例へば斯う云ふやうな稻を植えて斯う云ふ肥料をやると良いと教はつても、氣候が惡かつたり何かすると幾ら稻の品種を良くし、幾ら肥料を選んでも收穫が少ないことがある。自然に支配されるから注意は非常に行屆いても、氣候が急に寒かつたり暴風雨があつたりすると收穫が惡くなる。それでありますから教つた事を實地にやつて見ても其通りに行かない事が大分多い。さうすると教授の效果が大部分疑はれる事になる。是が洵に困る事であるが、農業では今日教へた事が明日役に立つと云ふ譯にはいかぬ。けれども補習學校に於て教授するときには可成直ぐに役に立つやうな手近なことを授けるやうに、教材を撰擇する事が必要であります。補習學校でありますと生徒も大きいだけに頭も發達して居りますから、教材は前後の聯絡を多く考慮する必要が少ない。一時間に纏つた事で、それが實地に應用されると云ふやうな教材を撰ぶことが必要である。即ち補習學校教科の教材は斷片的で一時間に纏つたもので、前教授の聯絡などは多く考へぬで宜からうと思つて居るのであります。兎に角補習學校に於ての教授の效果が適切に現はれなければならぬ、と云ふ事は大切な條件でありますから其爲には補習學校の教員は、其村の實業狀態を詳に知ることが必要である。現に獨逸あたりでは補習學校の教員は村役場農會などの事務に携はる。村役場農會などの事務に携はると其村の產業狀態を詳に知つて適切な事柄が生徒に教へられる。要するに教授の效果の不明と云ふ事は農業補習學校の效果を大に疑はしめて不振を來す原因でありますから、此點に付ては大に工風する必要があらうと思ひます。

補習學校はどうも教員を得難い。此事は獨逸あたりでも大分苦心をして居つた所であります。即獨逸あたりでありますと、師範學校には農業科はない。師範學校に農業科がありませぬから、小學校の先生は農業の事は全く知らない。然るに補習學校は大抵小學校に附設して教授は小學校教員が受持つから農業を教へるのに大分困るのであります。隨つて適切に農業を教へるに付ては獨逸では餘程苦心して居る。或は巡回教師を補習學校の教員に兼務させて、それに農業を持たせると云ふやうな事もやつた。日本では師範學校に農業科がありますから小學校教員の多數は、深くはなくとも農業の事を知つて居るから、農村の補習學校には大變都合が宜い。然し充分なことを望めば專任教員を置くことであるが專任の教師を置く學校は今日は甚だ少ない。全國平均百校に就て僅に十四人で、あとの教員は皆兼任で片手間で教

へて居ると云ふ有樣である。專任教員を一番餘計に置いてあるのは滋賀縣でありまして、是が百校に付て八十三人ある。之に依りて長野縣では百校に付て六十六人です。文部省でも相當の補助を與へて專任教員を置くことを奬勵されて居ます。けれども、今申す通り其數は甚だ少ない。

今申す通り農業補習學校に付ての困難は三ッありますので、此三ッの困難を除くやうにすれば、農業補習教育は振興する。通學の困難を除くには教員の住宅を各部落に設け之を補習學校の分教場に充てれば宜いと思ひます。それから教育の效果を明にするには教材を撰ぶことに工風をすれば宜い。それから良教員を得難い事に付ては待遇の改善を圖つたら宜からう。近頃は餘程教員の待遇も宜しくはなりましたけれども、以前は獨逸あたりに較べては日本は甚しく劣つて居つた。戰爭前の話でありますが、獨逸の小學校の教員の俸給が郡會どは、一ヶ年二千七百七十五馬克乃至千三百八十八馬克、平均九百十八馬克であつて、さうしてそれに對して獨逸の總理大臣の年俸は、三萬六千馬克でありますから、總理大臣の年俸と教員の年俸と較べて見まするとと、其割合は總理大臣の俸給の五、一「パーセント」であります。日本はどうでありますかと、云ふと丁度同じ時代の高等小學校の教員が三十一圓の平均給で尋常小學校教員は二十六圓、之を平均して總理大臣の俸給に比べると僅か三「パーセント」に過ぎない。向ふは五「パーセント」此方は三「パーセント」と云ふ待遇で、獨逸に比ぶれば教員の待遇は甚だ薄かつたのであります。殊に補習學校のやうなものでありますと其待遇が益々薄いから、教員の熱心を減じはしまいかと思はれる。夫れで町村でもう少し奮發をして貰はなくちやアならぬ。要するに補習學校に投じて居る費用は甚だ輕少である。全國を平均して一校の經費が四百圓に過ぎない。全國で最も多く金を使つて居るのが滋賀縣でありまして、一校に對して一千三百五十五圓を費して居る。此滋賀縣は一番多く金を掛けて居るから先程申しました如く、專任教員も多く居る次第であります。

それで補習教育を振興するに付つて相當の金を使はなくてはいかぬのである。教育費を儉約するのは丁度食物を儉約するやうなものである。食物を儉約すれば營養不良になる。教育費を節約すれば、知識の營養不良で、終に身を亡す事になる。實業教育に資用を投ずるのは營利事業に投資すると同じやうなもので、其資本に依て卒業生が生産をして富を增して呉れるから、決して無駄にはならない。夫れで今少し費用を掛けて專任教員なども增し、さうして此教育の效果を擧げるやうに努めたいと思ひます。

（拍手）

都市實業補習教育

名古屋高等商業學校長文學博士　渡邊龍聖

今日諸君に我國教育制度上最も緊切なるところの實業補習教育に就て、卑見を開陳するの機會を得たことを非常に光榮に存する次第であります、暫くの間諸君の御清聽を煩したいと存じます。

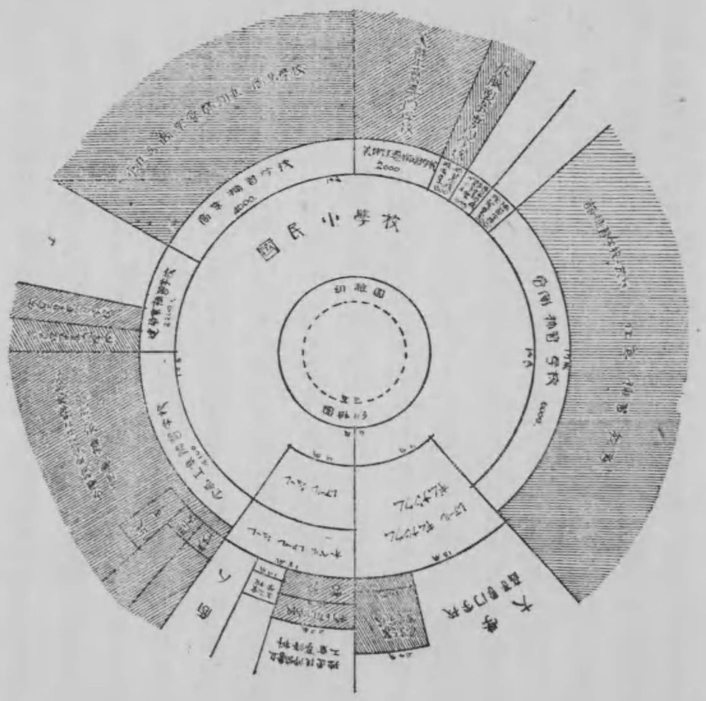
始に、世界、否な歐米諸國に於ける補習教育の大勢をお話致します、私は一昨年文部省から教育視察の命を受けまして、僅七ヶ月間でありましたが、歐米の教育の現狀を視察して參りました、彼の國に於て見たる狀態且つは幾分たりとも調査致したる事項に就て、諸君の御參考までにお話し致したいと存じます、歐米と申しましても、主として英獨米のお話を致す積りであります。

歐米各國中で、最も組織的の補習教育を、最も早く實施したるは獨逸聯邦であります、獨逸國の補習教育は、十六世紀に於て「バーヴアリア」と云ふ王國で、(其當時)日曜學校を開いたのが初めであります、時の政府は、男女とも滿十六歲以下の者は補習學校に出席するの義務ある事を規定致しました、併ながら、是は所謂宗教教育の意味であつて、今日我々の言ふ意義の補習教育ではありませぬ、千八百六十九年に同じく「バーヴアリア」王國で――間違ひました、千八百六十九年に北獨逸聯邦で、職業法令の中に實業補習學校の所在地に於ける、滿十八歲以下の勞働者は悉く就學の義務ある事を規定致しまし

た、是が實業補習教育と云ふ意味の義務補習教育の初めであります、補習教育の最近の意義は公民教育と云ふことであるので此意義の補習教育は千九百〇二年に「エーアフルト」の帝室學藝院で、「滿十四歳より二十歳に至る獨逸國青年の公民的訓練」と云ふ題で懸賞論文を募集したのであります、此懸賞論文に當選した人は、其當時「ミュンヘン」市の教育課長をして居つた「ゲオルグ、ケルシェンシタイナー」と云ふ人で、其當選論文の要旨は此期間に於ける獨逸青年の公民的訓練の最善方法は、實業義務補習教育であると云ふ結論をなしてあつたのであります、此論文が逸獨全帝國に於ける、否な寧ろ世界に於ける、補習教育の一新紀元をなしたと言つて差支ないと思ひます、斯くして獨逸の補習教育は相當古い、各聯邦の中で最も新しい聯邦でも義務補習教育を實施してから少なくも二十餘年を經過致して居ります、そこで獨逸國の現在は農工商の實業に從事する者は、農工商の專門教育を受けて居るか、左もなくば職業學校を卒業して居るか、左もなくば少なくとも己が從事する所の職業の補習教育を終つたる者のみであると云ふ事が出來るのであります、補習教育の眞の目的は公民訓練と云ふことである、けれども其訓練は各自の從事する職業を中心としての訓練でなければならぬ。で、斯の如き譯合で、獨逸に於ける各會社の職工、各商店の手代番頭は勿論料理人から理髮人に至るまでが、悉く自家の職業に相當の理解あり又必要なる知識技能を具へて居る者のみであると云ふ事が出來る、上には大學や專門學校で高等の職業教育を受けたる技師があり、下には職業學校若くは實業補習學校に於て、適切なる教を受けたる熟練職工があつて見れば、獨逸の產業は何としても振はざるを得ない譯である、是が歐米大戰開始前に獨逸國が世界を驚歎せしむる程の產業上の施設の進歩をなした所以であります、元來獨逸國民は普佛戰爭前までは詩人であり哲學者であり理想家であると言はれて居つた、ところが、彼の「フレデリッキ」大王が覇業を成し遂げた結果、普魯西は軍國として重きをなすに至りましたが、產業上や貿易上からは何等施設をなして居らなかつたのであります、國土は瘠せて居り國民は夢想的であり、迚も經濟的に大した膨脹の出來るものでないと認められて居つた國であります、其當時は、產業上又は貿易上からは英國の獨舞臺でありました、「イリサベス」時代からして鼓吹し來つた歷史的海外發展の政策、並に國民の自主的發展で日沒を見ざる產業的大帝國であり、產業と貿易とでは迚も他國の競爭を許さないと自からも認め、他からも認められたやうな狀態であつたのであります、然るに普佛戰爭後に於て俄に獨逸國が擡頭し來つたのであります、徐ろに外交上重きを加へ、押もせず押されもしないと云ふやうな强國になり又產業上からも此國民が知らず識らずの間に、他國の氣の附かぬ間に、異常の進歩發達を遂げたのであります、英吉利國民が自分の勢力範圍内と確信して居つたところの貿易市場が、何時の間にやら獨逸の市場と變りつゝあると云ふ狀態になつた、英國人は本來沈着である、又自負心の强い國民であると言はれて居る、此英吉利人が初めは他國民同樣に驚きの眼を見張つて獨逸產業の發展を眺めて居つた、併ながら遂には國民的嫉妬心を起さねばならぬやうな狀態になつて居た、そこで獨逸國が產業上斯の如き急速の進歩發展をなしたのは、何に原因するであらうか？……或は「カイゼル」や「ビスマルク」の軍國主義の副產物でないか？……或は佛蘭西から普佛戰爭の結果として得たる所の償金の賜物ではない

か？……或は獨逸國の學術の進歩大學教育の賜物ではないか？……など丶色々に解せられて居りましたが眞の原因は其等の何れにもあらずして、其實は、徹底的に行屆いたる所の實業補習教育と云ふことにあつたのであります、眞の原因は多年間實業補習教育を義務的に强制施行してあつたと云ふ事に依るのである、尤も英國の識者の中には既に十餘年前に於て、獨逸國の教育制度調査を命せられて其復命書に題して、「英國の商敵即ち獨逸實業義務補習教育」と云ふ題で報告書を出したものがありましたが、此報告書は其當時の英國民の眼からは別段注意されなかつたのであります、米國から歐洲に派遣せられ獨逸の教育制度を調査した人の中に既に十餘年前に此點に着眼した人もありました、チカゴ市商業倶樂部より派遣されたる「グレー」と云ふ人が獨逸の補習教育制度を徹底的に調査を致しまして「ヴオケーショナル、エジユケーション、イン、ユーロープ」と題して千九百十二年に出版致して居ります、併ながら是等は其當時の人々から何等の注意を引かなかつたのであります、獨逸の義務教育としての實業補習教育の效力が眞に認められたのは、今回の歐洲大戰以後の事であると言つて差支ないと思ひます、戰爭開始當時の輿論は、四面敵を引受けて居る所の獨逸は半年か一年の內に決定的勝利を得るなら兎に角、左もなくんば、產業機關の澁滯、物資の缺乏からして、到底長く支へることが出來ぬであらうと、世界各國からして思はれて居つたのであります、然るに開戰後豫期に反して、二年經つても三年經つても獨逸の產業機關は停滯致さなかつたのであります、四面敵に圍まれたる獨逸國の物資は缺乏致したには相違なけれども、臨機應變、急に處することが出來たのであります、是は要するに補習教育が徹底的に實施されてあつた所の賜物であると思はれる、實情から言へば、何れからでも物資の供給を受ける事の出來た所の聯合國の產業機關が却つて怪しくなつて來たと云ふ狀態でありました、そこで戰後の歐米の教育界の趨勢は全く實業教育振興熱で浮されて居る、と言つても過言でないと私は信じて居ます、殊に其最も重きを置いて居るのは義務補習教育の實施と云ふ事であります、米國は諸君が御承知の如く千九百十七年た「スミス」「ヒユーズ」法令が發布致されまして、中等程度以下の實業教育を國民に皷吹奬勵されました、其結果は各州競ふて續々義務補習教育令を發布致しつゝあると云ふやうな次第であります、一昨年十一月私が彼の地に行きました時に中央教育局の人の話には、四十八州中二十五州は既に義務補習教育令を發布致して居る、明年中には一二州を除くの外は悉く發布するであらうと云ふ事でありました、英國は翌年一千九百十八年に「フィンヤー」法令が發布されました、同法令の要項は四項ありまするが其最も重きをなして居るのは、第三項の義務補習教育に關する事項であります、又佛蘭西も同じく千九百十七年に時の文部大臣ヴイヴイアニ氏が義務補習教育法案を議會に提出致しました、是はまだ實施されて居りませぬが佛國に於ても近き將來に何等かの形式で其實施を見ること丶思ひます、で各國競ふて實業補習教育の義務實行をなして居る中に最も目覺しいのは米國であります、米國が最も目覺しき活動を致して居ります、一昨年十月でありましたが私が桑港へ上陸を致して、桑港の補習教育課を訪問致しましたところが、其補習教育課員は悉く警察官の徽章を着けて居る、それは何の爲めであるかと尋ねましたらば其答に義務補習教育を徹底的に實施するには少なくも警察官の權能を持つて强制施行せなけれ

ば徹底的の効果を收めることが出來ないと云ふ事でありました、是は僅に一例を擧げたに過ぎませぬが米國各都市で農村まで廻つて見ることは出來ませんでしたが、至る所補習教育の爲に努力して居る狀態は、唯々目覺しい、感心であると云ふ事の外はありませぬ、歐洲大戰が吾々に授けたる所の教訓は少なくありませぬ、併ながら其中で最も吾々を刺戟せるところのものは徹底的の國民教育と云ふ事であるのです、それは、理論や形式に囚はれた教育は其用を爲さぬ、又大學教育を盛にして少數の學者を拵へても、學者ばかりでは國家の維持は出來ないと云ふことである、國民全體の徹底的教育に俟たなければ眞に國家を維持することが出來ないと云ふ事であります、して見ると、今日までの世界各國の教育には獨逸を除くの外は、大なる缺陷があつたと言はなければならぬ。それは多數國民の子弟は小學教育以外に何等教育を受くべき機會が與へられぬからである、それで此缺陷を補ふには大學の教育の改善でもなければ專門學校の增設でもない、實業補習教育を義務教育とし廣く國民全體に亘つて徹底的に普及すると云ふ事でなければならないのです、そこで亞米利加では此補習教育義務施行令を稱して弱者保護法案と申して居ります、弱者保護法案……國民中の最も弱い者は誰であるか、資產あり、頭腦あつて、高等程度の教育を受けるところの者ではない、資產も無く、頭腦も乏しく、中等以上の教育を受ける事が出來なくして、小學卒業後直ちに職業に從事しなければならぬ、是等の小國民が所謂弱者である、而かも是等の國民が何れの國でも國民の大部分を占めて居る、之等弱者國民を保護するのが義務實業補習教育令である。と、斯く米國人は申して居るのであります。



補習教育の教育系統内に於ける位置と云ふ事に付て私は此に一言お話致したいと思ふ、補習教育は既に申しました如く獨逸以外の國では輓近までは教育正系統内に入れて置かなかつたのであります、最近までの傾向は補習教育はやつてもやらぬでもよい教育である、有益なる教育ではあるけれども、教育正系統内に入れて然るべき性質のものであるとは認められて居らなかつたのであります、唯單り獨逸が先刻御話したやうに古き時代から思ひ立ち二十年乃至三十年前から義務教育として努力し來つたのであります、其狀態は左圖に由りて諸君に御話致します左圖は大正十年二月調製したものでベルリン舊市（大ベルリンは二十有餘の市からなり其内最も古く且つ中心たるはベルリン舊市である）の教育狀態を圖解したものであります。

右圖は獨逸の教育系統を理解し易からしめん爲に拵へた圖であります、眞中の小圓は幼稚園であり子供が生るれば先づ家庭で保育し中には保育所に預けるものもある、次で幼稚園に入れる滿六歲からして國民小學に入學し滿九歲になると一部は中等學校に行き其他は國民小學に滿十四歲迄殘るのである、元來獨逸の教育系統は革命前までは二樣になつて居つたのであります、一方には多數國民の子弟はゲマイント、シューレー即ち國民小學に學び他方には少數國民の子弟は中等學校附設の「フォアシュレー」即ち豫備校に學ぶ、斯く二樣の教育制度になつて居つて、有産階級の子弟は國民小學校に入學せずして、直に中等學校に附屬して居る豫備校に入り其豫備校が三年、それから中等學校是が九年、此九ヶ年を經過すると大學或は高等專門學校に入る、斯う云ふ順序でありました、所が革命政府は中等學校附設の豫備校を撤廢し全國民の子弟は四ヶ年の基礎教育は國民小學に於て受けねばならぬと規定した、然し中等學校附設豫備校の修業年限は三年であるから差し當り國民小學に三年在學して中等學校に入學せしむることになつて居る、中等學校の種類は男子には三種あり女子にも亦三種ある乃で之等中等學校に行けぬ多數國民の子弟子女は八ヶ年の小學義務教育を終りたる後に中等學校に行くことは出來ぬそれは何等聯絡がないからである、それで八年の小學教育を終つたる所の者はどうするかと云ふと、八年の小學教育を終つた者は悉く實業に從事したり何かの仕事に就く、獨逸の公立職業紹介所は至つて行屆いたもので特に兒童の就職については親切に世話をする、小學校を卒業すると職業に就く、滿十四歲にして職業に就くと同時に補習教育を受ける義務が生ずる、補習學校には色々な種類がある商業補習學校、美術、工藝補習學校、被服業の補習學校、「パン」菓子製造業の補習學校、理髮業者の補習學校、一般勞働者の爲めの補習學校等實に多樣の補習學校がありまして如何なる職業に就ても滿十四歲から滿三ヶ年若くは四ヶ年此教育を引き續いて受ける所の義務がある、さて此補習教育を終つた者が尙ほ進んで教育を受けたいと云ふ志のあつた場合に於ては高等補習學校に行くことが出來る高等補習學校は義務ではない任意である、義務補習教育を完成したものは又職業專門學校に行くことが出來る、上級の專門學校にも色々の種類がありますから義務補習學校を終つて、尙ほ進んで各自の職業の專門教育を受けやうとする志すならば、自分の力量相當の教育を受けることが出來るやうになつて居る要するに國民が各自所屬の職業に付ては義務補習教育に始まり遂には最高の教育までを受

けることが出來るのである、中等學校出身でなければ無論大學教育は受ける事は出來ぬ、けれども自分の職業に付ては大學教育以上の實際教育が受けられるのである、學理は別として實際的見地から見るならば彼等は大學教育以上の教育を受け得るやうな制度になつてゐる、それであるからして獨逸の職業專門學校の入學規定には斯う云ふ條項がある、何ヶ年以上此職に從事したる者……唯何々學校を卒業したる者と云ふ事でなく何ヶ年以上其職業に從事したる者、例へば機械專門學校であるならば何年以上機械業に從事したるもの……斯う云ふ規定が設けてある、そこで兎に角小學校を卒業して實業に從事する者には補習教育が義務であり年をとつた即ち滿十八歳以上になつて尙ほ進んで自分の職業の高等教育を受けたいと云ふ志あり趣味ある者は、高等補習教育なり專門教育なり、受ける事が出來ることになつて居る、それであるから獨逸に於て國民教育系統の最も大切なのは國民小學教育義務補習教育、高等補習教育それからして各種の職業專門學校……是が國民教育系統の最も大切なる、大多數の國民に影響のある所の教育系統であるのです、一面には「ギムナジウム」「レアルギムナジウム」或は「レアルシューレー」斯う云ふ中等學校があつて、それから大學教育までも受けることが出來るが是は極く少數の國民の受くる教育で、大多數の國民の爲には補習教育を通じて徹底的に職業的國民教育を授けると云ふ事が獨逸教育制度の骨子である、勿論此二樣の教育系統を立てると云ふことが正當であるか、不正であるか公平であるか、不公平であるかと云ふ事は別問題である、是は別問題として兎に角此二種の教育は何れも徹底的に實施されて居ると云ふ點に獨逸教育制度の長所があるのです。

續いて私は是から歐米都市の補習教育の實際に付てお話を致します、先刻申上げましたくに實業補習教育の最近の意義で實施された最も古いのは、獨逸の「バーヴァリヤ」王國の「ミュンヘン」市であります、それでありますから「ミュンヘン」市の方からお話の端緒を開きます、さうして今回の巡廻には「ミュンヘン」市を見舞ふことは出來ませぬでしたが、今でも恐らくは「ミュンヘン」市の補習教育が全獨逸で最も進歩して居るものであらうと思ふのであります、是は要するに先刻お話をした同市前教育課長の「ケルシエンシウタイナー」の功績に歸さねばなりませぬ、彼れの教育上の主義は人格構成と云ふことであつたのです、所で彼れの人格構成は普通の人のそれとは全く違ふて居る、彼の意見では、言語、文章を授けるとか修身を授けるとか歴史を授けるとか云ふやうな、理論的學科で人格を構成することは出來ないことである、人格の構成は飽迄も學科に伴ふところの實地實行に俟たねばならぬ、との意見から「ミュンヘン」市の各學校に實驗室であるとか野菜栽培所であるとか、料理場であるとか製作工場機械工場と云ふやうなもの教育實習所を設け、さうして是等の實習所に於ける作業を以て、各學科の中心と致したのであります、言語の分解や發音の訂正や綴方讀方の練習で小學教育を始めるのは是は無益である、兒童は小學校家庭市街等に於ける事物の觀察に依りて、學校生活を始めなければならぬ、是等の觀察事項が讀方や綴方の基本となり又は圖畫算術地理歴史等の授業の材料とならねばならないのである、勿論教科書も必要であるけれども、教科書は生徒の現實生活及び是が興味を擴大補充するが爲に用ゐる所のものである、それ故に徒に教科書を記憶暗誦せしむるが如きは、實に無用の事柄である、入

學の初めからして卒業の時に至るまで、兒童を活動的存在として之を助成的に教育せねばならぬ、是が「ケルシエンシウタイナー」の教育主義である、教育の根本目的は人格を構成するにある、國民の人格を拵へるのであります、けれども其人格なるものは徒に說法で善くなるものでない、仕事をさせて善くしなければいけない、働かして善くしなければならぬ、兒童の活動に俟たねばならぬ、活動に依て人格を構成するのである、是が彼の教育上の主義であつて斯の如き主義見解をもつて居る「ケルシエンシウスタイナー」が千九百年に「ミユンヘン」市の補習教育の管轄を命ぜられ、爾來補習學校を改善し若くは新に補習學校を設立するところの權能を授けられたのである、それであるから彼が如何なる補習學校を拵へたのであらうか、殆ど想像に難からんことであります。

「ケルシエンシウタイナー」の補習學校の改善政策を項目に分けてお話を致します、第一、補習學校に各種の工場を設け、之を圖畫、數學、公民科は勿論、總ての學科の中心とすること、即ち工場を總べての學科の中心とすること、是が第一項です、其理由は學科の眞の興味は作業に關聯されて初めて生ずるものである、己が職業に熟達して其職業に愉快を感じ、其職業に愉快を感ずるに依りて益々感奮努力し、斯くして初めて善良なる公民となることが出來るのである、それであるから作業を中心としなければ善良なる公民となつて働くものを作り上げることは出來ぬ、働くと言つても何でもかんでもするのではない、己が職業に働くといふことである、然らばどうしたら己れが職業に能く働くやうになるであらうかと云ふに、少年が己が職業を理解して、少年が己が職業に熟練し、少年が己が職業を樂みとするやうになつて、初めて彼れが己が職業に專ら忠なる事が出來、斯くして始めて彼は善良なる國民となることが出來るのである、第二、補習教育の年限は男女共に滿十八歲までたるべきこと、理由公民教育は寧ろ滿十四歲より始めて然るべきものである、小學教育は滿十四歲で終り、公民教育は寧ろ滿十四歲で始めて然るべきである（獨逸は八ケ年の小學　育で滿十四歲で終るのであります）滿十四歲までの小學教育は年齡の關係上公民教育を施しても効能なし、又公民教育なるものは各自の職業を離れて之を施し得るものにあらず、子供に公民道德を授けて何になる、十や十二三の子供に公民道德を授けてそれが分るか、公民學科なるものは早くも十四歲以後に授けなければならないものである、それであるから滿十四歲までの小學教育だけでは到底公民道德などを授けられるものでない、又公民道德なるものは職業を離れて授けることの出來るものではない、して見ると職業教育を授けない小學教育で公民教育は出來難い、補習教育で職業教育を授け、此職業教育と共に公民道德を授けなければならぬ、且つ又滿十四歲より滿十八歲までは人生の一大危機である、最も危ない時機である、此時機に可憐の少年少女を社會の風潮に委して置くと云ふことは國家の爲政者の不親切と云はねばならぬ、此時機こそ教育者に由りて親切に監督されねばならぬ時機である、第三、義務補習教育は一週七時間乃至九時間とし、日曜以外の日に全日一回若くは半日宛五回晝間授業すること、理由、日曜や夜間に授業するは多大の勤勞を少年に課する譯で、自然、補習教育に對する嫌惡心を生ずる虞あり、晝間子供をこき使つて置いて、さうして尙ほ義務として日曜や夜分に授業を受けさすと云ふやうな殘酷な事が出來るか、大人でも其樣な義務には容易に堪へ

難い可憐なる少年少女に斯の如き過大なる義務を課することは沒人道である、そんなことをすれば、自然、補習教育は厭やな場所になり、興味もなければ趣味もなくなる、興味も趣味もなければ從つて効能を顯はし難い、(尤も獨逸では日曜日が國民全體の休み日ですから其積りでもお聽さい) 日曜日及夜間を任意補習教育に充つるは差支ない、即ち滿十八歲を經過して自から進んで尙ほ學びたしと希ふ者には日曜日や夜間な至極適當である、自から學びたいと云ふものには日曜日や夜間の授業は決して過重の勤勞ではない、第四、工業補習科に付ては二十人以上の徒弟ある職業に付ては其職業別に學級を設けること それから商業科は四通りに分けること、(1)食料品商、(2)銀行保險及書籍業、(3)織物裝飾品等の商業、(4)陶器金物類等の商業、之は簿記や計算を授ける都合上斯う云ふ工合に四通り分けたのである、第五、教員は總て實務に經驗あるものを囑托すること、尤も讀方書方算術等の普通科を教ふるには其資格あるものは何人でもよい、「ケルシエンシタイナー」の努力で「ミュンヘン」市の補習教育は大に振興し、十年を經過した千九百十年には、(同市其時の人口が五十八萬人)「ミュンヘン」市で義務補習教育を受ける者が、男子が九千人女子が七千五百人、任意補習教育を受ける男子が二千五百人女子が三千六百人、總計二萬二千六百人、是が私が同年同市に參つた時の狀態でありました。

次に伯林市の補習教育の狀態を一寸申上げます、伯林市の補習教育の狀態は昨年(大正十年)の一月に參觀致して參つたのでありますが、十年前の狀態に比しますると稍々見劣りが致したやうに感じました、それは生徒が少ないとか活氣がないとか云ふ事でありませぬ、設備其他に就て見劣が致したのでありますは全く大戰爭に伴ふたる財政的疲勞の結果と思ひます、併ながら大體としてに特に組織經營等に就ては十年前と別段變つて居りませぬ、「ミュンヘン」市の補習教育と伯林市の補習教育とを比較して見まするとミュンヘン」市は工場作業に非常に重きを置いて居つたのであります、が伯林市ではさして工場作業に重きを置いて居らないのであります、それで職業に依ては全然工場作業を授ける設備をして居りませぬ、伯林本市の或る補習學校長は斯んな事を申して居りました、「補習學校では作業に重きを置く必要はない、作業は彼等徒弟が日々自分の雇主の所で爲して居るから、學校では彼等が日々勤務して居る作業を能く理解せしめ十分に興味あらしめるやうに授業すれば宜いのである」斯う言つた校長があつた位であります。

普漏西では王朝時代即ち一千九百七年一月二十八日、實業補習學校の組織並に教案に關する規定が發布されて居ります、之れが今尙ほ適用されて居る現行規定であります、そこで現今の伯林市の補習教育は此規定に準據して實施れて居ります、之より私は簡單に此規定の要點を諸君にお話致します。

第一補習學校の職分は滿十四歲より滿十八歲までの靑年の職業的訓練を促進し且つ彼等を國民とし人間として有爲な者と爲すにある、第二學校の編成、學校の編成はどうするかと云ふと、一は生徒の數に依り二は其職業に依り、三は能力に依る斯う云ふ三ッの編成の仕方で生徒數、職業、能力の三ッを掛酌して學級を編成しなければならぬ、一學級の生徒數は原則としては三十名より多からず、又二十名より少からざるべし、三十名より多からずと云ふのは補習教育は個人教育をしなければならぬ、縱令學級數

育をなしても個人の特性に重きを置かなければならぬから數の多きは妨げになる、それ故に三十名より多からず、但し少いが宜いと言つても、經費や設備の關係があるから二十名より少からざるべし、第四一ヶ年の教授時間、最少が二百四十時間、之を四十週に區分する、一週の教授時數は普通六時間とす、次に時間割をどう云ふ工合に配當して居るか御參考の爲に一寸申上げます、一週の授業時數を六時間とし下の如く割當る、豫備級、上級、中級、下級と區分し（場合に依て豫備級を置かない事もある）豫備級にては二時間獨逸語二時間計算二時間圖畫計六時間、或は三時間又は四時間獨逸語三時間又は四時間計算計六時間、斯う云ふ工合に編成しても宜い、下級中級上級では職業及公民科二時間、計算及簿記二時間、圖畫二時間、計六時間、圖畫を必要とせざる「パン」燒、屠獸者等の如き職業には其專門學科二時間、或は業務及公民學科計算及簿記三時間圖畫及專門授業三時間、斯く總時數の半分は普通科半分は實科の方に使ふことになつて居ります、普國補習教育に就て特に注意すべきは學科編成上職業科と公民學科とを職業及公民科と總合して授業すると云ふ點である、何故分離して居らぬかと云ふことは、此補習學規定を讀んで見ますと自から其趣旨が明かになつて來ると思ひます、規定に職業並に公民學科の有する職分は(A)職業に對する生徒の理解を能ふ限り深くし彼等を思慮あり義務を知れる勞働者に教育すること、(B)個人に最も必要なる業務生活の知識を傳ふること、(C)個人並に其職業勞働と家族、學校、工場、、社會、國、帝國に於ける共同生活との關係を覺らしめ、公民的生活の重要なる組織の發達及び本質を說明し憲法及法律制度に對する畏敬、卿黨、祖國及君主に對する愛を涵養し尙ほ喜んで國家に於ける共働に從事する爲の標的を示すこと、以上要するに職業を離れて公民生活は敎へ難い、個人並に其職業勞働は家族的には勿論社會、國家に於ける共同生活に密接の關係あるものである、職業生活と公民生活とは不可分のもので、良職工であるから良公民であり良公民であるから良職工であると云ふことを充分に徹底的に理解せしめんと云ふ趣旨から來て居るのであります、補習學校の工場作業に關しては普國には斯う云ふ規定があります、「職業學科及び圖畫の補充として工場教授を課することを得」ミュンヘン市のそれとは大分違つて居ります、「課することを得」であるから隨意である、「ミュンヘン」市に於て補習教育の中心たる工場作業は、普漏西ではさほど重きを置かれて居らぬと云ふ事が分る、それならば全然無視して居るかと申しますと左樣ではない、斯う云ふ規定があります、「補習學校にて工場教授を授ける能はざる場合には教練の課程に適合せる一定の考案に付て學校にて作製せられたる製圖を師匠の工場に送る如き方法に依り工場と學校との密接なる共働を可能ならしむる」、要するに「ミュンヘン」市では學校其ものに工場を設けて、其所で作業を中心として國民的訓練を與へる、伯林市は各徒弟がそれ〴〵師匠若くは雇主の所でそれ〴〵職業に一週五日間從事して居る、其職業を利用して、それと關係あらしめるやうに學校では授業をする、學校では附近の工場を利用したり手工學校や職業學校の工場を利用するもよし、又全然學校に於て工場作業を爲さしめない場合に於ては、少くとも製圖をなさしめて其製圖を師匠（雇主）の所へ持つて行かせ、さうして實地と學校授業との聯絡を圖ると云ふ工合にしてあるのであります、伯林市では千九百十三年に補習教育條令を發布して居ります、是は普漏西王國の補習教育令

法の施行細則のやうなものであります、先刻御話したやうに大伯林市は二十有餘の市から成立つて居るのでありますが、其中で最も大なるものは伯林舊市と「シャロッテンブル」とであります、其伯林舊市の補習教育の狀態を簡單に爰に申上げます、伯林舊市は補習教育に關して從來男子に十區女子に十區即ち二十區劃を設けて居りましたが、昨年男子に一區劃を增しましたから男子に十一劃女子に十區即ち二十一區劃に分ちて授業して居ります、此區劃は主として通學上の便利から割り出されたものであります。

大正十一年一月私が巡廻いたした當時ベルリン舊市では男生に一百十七の職業學級女生に十數種の職業學級を設けてありました、職業學級の種類を御參考の爲めに幾種かを讀み上げて見ましよう、(1)勞働者、未教育者(2)エッチング職工(3)パン燒業(4)繃帶師(5)理髮業、鬘師(6)建築業(7)彫刻師(8)花飾師(9)ボンボン菓子製造人(10)製本部(11)印刷匠(12)銃工(13)樋職工(14)亞鉛凸版工(15)外科機械工(16)彫鏤細工職工、金屬彫刻工……トテモ壹百十數種を讀み上げる時間がありませぬ、ありとあらゆる職業級があると御承知願たい、先刻諸君に御紹介致した此圖表に由ると高等補習學校在學者が丁度六千人（是は大正九年の統計であります　此表は伯林舊市丈であることを重ねて御斷りいたして置きます）特殊職業に就かずに一般勞働に從事して居る補習生が六千人、金屬工業の補習生が四千百人、建築工業の補習生が二千二百人、商業補習生が四千人、土木工業補習生が二千人、被服業補習生が六百人、パン及菓子製造補習生が六百五十五人、理髮業補習生が三百人、大體斯んなやうな狀況であります、さうしてどんな工合に學科を編成して居るか、と云ふことの御參考に時間割を一寸申上げて置きます、只今手元に補習學校の教授要目が數種ありますが其中で二三種類を御紹介致します、先づ第一に料理人科の學科課程を讀み上げます、一年を二學期に分ち三ケ年の義務教育であるから六學期になる譯である、先づ第一に職業及公民學科是がずつと三年間通してあります、第一學期に二時間第二學期に一時間第三學期に二時間第四學期に一時間第五及第六學期に各二時間としてある、それから料理に關する專門科、實用算術、實用簿記が授けられますが、左に掲ぐる學科課程表に由りて大要を御了解願たい、ベルリ市補習學校の教授要目は各學科に亘り實に行き屆いたる指針が與へられて居りますが、教授要目と云はんよりは寧ろ教授細則と云ふて然るべき程のものであります、今日是れ等を御紹介することは時間が許しませぬから今日は二三の學科課程表を御目にかけることに止めて置ります。

料理人科課程表

學年	I	II	III	IV	V	VI
學科	時數	時數	時數	時數	時數	時數
職業及公民科	2	1	2	1	2	2
專門科	料理學 2	料理學 1	料理學 2	料理學 2	料理學 2	料理學 2
	料理化學 2	料理化學 1	料理化學 2	料理化學 2	料理化學 2	料理化學 2
	廚房用外國語	廚房用外國語	佛語 1	佛語 1	佛語 1	佛語 1
實用算術	2	2	2	2	1	1
簿記	一	一	一	一	1	1

旅館料理店給仕人料

學年／期	I	II	III	IV	V	VI
職業及公民科	時數 2	時數 2	時數 2	時數 2	時數 2	時數 2
專門科	書方 習字 2	食卓整備 旅行案內 1 1	旅館及料理店用外國語 佛語 2	佛語 2	佛語1 英語1	佛語1 英語1
實用算術	2	2	2	2	1	1
簿記	—	—	—	—	1	1

女子勞働科課程

學年／期	I	II	III	IV	V	VI	計
職業科 生活科 獨語	2	2	2	2	—	—	160
職業科 生活科 書方	—	—	—	—	2	2	80
算術及家庭簿記	1	1	1	1	1	1	120
家事 洗張り及修繕ロイ	$1\frac{1}{2}$	$1\frac{1}{2}$	$1\frac{1}{2}$	$1\frac{1}{2}$	—	—	120
家事 立チ方直シ方	$1\frac{1}{2}$	$1\frac{1}{2}$	$1\frac{1}{2}$	$1\frac{1}{2}$	—	—	120
經濟 洗方押シ方							
經濟 料理及營業科	—	—	—	—	3	3	120
授業總時數	6	6	6	6	6	6	720

女子商業會計課

學年／期	I	II	III	IV	V	VI	計
生活科 商業科 獨逸語	$1\frac{1}{2}$	$1\frac{1}{2}$	$1\frac{1}{2}$	$1\frac{1}{2}$	$1\frac{1}{2}$	—	150
生活科 商業科 書方	—	—	—	—	$1\frac{1}{2}$	$1\frac{1}{2}$	60
商業算術	$1\frac{1}{2}$	$1\frac{1}{2}$	$1\frac{1}{2}$	$1\frac{1}{2}$	$1\frac{1}{2}$	—	150
簿記及速記	$1\frac{1}{2}$	$1\frac{1}{2}$	$1\frac{1}{1}$	—	—	—	90
家事 洗張及修繕	$1\frac{1}{2}$	$1\frac{1}{2}$	—	—	—	—	180
家事 立チ方及押シ方	—	—	$1\frac{1}{2}$	$1\frac{1}{2}$	—	—	
經濟 料理及營業	—	—	—	—	—	3	
授業總時數	6	6	6	6	6	6	720

次に英國の狀況を簡單に申上げたいと思ひます、英國では補習教育は久しき以前から實施されて居りました、現に千八百十九年の統計に因れば補習學校は公私合せて三千三百二十八、生徒總數が四十五萬五千百二十人あります、併ながら是は今日此時代國家が要求する補習教育ではなく、多くは營利本位の補習教育に過ぎないのであります、そこで先刻お話申上げた「フィッシャーズ、アクト」として知らるゝ法令が千九百十八年に顯はれた譯であります、此法令の第三項に、男女青年に對して專門義務補習學校を設立すべし、と云ふ事があります、此れが此「フィッシャー」法令中の最も重要なる規定であります、此法令は「ノーン、デーテット、アクト」で施行期日が定められて居りませぬ、そこで千九百十八年に此

法令は議會を通過致したけれども、實施されたのは昨年(大正十年)の一月一日に倫敦市に於て始めて實施されたのであります、さうして同年四月一日にはマンチエスターに實施することになつて居りました

私は丁度倫敦市で義務補習教育令の實施の結果として、新に生れたる補習學校を幾つか參觀致して參つたのであります、そこで急激に滿十四歳から滿十八歳まで四ヶ年の義務補習教育を實施するのは好ましくないと云ふ事から、先づ初めは滿十四歳から十六歳まで二ヶ年、さうして七年經過の後に於て滿十八歳まで四ヶ年、斯う云ふ具合に規定してあります、それで如何なる者が此の義務補習教育から免除されるかと申しますと、適當と認められたる他の學校に於て教育を受けつゝあるもの、又は滿十六歳まで適當と認められるゝ教育を既に受け終りたる者、是れ以外の者は悉く此法令の義務に服さなければならぬ、と斯うなつて居ります、授業時數は一ヶ年三百二十時間午前八時より午後七時までの間に授業をする事になつて居る、雇主は授業に必要なる時間を與へ、又是が爲に特に賃金の減額をしてはならぬ、雇主は給金を與へて學校へやらなければならぬ、又地方教育官權は必要である丈の學校を設立し適當なる設備をなさねばならぬ、併ながら學校は必ずしも公立でなくてもよい、雇主に於て設立されたるものでも適當と認められるれば差支ない、併し其場合は常に地方教育廳の指揮監督を受くべしである、補習教育の目的は身體の健全を圖り精力を充實し、品性を淘冶して、勤勉に職業的及公民的活動に堪能ならしむるにある、學科課程を規定するに當つては各種の職業を中心として、其職業に對する價値を斟酌して定むべしである、併ながら補習教育を職業教育の方便と解してはならない、補習教育の第一目的は飽迄も良公民を造るにある、健全にして勤勉幸福なる人間を造るにある、それ故に國語、人道的學科、體育的學科之に各職業の基礎學科を附加して、何人でも其職業の最高地位まで登り得る機會のあり得るやうに教育されねばならぬ、(少しく獨逸のそれと趣意が違つて居ります)倫敦市の教育局長の「サー、ロバート、ブレアー」と云ふ人が斯う云ふことを申しました、義務補習教育の義務は三重の義務である、第一、地方教育廳の義務としては補習學校設立の義務であり、第二、當事者には就學の義務……不就學者には刑罰が附いてある、初犯が五志再犯が一磅、第三、雇主には就學の時間を與へる義務がある、之にも刑罰が附隨して居る、初犯が二磅再犯が五磅、又「ブレアー」氏は斯う云ふ事を申して居ります、此教育令施行の曉には、小學教育を終りたる者の二割は十六歳まで正式の教育を受けて社會に出で、其八割は補習教育を受ける事になるであらうと、是は倫敦市に就ての事であります、そこで補習教育を義務教育にすれば結果として自然他の中等學校が悉く義務教育になる譯である、例へば我國で義務補習教育を施行するに當り高等小學、中等學校に在學する者は此義務を免除されるとする、斯う云ふ事になれば兒童は義務免除の學校に在學するか然らざれば補習教育を受けねばならぬ、義務年限を延長せなくとも自然延長されたことになる、然も或るものは中等學校や高等小學に在學して義務を果すし、或るものは補習教育を受けて義務を果すと云ふ具合になるから、最も機宜に適したる義務年限延長方法と云はねばならぬ、英國の義務補習教育は何分にも蓋を開けたばかりの所を、私は參觀致して參つたのであるから、特別にお話するだけの事柄はありませぬ、但し一つ私の眼に着いた事があります、倫敦では何れの學校でも盛に運動

をやらせて居る、其運動は主として「フートボール」とか「クリツケット」と云ふやうな組織的ゲームで、就中最も多く「フートボール」をやつて居ります。隨つて新開の補習學校でも盛に運動さして居りました、是は蓋し英國の教育方針から來て居るのであります、私は曾つて斯う云ふ事に遭遇したことがあります、十二三年前留學の當時、倫敦の「セント、ポール、スクール」の校長に面會して倫理教育の方針を尋ねました、すると、校長が不思議な事を聞かれるものかな、倫理教育の方針と言つたところが倫理なんと云ふものは口で授けられるものではない、我校に於ては、講堂に於て「バイブル」を讀み運動場に於て「ゲーム」をやらせながら人道を授けるのである、此外に何等倫理教育を施して居らぬ、「オーガナイズド、ゲーム」組織的の遊戯には個人道德社會道德が皆具はつて居る、之に依て熟練勤勉と云ふ事を學ぶことも出來れば、勇氣と云ふ事も學ぶことも出來れば、一致協同と云ふことも學ぶことが出來るのである、導き方がよければ彼等を運動場に於て遊ばせつゝ道德的訓練を爲すことが出來ると、其校長が我輩に話したのであります、さうして是は其校長の意見でなく英國の教育界の輿論であると申して差支ないと思ひます、それ故にまだ造つた許りのホヤ〳〵の補習學校でも盛に「フートボール」をやらして居りました、實際英國の教育氣分は半ば運動場に半ば教場にと云ふ風であります、英國の事は是だけに致して措きます。

續いて亞米利加合衆國の方に移ります、亞米利加合衆國は御承知の如く四十八州もある聯邦から成り立つて居ります、さうして各州が自治でありますから教育法令の如き各州區々になつて居ります、義務補習教育法令を發布した州の名前を茲に讀んで見ます「ウィヅコンシン州」は千九百十一年に義務補習教育令を發布其後改訂致しました、要は十四歳から十七歳までの者にして正規の學校に在學せざるものは年八ヶ月一週八時間、補習教育を受くべきことを規定した、それから千九百十一年に、「マサチユセッツ」州が補習教育令を出しました、千九百十三年には「ペンシルヴァニア」州が十四歳から十六歳までの間の者に一週八時間の義務補習教育令を出しましたが農業及家事に從事して居るものを免除して居ります「ニューヨーク」州は千九百十年に補習教育令を發し千九百十三年と千九百十九年とに於て改訂して完全なる現行義務教育令となりました「オハヨー」州では千九百十三年に「インディアナ」州は千九百十六年に其他十四州は千九百十九年に義務補習教育令を發布して居ります、已上は千九百二十年一月の調査であります、千九百二十年十一月に「ワシントン」の中央教育局について聞く所によれば四十八州中二十五州は既に義務補習教育令を發布してあるが殘る二十三州も二三州を除く外は千九百二十一年中には發布するであらうとのことでありました。

左の五項に關し義務補習教育令を發布したる米國聯邦の狀態を詳にせんが爲に此に表を掲げます。

I　學級設立の義務を生ずる補習教育令に該當する最少人數
II　就學義務年齢
III　一週間に行ふべき授業時數
IV　學年

V　授業を行ふべき時刻

州名	I項	II項	III項	VI項	V項
アリゾナ	15人	14歳—16歳	5時	150時	8前—6後
アイオワ	15人	14歳—16歳	8時	同小學	8前—6後
モンターナ	15人	14—18歳	4時	同小學	8前—6後
ネブラスカ	15人	14—16歳	8時	144時	……
ネヴァダ	15人	14—18歳	4時	同小學	8前—6後
ニユジヤジー	20人	14—16歳	6時	36週	8前—5後 土曜日日曜ニテ除ク
ニユメキシコ	15人	14—16歳	5時	150時	8前—6後
ニユヨーク	(1)20人	14—18歳	4—8時	同小學	8前—5後
オクラオマ	20人	16—18	—	144時	—
オレゴン	(2)15人	14—18歳	5時	同小學	8前—6後
ユート	15人	16—18歳	4時	144時	8前—6後
ワシントン	(3)15人	14—18歳	4時	同小學	8前—5後
					但シ8前—12:30後土曜日
カリフオルニア	(4)12人	16—18歳	4時	同小學	8前—5後
ミゾリ	25人	14—16	4時	同小學	—

(1) 五千人已上の人口ある市にのみ義務たせらる

(2) 夜學校に於ける就學を代用せしむることを得

(3) 二十五人以上の連名要求ある時はデイストリクトは學校を建設することを得

(4) 高等學校區にして五十人以上の生徒ある時は補習學級設立の義務あり

次に補習學校の種類に就て申上ます、補習學校と申しましても色々の種類がありますが、其分類に就て一寸私の目に留りましたのは「ミシガン」州のそれであります、「ミシガン」州は御承知の如く北亞米利加中部の州でありますが、其「ミシガン」州に於ては補習學校の種類を(1)「コウオペレチーヴ、スクール」(2)「ソレード、エキステンション、スクール」(3)「ジエネラル、パートタイム、スクール」の三に分けて居ります。其第一の「コウオペレチーヴ、スクール」協力學校とでも譯しませうか、其組織は一週間は學校へ行つて一週間は會社の實務に從事する、即ち學校と實務と一週間宛更代に勉學勤務すると云ふ組織である、二人一組として實務に從事せしめ甲が學校に在る週間は乙は會社に在り乙が學校に在る週間は甲が會社に在ると云ふ組織であるから學校では三百人の設備を爲せば六百人の生徒を收容することが出來る譯である。此種の學校は「クリーヴランド」にも「ニユーヨーク」市にも其他の地方にもあります、それから第二には「ソレード、エキステンション、スクール」……職業進展學校……是は職業をやりながら更に其職業に就いて進歩したる教育を受けんとするものに施す教育で高等補習學校である、第三の「ジエネラ

ル、パートタイム、スクール」……普通時間學校……之れが今の意味の補習學校であります。

米國文化の歴史上の詩りをもつて居るは「マサチユセッツ」州「ボストン」市であります、今同市に於ける補習教育の分科の仕方、學科及授業時數の分配等に就て此に表を掲げて簡單に說明致します。

ボストン市補習學校

職業準備及進展科		一般修養科				職業準備及進展科	
75%	25%	25%	25%	50%	一文化教育	25%	75%
工場作業及業	公民科 衛生科 娯樂修養	公民科 衛生科 娯樂修養	藝能力研究及見			公民科 衛生科 娯樂修養	工場作業及業

「ボストン」市の、補習學校は圖解の如く三科に大別されて居る (1)「ジエネラル、インブルーヴメントコーセス」假りに一般修養科と譯して置きます、此科は尙ほ進んで普通教育を完成したしと希望するものゝ爲めに設けられたる、補習科である、圖表の如くに授業時數の五十パーセントは文化的學科に[illegible]られ二十五パーセントは兒童兒女の天賦の能力や趣味の吟味發見の爲めに費され殘り二十五パーセントは公民科衛生科修養娯樂の爲に當つることになつて居る、(2)「プレヴオケーショナル、コーセス」假りに職業豫選科と譯して置きます、此科は如何なる職業に就て然るべきかを決定し兼ねて居るものを教育する爲めで其授業時數の七十五パーセントは工場作業並に之に關係ある作業に從事せしめ殘り二十五パーセントを公民科衛生科娯樂修養に當つることになつて居る、未だ職業を撰擇し兼ねて居るものであるから工場作業は一定したものでなく色々のことをやらせて見るのである、(3)「ツレード、プレバレートリー、エンド、エキステンション、コーセス」職業準備及進展科と譯して置きます、此科は既に職業を撰擇し何職に就きたいと決めたものに其職業に就くの準備教育をしてやつたり又既に一定の職業に就て居るもので其職業に就て一層進んだる知識技能を得たいと希望するものゝ爲めの補習科である、授業時數の割り當ては七十五パーセントが工場並に之に關係したる作業、二十五パーセントが公民科衛生科娯樂修養である、以上三科の外に豫科がある、之は入學當初には何科に入れてよいか分らぬから先づ此に入れて彼れ等の好き嫌いや天賦の能力や傾向などを吟味するのである、乃で生徒は此豫科を足溜りにして三科の中の何れにか這入るのである、

「ボストン」のことは之れ位にして次に紐育市に移ります、紐育市は北米第一の大都會であり諸般の施設經營は北米合衆國を代表するものと見なされて居ります、英人と米人とを比較すると英人のゆつくり落ち付きはらつて居るのにも驚きますが、米人の氣早やな豪膽なやり口にも驚きます、義務補習教育の實施の仕方にも兩國人の氣風の相違があり〳〵と現はれて居ります、英人のフィッシャー法令は、施行期日を定めずに、文部大臣が時節を見計ひ、土地の狀況を參酌し、徐々に施行すると云ふ譯で、千九百十八年に議會を通過した法令が、千九百二十一年一月一日に漸く倫敦市丈に實施されると云ふ風である

そんなら、それまでに充分に準備されてあつたかと云ふとそうでない、實施されてからそろ〳〵準備にかゝると云ふ風である、私は二十一年の二月上旬から中旬にかけて倫敦市に於ける新設の補習學校を參觀したが、私の眼から見ればまだ〳〵學校にはなつて居らぬ、校舍はあらまし假住居である、教場の設備は出來て居らぬ、生徒は集つて居るが授業はして居らない學校が多かつた、何れの學校でも生徒が小さな校庭に集つてフートボールの練習をやつて居つた、英國の教育主義からはフートボールの練習も大切な授業ではあらうが私に取つては誠にあつけなく感せられた、然しながら英國人のことであるから、倦まず撓まず徐々に改善するであらうと信じて居る、そこになると米國人は手取り早い、紐育州では千九百十九年に法律を以て「州内各都市及び各學校區域は補習學校を設くべし、當該學校は公立學校系統の一部とす、授業は通常の授業日に之を行ひ時間は午前八時より午後五時迄とす」と規定した、私が紐育市の補習學校を參觀したは翌二十年十月から十一月にかけてゞある、開校後僅に數ヶ月にもならない學校でも設備萬端行き屆いたものである、彼等は法律が出ると直に實行に着手した、開校して見れば既に立派な學校である、丸で一夜の内に富士山や琵琶湖が出來たやうな心持ちがある、之れが米國人の特色である、それであるから何れも世界の大都會であるが倫敦市の補習學校と紐育市のそれとは比較にならぬ。

時間があまりませぬから紐育市の補習學校の狀態を詳細に御話を致し兼ねます、幸に此に書いたものがあるから朗讀致します。

紐育市補習學校教育の實際

生徒……補習學校を參觀して、第一に受ける印象は、小學校を見た時の感じとは大分違ふ。生徒は、男女共大抵身體が成熟して居て、責任を持たされて居る勞働者と云ふ樣子が見える。そして、彼等の多くは過勞のあとを見せて居る、組々の人數は少くて、決して二十人を越えない。そして、教師は授業をするのにも仲間同志のやうに寛ろいだ態度でやるから、凡ての生徒に個人指導をすることが出來る。教師は相談相手であり道案内であり又友達でもある。生徒は十四歳から十八歳迄の男女兒で、各種製造所會社、商店等に雇はれて居すものである。そして一週四時間づゝ授業を受けてゐるのである。

豫科……參觀者は、豫科教室に入ると、こゝには新入生が居る。こゝでは職業顧問が居て、生徒を助けて各自の嗜好や趣味を見つけさせて居る。これは、學校が彼等に與ふる教科を適當に撰擇せしめる準備である。で、この組では、教師は生徒と會談しつゝ、その好き嫌ひや、天賦の能力や、傾向などを吟味するのである。又生徒は既得の教育の程度を檢べられ、試驗的に、しかし、きつぱりと將來の計畫を立てる樣に勵まされる、生徒等は、學校内の各工場を觀、數多い職業について、適不適、將來の見込などを比較研究する。そして、その中から各自の好む所を撰擇するのである。教師と相談して、決定的撰擇をした後は生徒は、各自の選んだ普通の組に編入せられる。

男生作業室……他の室に行つて見ると、男生はせつせと電線で働いて居る。これは電鈴の附け方、修繕から、報知機、出火盜賊警報機、電燈などの取附けを學んで居るのである。これ等の生徒は、電氣技

師になるので、彼等の中には、既に電氣工場に雇はれて居るものも多い。又他の室では生徒等は家具の製作修繕をやつて居る。模型の家の骨組や、實物大の階段をつくつたり、簞笥を磨いたり、其他大工、指物師としてやらねばならぬ樣のことを何でもやつて居る。これら實際的の練習により、彼等はいろいろの道具や繪圖面の使用法を習得し、のち〳〵その熟練を實地に應用する準備をするのである。又他の室では、他の生徒達が印刷、機械作業、鉛管細工、衣服仕立などを敎へられて居る。

女子職業敎室……女生は、帽子の製造飾裝、圖案模樣、衣服の裁ち方作り方、刺繍、新しい意匠の凝らし方などをやつて居る。先の方には、まるで春期大掃除も同然な室がある。白い帽子を被つて、前垂をつけた少女達が床を掃く、ストーブを磨く、壁を洗ふ、寢所を拵へる……凡て腕のある主婦として、模家を家庭らしくする必要なことは皆やつて居る。これ等の仕事が濟むとお料理をして居た少女達が、食堂に御馳走をたらべる。それから食器を洗つたり、必要な洗濯をしたりする。この實踐室に於ては、家事は技術でもあり又快樂でもある。

商業敎室……事務練習室では男生女生共にタイプライター、謄寫版、書類整理方、事務處理方、簿記、速記、交換機の扱ひ方等の授業を受けて居る。

學科……二時間は生徒の選擇した職業上の事業、即ち實科で、殘りの二時間は學科(普通の學問)を授けられる。こゝに行つて見ると、經驗のある敎師が、米國の理想、歷史、經濟、勞働法、公民學、手紙の書き方、商業算術、國語、倫理、衛生等を生徒に敎へて居る。……それ等は皆生徒の實際生活と關聯せしめて授けて居る。

會合……最後に生徒の會合の模樣を參觀すると、こゝでは、生徒達が、俗歌、愛國歌などの唱歌をうたつたり、上手な者が出てうたつて聞かせたり、或は各種產業の代表者、州產業委員、社會事業に從事する人々、政府の役人などから講師を賴んで、最も生徒の利益になるやうな題目を選んで、講演をして貰ふ。參觀者は、この時に於て、校內に瀰蔓する共同の精神、愉快な友誼を、最も容易に感知することが出來るのである。

紐育市補習學校敎授科目は

男女共通として

實科……商業算術、タイプライター、事務實習、書類整理法、商業の方法、電話交換機、

學科……讀方、手紙の書き方綴字法、產業史、米國史及公民學、經濟、個人衛生公衆衛生、

男女各別科目として

男生の部

木工術、指物細工、簞笥類の作り方、模型製作、家具の仕上げ、一般木工、金屬板製作、機械工場實習、電線及取付、用器畫、建築用圖面、印刷、青色版讀方、男子衣服意匠、

女生の部

縫ひ方、裁縫、婦人帽子小間物類製作、機械の動し方、女子衣服意匠、造花、商業圖畫、(女子服裝

に應用せる）家事、割烹、洗濯、

以上

以上の外に私が實際に參觀して來ましたは「フイラデルフイア」、「ワシントン」、「オルバニー」、「デトロイト」、「シカゴ」、「ソルトレーキ」、サンフランシスコ」、「セントルイ」外數ケ所でありますが、之れ等各地の補習教育の實施振りは多少宛其趣を異にして居りますから、御話申上げたいと存じますが最早時間が許しませぬ、

一時的のものであり又補習教育とは申し難いけれども、米國政府が現今兵士復業教育の爲めに費して居る金額は莫大なものであります、之は歐洲戰爭の爲めに招集されたる兵士を復び正業に就かしめん爲めに職業教育を施すの政策であります。

歐米の實業補習教育は大體斯んな工合になつて居ります、尙ほ色々申上げたい事もあります、けれども無駄な事を申して居つた爲に肝心な申上げたいと思ふた事を申上げる暇がなくなつたことは甚だ遺憾に思ひます。唯もう一分か二分間私の結論だけを聽いて戴きたいと思ひます。

私は本邦に於て此際どうしても實業補習教育を義務教育にしなければならぬと思つて居ります、義務教育でなければ或る種の兒童が受け得る恩典に過ぎない、之を義務にして初めて全國民が普遍的に其恩典を受くることが出來る譯であります、今迄通りに是が任意教育であるならば或る者は之を受けますが多數の者は之を受けない、それでは受け得るのみの恩典で多數には何の役にも立たぬ、其點からして益々是は義務教育として實施しなければならぬと思つて居ります。國防上の見地からして補習教育を義務にしなければならぬと主張致します、米國カリフオルニア州で、補習教育を義務教育となすの理由書には國防上の見地から義務教育は必要である、國民皆兵の實を擧ぐるには義務補習教育の實施の外はないと言ふつて居る。華盛頓會議の結果軍備は縮小され、或る時期の平和は期待されて居る、平和は人道上實に望ましき事である、然し其望ましき平和は永久に續くものとは思はれない、五年十年若くは二十年續くかも知れぬが、それから先きはどうなるか分らぬ、一旦緩急あつても人間さへ拵へて置けば大丈夫である、徹底的に義務教育を實施したならば之に依て國防上の準備が十分に出來るから、軍備縮少は却つて軍備擴張と同意義になる、若し軍備は縮少する國民教育は今まで通りであるとするなら、それこそ一朝事あつた場合には自滅の外はない。次に又政治上の見地から我輩は義務補習教育の必要を主張する、我國は早晩普通選擧を實施せねばならぬ、其準備をしてどうするがよいかと云ふと其れは教育者に由りて準備さるゝより外に仕方がない、政治の何たるかを解せぬ國民に選擧權を與ふるは危險である、今の小學教育は年齢の關係上政治道德は授け難い、又授けても十二歳や十三歳の小供には出來ぬ、乃で義務補習教育に由り政治道德の理解の出來る年齢まで、教育者の監督の下に置くと云ふことが時節柄甚緊要である、次に又經濟上の見地からして我輩は義務實業補習教育を主張する、今日は能率の增進であるとか、或は職業上の熟練とか云ふ事が最も大切な時代であるが、職業に對する所の何等の特別教育を受けて居らない、僅に滿十二歳で小學校から社會に送出された所の職工を使つて、どうして能率の增進

が思通りに出來ますか、どうして熟練職工の工場を期待することが出來ますか、小學卒業後成年期に達するまで徹底的に實業補習教育を受けたる職工を使用する歐米の工場の製品とどうして競爭することが出來ますか、次に又社會上の見地から我輩は義務補習教育の必要を主張する、近頃は勞働爭議であるとか小作爭議であるかと云ふ好ましからぬ問題が所々に起る、是等は決して經濟上の見地からのみ解決の出來ぬ問題である、給金を上げれば其上げた時は一寸沈まるが、時立てば又起つて來る、小作爭議も其通りである、要するに此等問題の眞の解決は教育に待たねばならぬ、各人をして己の從事する所の職業上に興味あらしめ理解あらしめるやう教育者に由りて導かれねばならぬ、總べての國民が自分のして居る職業を理解し其職業に興味があるなら斯の如き問題の解決は甚だ容易である、それには實業補習教育を徹底的に實施するより外に方法はない、國民全體が誠に悲慘なる狀態にある所の獨逸の如きは徹底的に行き亘りたる實業義務補習教育の御蔭で之れ等の問題を容易に解決して居るのである、我國の如きは要するに多數國民が其職業に興味もなければ理解もないから煽動者さへあれば何時でも雷同するは當然である、次に又此節は朝野共に危險思想の襲來に心配されて居る次第である、有史以來危險思想は世界何れの國にもあつたのであるが、幸に我國は國體の性質上斯る思想は育たないのである、が、今は育ちかゝつて來た之は二葉の中に摘み取られねばならぬ、不徹底な理論教育は危險思想を呼び起し易い、實際を離れて空理空想にふけるから危險思想なども起つて來るのである、各自が己の職業に興味と理解とをもちて本氣になつて働いて居れば、斯の如き思想は起り得ないものである、何となれば世間の實際社會に於ては決して平等無差別と云ふものはない、萬物悉く差別變化がある、天地自然の間に存在して居る者は千差萬別何一つ同じ物はない、宇宙は差別の宇宙である此差別の間に秩序が立つて居つて、初めて天地の運行が滑かであるのである、秋が過ぎ寒い冬になると其次に好ましい春が來、次で燃るやうな夏が來る　夏秋冬交互に順を追ふて入れ代はり其間に動すべからざる秩序のあるのが、天地の法則である、是が自然である、平等無差別斯の如き事は天地間に認め難い事實である、世界の人口は十六億九千二百萬人あつても人相骨格體力智力年齢相均しきものを二人と取り出すことは出來まい、差別の世の中で然も生存競爭適者生存の進化の法則が認められなければならぬ時に、共產主義ぢやの社會主義を唱ふるは危險であるか又笑ふべしである、然し斯る思想の人が侵さるゝは主として教育の缺陷若くは不足より來るものであるから實社會に適切なる教育に由りて救濟されねばならぬ、此頃は義務教育年限延長と云ふ事が盛に世間に唱導されて居るが諸君も恐らく延長論者であらう、義務年限延長は結構な事である、けれども延長の方法に就ては私案がある、今の我國の經濟狀態で今の小學教育を其まゝ延長すると云ふことは考へものである、それよりも寧ろ補習教育の形式で義務年限を延長するか最も得策であると思はれる假りに義務教育(小學六年)を終り引續き高等小學に入るもの若くは中等學校に於て教育を受くるものにあらざるものは、毎一年三百二十時以上四ヶ年間補習教育を受くるの義務ありと規定されたとする、然る時は中等學校に入學せざるものは或は高等小學に學び或は四ヶ年間補習教育を受けることゝなる　補習學校の授業時數を一週一日八時間とすれば千人收容する毎日學校の設備で七千人の補習生を收容する

ことが出來る、我國の現在の狀況では普通商店などは日曜は休みでないから日曜日を利用して補習教育を施すも過渡期には一の便法であらう、然すれば各學校の校舍が悉く補習教育に利用され得る、さうすれば此秋田市に於ける小學校の校舍の設備で日曜に補習學校を開くとしたならば、恐らく現在當市に於て就學の義務ある補習生徒は悉く收容が出來るであらう、最も教員の補充は困難でありませうが、過渡期には致し方がない、不完全ながら實施して行く中に追々立派な教師が出來て來るものであります、現に「ニューヨーク」市「ボストン」市邊の大都會でも教員の養成に非常に力を用ゐて補充難を緩和せんと努めて居ります、「ニューヨーク」市の如きは實業補習教員養成の爲に多額の費用を惜まずに畫策して居ります「理論家からは實際家は生れて來ない」。と云ふ實證から補習學校の教員としては實際家の中から理論家を養成した方が適切であるとて現に職工として熟練あり經驗あるもの丶中から教育を受け得る丈の資格あるものを拔擢し現に職工として受けつ丶ある給金……二百弗なら二百弗、三百弗なら三百弗それだけの給金を奬學資金として與へて、さうして大學又は職業專門學校に入れて教育して居る、理論家から實際家を拵へるよりも、實際家からして理論家を拵へる方が比較的に容易であるとの意見に基いた方法である、「ボストン」市でも矢張り實際家の中から教員を養成する方法を取つて實際家の中から教員志願者を募り夜間講習をやつて居りました（大正九年十一月）過渡期に於ては無論完全なる教員は得難い、義務補習教育實施の初期に在りては或は曾つて獨逸が執つたやうな方針で、實業科教員丈は或は商店なり或は會社なり銀行なり其他の職業なりの經驗者熟練者をして、義務的に其任を當らしめてもよいと思ふのであります、固より過渡期に於て完全な教師は得難い、完全な教師が得難いからと言つて、決して義務實施を躊躇する譯はない、實施すれば一時的彌縫は何とか出來るものであり同時に教員養成に意を用ゆれば月日を逐ふて適當なる教員の輩出するものであると斯う私は信じて居ります、長々と諸君の清聽を煩して甚だ恐縮に存じます。（拍手）

農村問題

東京帝國大學教授農學博士　佐藤寛次

農村問題は唯農村問題と致しましても農村以外の問題と致しましても、色々のものを含んで居りまして其内容は極めて複雜なものであります、經濟の上から申しましても財政の上から考へましても、教育の上から申しましても、其外社會上の問題といたしましても色々の事項を含んで居りまして單に勞働問題でありますとか或は單に工業問題でありますとか云ふやうな問題に較べて見ますると、非常に複雜なものである、前以て此事を御承知置きを願ひたい、此の如き複雜な問題を取扱ふに當りまして、一々細かに題目を掲げて申しますると云ふと容易に結論に達しないだらうと思ふ、それ故に本日は農村問題の中に於きましても、重要と思はるゝやうな問題を二三掲げまして、皆さんの御考慮を願ひたいと思ひます。

農村問題はどう云ふ場合に存在する問題であるかと申しますると、名稱の示して居りまする通りに都會に對しましては、或る隔りを有する場所に於て存在するところの問題であります、さうして此隔りと云ふのはどうして起つたかと申しますると、是は言ふまでもなく農村問題の中で最も重要なる問題は何であるかと云ふ事を考へて見ますると、當然明瞭になりますが言ふまでもなく中心問題は農業問題である、農民問題である、農業に關係のある所の土地の上に於ける問題であります、農業は御承知の通りに何

を使用するかと云ふと土地の面積を使用する外に途はない、例外は勿論ありませう、土地を立體的に底深く用ひなければならぬと云ふ方法もありませう、言葉を換へて申しますると、光線の無い場所に於て作物の栽培を爲すと云ふ事もあり得ることである、即ち地下室内に於て植物を栽培する場合の事もあり得るのであります、併しながらそれは例外でありまして通常は土地の表面を使用することであります。其使用の仕方はどうであるかと云ふ事を考へて見ますると、土地の表面を使用するのであります、表面である以上は廣がりを有する、そこで農業は前提と致しまして多くの面積を要する事業である斯うなつて來る、多くの面積を要するところの事業である爲に廣い地方に分散して之を行はねばならぬといふことは當然のことであります。之を都會の地位と對比すると勢ひ廣い場面を有する、從つて都會と農業地方との間には一種の隔りを有することとなるのは已むを得ないのであります、で此隔りと云ふ事は色々の方面に影響を受くる原因である、就中大都會と多くの農村との間に於きましては、其間に色々な形を以て著しき差違を示して來るのであります、勿論文明の進歩と云ふ方面から考へると、此隔りの如きは殆ど云ふに足らぬと言つても宜いかも知れない、車のない時よりは車のある時代に於きましては隔りは短くなる、車の種類の進歩から考へましても汽車がある場合と、ない場合に於ける距離の長短は明瞭であります、自働車の有無から言つても勿論の話で、電話若くは無線電話と云ふやうな事を考へて見ますると確に隔りは短くなるに違ないけれども此隔りは消滅は致しませぬ、單純に短縮でありますと云ふ事である距離は無くなりはしない、それ故に農村に對しまする所の一國の政策などに付て考へて見ますると、此距離は色々の方面に於て妨害を致します、同じやうな政策を都會と農村とに對し施した場合に於ても此距離は色々の妨害を致します、況や其政策を施す場合に於きまして都會を中心と致しまして都會的政策が取られた場合になりますると、其の効果は都會と農村との距離を擴張して此の距離より受くる影響は更に增大致します、此の點は到底否定する事は出來ない、日本は御承知の通りに固有の文明を有して居ります、現在に於きましても固有の文明を有して居ると私は思ふ、併し明治政府の執つた色々の政策の方向はどうであつたかと云ふ事を考へて見ますと、外國の文明を移植するに、最も力を盡したことは何人も否定することの出來ぬ事實であらうと思ふ、さうして此文明を移植する場合に於きましては、どうしても都會に持つて來ることが便宜であつた爲めに都會を一番先きにした、そこで都會を中心とした政策が講ぜられたと見られるのであります、諸君、疑もなく、此の事は之を政治上の施設から見ましても、經濟上の施設から見ましても教育上の施設から申しましても、殆ど有りと有ゆる所謂明治政府の政策を見ますると都會中心と云ふ形になつて居る、爲政者は必しも都會を中心としてやつたものとは思つては居らぬかも知れぬ、併ながら先刻お話しました隔り、即ち距離がありまして、一樣の政策を執つたとしても其間に隔りが生ずる、外國文明を移植するときは、場所の問題が起り、此の場所が都會である關係上都會中心と云ふ事にならざるを得なくなる譯でありますが、兎に角都會を中心に致しまして、色々の施設經營の講ぜられたと云ふことには何人も議論がなからうと思ふ、教育の事はどうであつたか、大都會に集中して居ることは皆樣の御承知の通りである、例へば大學は何所に起されたかと

言へばそれは東京にであつた。近頃各地方に大學が殖えたけれども是は極く近頃の話である、專門學校程度の學校と雖も各地方に出來たが近頃の出現である、各地方に設立せられたとしてもそれは地方の中央都會に設けられたので、農村に大なる學校を設立してある所は日本にはありませうか、英吉利には大學の在る所の中で一番古いのは「ケンブリッチ」で此「ケンブリッチ」の街に行つて見ますると、どうして此街が出來たかと云ふ事が明瞭である、此街の眞中に大學の建物が澤山あり其大學の建物のある周圍に民家が段々出來て、今日の「ケンブリッチ」の街を造つて居るのであります、即ち「ケンブリッチ」の街は古い大學のお蔭で出來たと斯う言つて宜からうと思ふ、「オックスォード」も世界的の有名な大學であるが此大學の在る所も、其中心に大學の建物があつてさうして其周圍に市街が出來て居ります、是等の大學は倫敦を距る五十哩七十哩の所で決して大都會の眞中に造つたのではない、大學が其所に出來た爲に市街を造つたと云ふ事になつたのであります、昔からあれだけの大きな街の所へ造つたのではない、又亞米利加の大學の中には例へば「コロンビア」大學にしても或は「ハーバート」大學に致しましても、それは大都會にあるのであります、即ち「ニューヨーク」若くは「ボストン」の　の地域にある併ながら他の國立の多くの大學と云ふものはどう云ふ所にあるかと申しまするとと、多くのものは大都會にあゞはしない態々大都會から離して、之を造つて居るのであります、さうして大學所在地には一ツの區域を設けまして大學を中心にした所の三哩の距離に於ては酒屋の開業を許さぬ、斯う云ふやうな意味で以て學生の飲酒を取締り教育は之を出來るだけ地方に於て行はうと云ふ考でやつて居るのであります

が日本はさう云ふ譯には行かない、初めから都會に造ることが必要であつた、其爲にどうしても都會の眞中に造ると云ふことが自然に行はれて居るので、教育機關が都會地に起つて居ります。

吾々の日常の生活に必要な材料は色々ありますが、日本の事情と致しましては善良なる水を得ると云ふ問題の如きも實に重大な問題に違ひない、所で今日の進步した科學を應用した人類幸福の保障の爲に善良なる水を供給する水道が何所にあるかと云ふと、是も皆さん御承知の通り皆都會にあるのである、而かも都會に於ける是等に對する政策としては、お互に吾々の負擔する費用を補助して都會の人の幸福を圖ることになつて居るのであります、即ち國費を投じて迄も都會の爲めを圖ることに努力して居るのであります、是は多數の人口が都市に集つて居るから、と斯う言へばそれで當然解決は附く譯であります。けれども、併ながら善良なる水を必要とする地方は必しも都會のみでない、全國を通じましてどうしても給水の便を圖らねばならぬ地方は多々あるにも拘らず、さう云ふ方は一切構はず放置致しまして都會に限つて其の便益が多いことになつて居るのは如何でありませうか、斯う云ふ點などは大變に外の國、殊に亞米利加などに較べて見ますると著しく違ふ點であります、瓦斯事業であるとか或な其外のものなどは、それは都會生活に附隨せるものとしても、吾々一般にどうしても無くてならない飲料水供給の制度の如きは此の如き有樣で困つてゐる、交通機關の問題に於ても同じことで、此の種の問題を色々掲げて參りまするとと、到底盡きないのであります。

近頃問題になつて居りまするところの農村文化の進步發達とか、農村文化の程度とか農村文化と云ふ

言葉が非常に著しくなつて居るやうに見ゆる、即ち斯う云ふ叫び聲はどうして起つたかと申しますと、色々の經濟上の問題もありませう、併ながら最も重大な問題は農村に於ける生活をして、より良い狀態に進ましめると云ふ事でなければ意味はないものと思ふ、さう云ふ意味の文化生活と云ふ事でなければ意味はなさないだらうと思ふ、所がさう云ふ方面に於ける實際の施設如何と見ると、中々其所にはむづかしい問題の横つて居るものと見なければならない、近頃内務省に於きまして都市計畫局が生れまして六大都市を整理する事になつて居るやうであります、其爲に色々役所も設けまして改善に盡す努力が明瞭に現れて居りますが、併ながら農村の人々の生活を一層良くならしめる、と云ふ方面の研究努力と云ふものは形の上に現れたものは甚だ少ない、是も少ないと云ふ點は人口の上から當然の事に違ひないのでありますが、先きにお話しました都會に對して多少の隔りを有する地方であるが爲に、と云ふ外何等理由はないやうに思ふ、私は兎に角農村問題は都會と多少隔つた所に存在して居る問題である、と云ふ事も是非御承知置きを願ひたい是が一ッであります、農村問題は農業に衣食して居りまするところの農業者農業勞働者及其家族の生活問題であります、御承知の通り一定面積の土地の養ひ得る人間の數に制限があります、即ち一定の時に於て一定面積の生産高には限度がある、そこで此一定面積の養ふ人口の數には限度があるのは已むを得ない、歐羅巴の文明諸國の此人口問題に對する政策はどうであつたかと申しますると、人口が增加するに從つて限りなく土地を擴張したものであります、白人文明の跡を搜して見ますると其通りである、伊太利は古い國である此國は此古い國に於て生れた、伊太利人の總てを養つて居るかと申しますると、左樣ではないそれは到底之を養ひ切れるものでない、養ひ切れるものでないが故に、伊太利人は今日は何所へでも行つて居る、亞米利加大陸即ち北米に於きましても南米に於きましても到る所に伊太利人は居るのであります、英吉利人も同樣であります佛蘭西人も同樣である、西班牙人も獨逸人も同樣である、小さい場所に總ての國内に生れた人口を包容して居ると云ふ國は歐羅巴に於ては絶無である、一體白人は慾望の分量が日本人とは違ふ、小さい所で滿足が出來ないものと見える、さうして滿足が出來ないが故に少し窮屈を感ずると、外の所へドン〳〵引越す尤も勝手に太西洋を横斷することが出來ない、狹い所の英吉利海峽と雖もさう容易に渡れませぬけれども、色々の工面をして外に出る、白人は兎に角狹い所に蹐蹐しないで他へ移住する所の性質を多く有する、其性質があるから、今日は全世界の到る所に白人は勝手に飛出して行つたものと斯う言つて宜からうと思ふ、今日に於てはそれがどうなつて居るかと云ふと、例へば亞米利加は御承知の通りに非常に大きな國である、さうして吾々から申しますると餘裕綽々たるものである、其中の「カリホルニア」は面積に於て日本の面積と殆ど同一であります、而も人口は三百萬人に足らない、さうして其中に日本人は何萬居るかと云ふと六萬人以上は居りはしない、然るに彼等は曰く『日本人が來ては「カリホルニア」は、日本人の爲に占領されてしまひはしないか』と、三百萬人の人口ならば東京と横濱及近所の人口を一寸加へた位のものでありませう、それにも拘らず彼等は日本人の移住は厭やだと云ふ、成べく子孫の爲に餘裕を殘して置きたい、支那や日本の樣に行詰つた狀態に居るのは厭やだから吾々は歐羅巴から引越して來た、大きな土地

を持つて居ると言つても經濟上から將來の事を考へると、中々土地の餘裕と云ふものは無くなり勝のものである、日本人などはどうか御免を蒙りたいと斯う云ふやうな譯であるのであります、さう云ふ關係で以て白人の人口は增すに從つて土地はドン〳〵擴張しなければならん、そこで世界の各地を占領すると云ふ形で以て擴張して來たのであります、それだから土地と人口問題と云ふものは米國のやうな國には餘り重大な問題ではない、さう云ふ意味から申しますると寧ろ土地があるに人間が無いから、どうしても人間を此所へ移さうと斯う云ふ問題こそ最も重要な問題であります、加奈陀は歐羅巴の大戰爭に參加して歸還した兵隊を國內に植付やうとして、多數の戰爭參加兵士に土地を與へたのであります、加奈陀に於きましては非常に廣い土地があるから此植民政策が可能である、さう云ふやうな工合で土地と人口問題の解決は、人間が足らないやうな所所には人間を他から移殖する事が問題であるのであります、其解決たるや甚しく困難ではないのであります、日本はどうであるかと言ふと日本に於ては自作に依りましても小作に依りましても、長い間掛りまして、徹底的に內地殖民制を實行したのであります、それはどう云ふ形式を以てと云ふ事になりますると一々例證することは困難でありますが、德川時代に於きましては全國を小さい藩に分けて、各藩が獨立した經濟を維持する必要から多くの人口を藩內に置きさうして食物の生產高を增大して藩の勢力を大にする事に就て努力をした、それには何等かの形式で出來るだけ土地を廣く取つて、さうして人口を出來るだけ藩に多くして生產を增加せしめやうと云ふ方策を執つた、而かも此方策は極めて徹底的に或る場合には强制も致しました位である。かく張制までもして兎に角徹底的に內地殖民を實行して來た、其實行した結果卽ち今日の如き狀態になつて來たのであります、詰り日本に於きましては狹い領土の中に五千五百萬の人口を包容して居る斯う云ふ事になつた、斯う云ふ國は實にゑらい是だけの國土內に特別の天然上の恩惠もなく、特別の生產上の材料もなくして是だけの人間ある所は世界の何國にあるかと申しますると、日本の國のやうな例を求める事は甚だ困難であります、少なくとも文明國內に其例を求める事は困難中の最も困難であると言つても宜からうと思ふ、英吉利の人口は四千六百萬で倫敦には六百五十萬の人口がある、新しい墺太利は一國で六百萬しかないが倫敦は六百五十萬の人口を有して居る、其外に大都市も澤山あり鐵も澤山あり石炭はどうかと云ふと、石炭も自分で使う以上の石炭を持つて居る、農業の方面に於きましてはさう澤山のものは持たぬやうな譯であります、けれども鐵と石炭とそれに加へまするに工業上の發明を持つて居る、さうして是だけの人口を養ふのは譯はない、日本の鐵はどんなものであるかと云ふと至つて少ない、時局に際し日本に鐵がなくなつて亞米利加に頭を下げて鐵を輸出して貰つた、と云ふ位の事である、日本の工業はどうかと云ふとそれは非常な發達はしました、併ながら世界と云ふ上から見ましてどれだけの發達をしたかと云ふと、戰時中はどうやら南洋東洋の方面に於きまして多少の働きをした、併ながら戰爭が終つて此方は段々勢力が削減せられまして、今日は愈々不景氣が襲來したと斯う云ふやうな譯である、勿論不景氣の襲來は全世界を通じたことで日本ばかりでありませぬけれども、併ながら日本の貿易額の減額は非常である、此の如く諸產業の方面から見まして特別に秀た材料が無くて、是だけの人口を包容して居

民が自覺して來て此模範村の實狀は斯う云ふ風だ、と云ふやうな道德的の事柄を敎へる、經濟の事にしても勤儉力行とか或は協力互助の精神とか云ふ風のことを頭に入れて、如何なる事柄を說くにしてもずつと其中に流れて居る脈絡根抵を失はないやうにする、是が背景としてと云ふ言葉で現したつもりであります、何時でもどんな事柄を說くにしても其點を忘れないやうにして敎育致しましたならば、公民敎育と云ふものは其意義が明かになると斯う私は信ずるのであります、尙ほ其點に付てもう少し委しく申上げたいと思ひますが時間がありませぬから此位にします。

次に第二に實業補習敎育と公民敎育の關係に付て一言申上げます、卽ち公民敎育は果して只今申上げましたやうな敎育內容であると致しますならば、公民敎育は國民全般の敎育である必しも實業補習學校に限るものでない是は明な話であります、隨つて一般の國民に對して公民敎育を施す方法はどうしたら宜いかと、云ふ事は一ッ別に攻究すべき問題だらうと思ひます、併なから一ッ申上げて置きたいのは、外國では大變に公民敎育は發達して居るやうでありまして、一般國民の讀むべきもので諸君も御覽になりましたらうが英國にシチヅンリーダーと云ふものがあります、薄い簡單な本であります、日本の中學校などでも敎科書に使用して居る所もある樣でありますが、英吉利國民の精神と云ふことに付てどんな人が見ても能く分る、其本は旣に五十萬部を越えて出て居る又英吉利本國のみならず殖民地用の本も作つて居る、非常に良い本で澤山の色々の面白い實例を持つて來て公民敎育の要項を說いて居る實に良く出來て居る是と同じやうな種類の本が日本に出來ない事を私は非常に遺憾に思つて居る、竹越與三郎さ

有名な國でありますが、調べて見ると歐羅巴的に小さいだけで世界的に小さいと云ふ意味でない、小農と申しましても十五六町步位のものである、それは氣候の關係や色々の關係があるから、單に面積の對照を以て比較する事は出來ませぬけれども、兎に角日本の農業は小さいと云ふ事は事實でありますが、其農家が經濟上如何なる立場に立つて居るかに付て調べて見まするとは、勿論此調査は困難であります大農の調査は比較的簡單でありますが、小農の調査は一番困難である、小農の經濟調査は非常に困難なものである、だから經濟調査の結果と言つて見ましてもそれで正確と云ふ譯でない、唯二三の例を擧げるに止めなければならぬ、農商務省が大正九年に於きまして全國四十ヶ村百二十戸に付きまして調査したところに依ると、自作農も損が立つ二町一段ばかりの自作農に於きましても百圓に近い損が立つ、一町五段の自作農は二百五十圓許りの損になる、といふことであります、愛知縣農會の調査に依ると一日一人前の勞働者の賃金として計算すると一番多いのが二圓五十三錢、其次は一圓二十五錢、其次は九十六錢、其次は五十九錢其次は五十一錢三厘となります、それから農業地の一年の利廻を計算すると、それは非常に都合の宜い農家で最高一割六分七厘、其次が一割五分三厘其次ぎが一割四分五厘其次が一割一分三厘となつて居ります、利廻計算は地價の見積如何に依て違ひますから問題になる點もありまするが兎に角其大體の輪廓だけは之を認めることは出來やうと思ふ、さうすると農家の經濟は餘り有難くない狀態の下にあると云ふ事も亦事實であります、さうして此原因は何所にあるかと云ふと先刻も申した如く、日本の農業は規模が小さいからと斯う云ふ方が一番適當であるかのやうに思はれる、皆樣の御承

知の通りに近頃他の府縣に於きまして問題になつて居るものゝ、最も注意を引くものは何であるかと申しますると小作人問題であります、小作人問題は是は地方に依る問題であるのでありますが、併し可なり重要な問題の一ッになつて居つて農村問題の中の中心問題である、どうしてさう云ふ問題が起つて來たかと申しますると、それには色々の理由があると思ひます、今其理由を一々此所でお話する必要はない、必要があつたと致しましてもお話する譯にいかぬだらうと思ひます、兎に角色々の事情に依りまして起つて居るのでありますが、最も重要なる理由は小作農の經營面積が小さいと云ふことに在る、是はどうも認めぬ譯には行かない、小作農と云ふと其文字の示す如く小さい農業者と同一でありますが世界的に見ると、小作農は必ずしも小さいものと極つたものでない、私は蘇格蘭へ參りました際に小作人組合の事務所を訪問したことがある、其小作人組合長は「カードナー」と云ふ人で、それにお目に掛からうと斯う言つた所が、向ふが大變に不思議に思つて、『お前は私の名をどうして知つたのか』と言ふ、私はそれに對して『お前さんは此間倫敦に開かれた王立農業調査會に出席したではないか』と、返事すると彼は『さうかそれならば知つて居る筈だ』と言つてゐたが、其人は三百五十「エーカー」の小作人です、其調査委員會と云ふのは「ロイドジョージ」が戰時中農業保護の爲に大演說を致しまして、其大演說の結末を附けるが爲に英吉利の農業の爲に重大問題の調査をする、其爲に召集せられた最高委員會でありまして、彼は此の委員會に出席して居るのであります、勿論三百五十「エーカー」と云ふのは決して大きいのでない、けれども兎に角出席の出來る人である、それから色々の話をしまして私の農場を見て呉れないかと言ふ、私はさう云ふ招待を受ければ必ず行くことにして決して斷りはしない、時間を極めて翌日行つて見た、所が中々立派な家に住んで居つて自分の農場には家畜の用はない全部トラクターを使用するといふて居たのであります、是が英吉利の小作人である、佛蘭西に於きましては例の「メタイヤージ」と云ふものが行はれて居るが是は一ッの小作人で收穫物を半分けにする分益農であります、私は中佛の「ムラン」といふ町附近に參つたのでありますが、其農家はどの位の段別を持つて居るかと云ふと、其耕作段別は大體五十町以下のものはない、それが小作人でありました、亞米利加の米を作つて居りまする農家の中で日本人の農家などは、自分で土地を購入する權能を持つて居らない、法律の爲に持つことが出來ないで皆小作人でありますが、其小作人はどの位の耕地段別かと云ふと千二百「エーカー」四百五十町歩の土地を耕作して居る、之をとれだけの人で耕作して居るかと云ふと一年を通じてそれを二十人の少ない人で働いて作る、四百五十町歩と云ふと村としても大きい村で此縣に於きましても、先づ一村の土地に相當するだらうと思ふ、それを二十人で耕作して居る譯である、小作人と言つてもさう云ふもので、是は自分で土地が得られないから已を得ない斯うやつて居るのでありますが、兎に角それが歐米に於ける多くの小作人の狀態である日本のは之に反して所謂小作人である、隨つて小作の問題は小作料の高低に付て起る、さうして小作料の高低に付て問題の起るのは不思議なことではない、それは利子の高低に付て起るのと變らない、英吉利の小作制度に於きましては、やかましい問題は何であるかと云ふと、小作人が其土地の爲に施した永久的改良に對して地主はどうして賠償するか、斯う云ふ事が重

大な問題であります、地主は小作人の作つて居た耕作地を取上げてしまう場合に、其小作地に排水工事の如き土地改良を行つて居たときにそれに對する賠償をする道を小作法に設けてある此の種の事項が小作問題である、亞米利加の小作問題は何であるかと云ふと、それはやはり地中維持の問題が一で有色人種の土地小作が他の小作問題である、其外には小作料の高低問題しかない、日本の現時の小作問題は無論形式の上に於ては安くして呉れと云ふ要求から起つたものであるが、併しそんな問題はどうでも宜いそれは重大問題ではない、それより深き問題が日本にはあるのであります、其問題の根柢は何所にあるかと云ふと。小作農の耕作段別が如何にも少なく、農業が不引合と云ふ事にあると私は思ふのであります、農商務省に於ては小作調査會を設けまして、將來の日本の小作制度に關し調査を進めて居るが、聞く所に依りますると小作法を制定しやうと云ふ考もあるやうであります、それに付きましては小法制度調査委員會の幹事の草案と致しまして、新聞紙上に現れたものがあります。其の後小作法を制定することは大切であるのが、それよりも更に急施を要することがある、それは一日も早く地主小作人の間に起つたところの爭議を如何に調停する爲に、小作調停法を制定しやうかと云ふ案があるやうであります、さて調停を爲すには適當な調停者があつて之を爲すのであるが、どうしても茲に調停の材料即ち小作料を公平に決定する標準がなければならぬ、此の標準は平素に於て調査して集めなければならぬ、けれども日本にはさう云ふ方面の努力はないのであります、瑞西に於き三しては此材料を集める事に付きまして農會が非常な努力をして居るのであります、瑞西の民法に依りますると農業地を相續する場合に於きましては、我國で認める如く長子相續でなくして數子均分法であります、子供が三人あると三人に均分するのが即ち民法の規定である、だから農家がありまして十町歩の土地を持つて居れば、どう云ふ工合にして十町歩の土地を相續せしむるかと申しますると、それは三人の子供に均分することにしなければならない、併ながら十町歩を均分と云ふ事になつては農業として成立するには餘りに小地面となる、是に於て十町歩の土地は長男にやつて、長男は次男三男に對して大體三分の二に當る金額を與へねばならぬ、若し此の際分配に付て兄弟喧嘩の起つた時にどうするかは重大な問題である、此の際土地の價は幾何かと云ふ事が中心問題になつて居る、土地の價が幾何で宜いかと云ふ問題をどうして極めるかと云ふ事になりまするとそれは材料がなくては出來ない其材料を農會が求めて居るのであります、さう云ふ事を過去二十五ヶ年間やつて居る、私が昨年の十二月に參りました際に滿二十五年になると言つて居りました、二十五年で廢めるかと云ふと決して廢めはしない、廢める見込はない年々引續いてやつて居ればこそ、此地方の普通の狀態では是だけの收入があつて、是だけの支出があるから、此土地は此位の價のものであると云ふ見當が附く、比較的ハッキリした見當がそれに依て附く、キチント三百圓なり三百五十圓なりと知れぬでも凡その見當が附く、其見當を附ける爲に長い間調査して居る、其經濟的調査を我國でも帝國農會が三年やりましたがそれつきりで止めました、三年は練習時代に過ぎない練習をしてそれでもう廢めてしまう、農商務省が全國農家の經濟調査をすると云ふから、何年續けるかと云ふ事を聽いて見たら當分三年だと云ふ話であります、三年なら矢張練習に過ぎない、それではさう云ふ物に對する

ところの材料となる事は出來ないのである、日本人は氣短でありましてさう云ふ材料を集めて、さうして根本的の標準を極めて問題の解決をするに必要な根本を造ることを忘れて、唯百姓は合はぬから廢めてしまうとか爭ふとかする、思はざるも亦甚だしといふべきである、兎に角さう云ふ努力さへありますれば今お話しました問題の如きは簡單な問題になつて來ます、併ながらまだ解決の出來ない問題がある、近頃小作問題は勞働問題のやうな形を取りつゝあるが、私は小作問題は勞働問題と見ることは出來ないだらうと思ふ、併ながら勞働運動などに從事して居る連中から干渉されないやうにしなければならない、工業勞働の運動者の手で改善に力を盡すと云ふやうな事になると、却つて農業問題の解釋をむづかしくする、勞働運動でないものに勞働運動の名を與へて、さうして農業者から勞働運動の資本を取立てやうとする努力があるのであります、現に小作人から米を三升宛取立てやうとして居るものもありますがそれが小作問題解決になつて來ると思つて居ると、何時も勞働運動の親方の腹に入つて居るやうな事も無い譯でない、此勞働運動と云ふのは色々の方面から致しまして、農村に今這入りつゝあると云ふ事などは、此所でお話する必要はありませぬが、兎に角さう云ふものが農村運動の中に這入りつゝあるのは事實であります、又昨年の十一月に於きまして日本の勞働側を代表した所の人が、第三回國際勞働總會に於きまして、日本の小作人は勞働者的であるからして勞働者と認むべきものであることを、世界の人々の諒解を得たいと云ふので提案をしたのであります、それは提案の趣旨は經濟上の狀態は勞働者の狀態と似寄つたものであるからと云ふに違ないのであります、けれども亦其趣意は小作人組合を公然に認めたいと云ふ事からの努力であらうと思ひます、けれども小作人組合は勞働組合となる事は出來ない、日本の小作人と云ふものゝ性質を考へますと、成程純然たる小作人もあります、併ながら又自作兼小作と云ふ人もあります、地主兼小作人と云ふ人もある極端な例を取つて見ますると、自分の土地は人に貸して置いて自分が小作人と云ふ人もある、表面に現れた純然たる小作人が他の町村に於ては土地を持つて居る、或は其家の宅地を持つて居るとか或は自分の家も持つて居ります、工場勞働者に於て見まするやうな常に住むに家なく家も借りて住み、生產手段は本當に自分の腕だけしかない、斯う云ふ者とは意味が違ふ、そこで小作人組合と勞働組合との間にはどうしても差がなければならぬのであります、けれども、勞働運動者の側から申しますると、狹い自分等の間に於ける勞働運動だけでは何とも軍資金が不十分でありますから、之を出來るだけ範圍を擴げて、さうして此擴げた所からして勞働運動の氣勢を揚げやう　試る、向ふの立場を考へて見ましたならばさうなくちやアならぬ、さうだからと申しましても必しも小作組合と勞働組合とは同一であると云ふ譯に行くものでない。

小作人の耕作して居る所の土地が斯う小さくなつた原因は一體何所にあるだらうか、是も一ッ考へて見なければならぬ、自作の方も同樣でありますがこれは先に述べた通り徹底的に內地殖民政策が行はれたからであらうが、獨斷的の嫌はありまするが、元は斯う云ふ事であつたのではなからうかと思ふ、吾々の先祖は兎に角土地を開いて來た、所で日本の農業に於きましては初は自分の手先を助ける鍬鎌を用ゐるより外仕方がない、さうして土地を開拓して見ると、多くの土地を自から耕作する事は出來ないそ

こで近所の仕事の無い所の人を勞働者として手傳に來て貰つた、手傳に來て貰ふ事になると農業は季節の仕事であるが爲に、年中其人を雇ふことは困難である、一人二人の人なら色々な仕事で使つても居られるが、多くの人になると迚も農業のやうな甚だ單純な仕事では年中使ふことは不可能であつた、そこで土地を拓いた所の農業者は、必要な時には手傳となつて働き必要でない時には、自分で生活の根據を固うする爲に働く人を必要としたやうに思ふ、個人々々をして、生活の根據を固うせしむるにはどうしたら宜いかと云ふと、其の拓いた土地をそれ等の人々に貸渡して其土地を耕作させる、斯う云ふ事が卽ち小作と云ふ所の原因であらうと思ふ、日本の小作制度は其農村に於ける農業勞働者の中で、資本もない土地もない唯腕一本の人に事業を與へて、さうして生活の根據を確實ならしむる爲に拵へた所の農業勞働問題の解決の爲めに出來たものであつたらうと思ふ、如何に耕作地が少ないとしても農業勞働者にそれだけの職業を與へる爲に土地を貸して、それを以て農業經營を爲さしめたならば生活の根據といふ點から言つても、比較的確實なやり方であつたと斯う言はなければならぬ、小作は實に農業勞働者の位置を安全ならしむる爲に試みたところの手段であつた、斯う云た方が宜からうと思ふ斯う云ふ事は單り日本のみならず、歐羅巴に於きましても其通りで昔の農業のやり方は、矢張小作人的勞働者と共に農業を營んだのであるが歐羅巴に於きましては機械の發明などがあり、經濟上の變化もある人口減少などいふことが起りまして勞働者を得ることが出來ない、そこで段々便宜大農業を實行することになり小作人的勞働者は農業勞働者となつた樣であります、所で日本に於ては農業勞働者の地位改善の方策として執りました所の小作制度はずつと昔歐羅巴で無くなつたにも拘はらず今日も尙存在して居るのである、然して歐羅巴に力ては今日どうなつて居るかと云ふと、農業勞働者の地位の改善の爲に何とかして、土地に歸らせたいと云ふ事を言つて居るのであります、其事情から申しますると日本ではもう先鞭を着けて居ると斯う云ふ事になるのであります、日本ではずつと續けた制度を外國にては一時廢めてしまつて、農業勞働者が經濟上の影響を受けて困つて來たから何とかして、土地を分け與へて之を小作人たらしめやうとして居るのであります、此點は今日に於て日本の方が一歩進んで居る譯である、英吉利などに較べまするとと數歩も數百歩も進んで居ると斯う言つて宜からうと思ふ、英吉利は千九百七年に於きまして小農地法を作りまして、さうして土地を勞働者に貸渡すことにして居るのでありますが、其成績を見たいと思つて、昨年の春倫敦から五十哩行きましてさうして其所の組合長を訪問しました、所が是は三百五十「エーカー」も持つて居る小作人でありませぬ、唯の勞働者的の小作人でありますから、話をしても最初は一向分らぬ其小作人の英語の發音が非常に違ふので大に面喰つたのであります、段々話して行くと其所にあァあの事だなと云ふことが漸く判つて來た位のことであります、農家へ行つて見まするとと實に小さい棟割長屋で一ッ家を半分にしたものでありまして、其の生活は中々困難なものであると考へなければならぬ、が政府は色々な手段方法に依て、此の種の小作人の增加を圖つて居るが其の數に於きましては努力に應じた程の增加をして居らない、之に較べて見れば日本の方は全國を通じて、小作制度が行はれて居るから日本の方は寧ろ宜い位であらうと思ふ、然して日本程國內を通じて農業勞働者の數

の少ない所はなからうと思ふ、英吉利の如きは二百萬人以上の農業勞働者を持つて居るのであります、獨逸に於ても勞働者の家を行つて見たのであります、伯林市外には二千町歩の伯林市直營の農場があつて、其附屬の農業勞働者には特別の家を造つて貸して居ります、それを見に行つた所が勞働者の家としては外形上洵に立派でありましたが、其所に這入ると洵に慘憺たるもので矢張綺麗なものではありませぬ、日本は幾ら居るかと云ふと此調査も實は十分でないか知れませぬが、政府の調へた所に依ると四十萬人に達しないのであります、此農業の至る所に行はれて居る日本に於て、農業勞働發として算へるものは四十萬人に達しない、是は農業勞働者に對して土地を貸してそれで小作させて來た、其小作法の結果であると斯う見た方が私は適當であらうと思ふ、所が此小作が初めに徹底的に日本に行はれたものである、昔はそれで宜かつた人間の慾望の小さい場合にはそれで適當なものであつた、不足ながらも先づどうやら斯うやら今日までそれを維持して來ました、今日に於きましては前述の如き多數の人が農業を營んで生　をして居ります、さて此生活はどうでありませうか前述の如く農業上の計算では損が立つのである此地方に於ては多少相違がありますが、廣く日本全體を見まするとこの損失の原因は矢張農業の規模が小さいと云ふ事に歸する、從つて小作問題の陰には生活上の問題が基調を爲して居るやうに見える、農業の規模が小さいと云ふ事の一面に於きましては、小作人の生活問題が小作問題の原因を爲す樣に思ふのであります、所が生活問題には多少標準がなければならない亞米利加の生活標準とか英吉利の生活標準だとか、或は其他の國々の生活標準なども考へなければならぬ、近頃は頻りに所謂文化生活と云ふことが流行する文化生活とは人間らしい生活を意味する樣にも見えますが人間らしい生活とは一體どう云ふ意味か是も甚だ明瞭でない、若し英吉利の中等階級の生活の程度に對して、日本人はどの位の生活をして居るかと云ふと、日本人は殆ど全部が英吉利の中等階級の生活度程に達して居ない、斯う言つた方が却つて宜いかも知れない、貧乏人でどの人だつて滿足なものをして居る人は居ない、何所を見たつて滿足なものはない、家から申しましても何から申しましても文化生活が何所にあるか、自働車は塵芥を蹴飛して走つて居る、乘つて居る者は宜いが沿道の者は甚だ迷惑、日本の道路の如きは自働車に適しない元來はさう考へた方が宜い、靴を履いたらどうか日本の道路は靴を履く所でない、靴を履くのは無理である履かない樣に出來て居る、吾々の先祖は能く考へたもので日本人は『あきらめる』事には餘程强い國民である、斷念むることは餘程得意である、天氣が惡く、從つて道路が惡いと直ぐ足駄を履いたのである、道路を良くすることはせずに、地球と絶縁する爲めに足駄を履くといふあきらめ方である、從つて今日では物資の乏しい國に於ては、其生活標準を高めることをあきらめたものである、然るに今日に於ては人間らしき生活をしやうとする、勞働者ならば其の生活に必要なる最低賃金と云ふ問題が起つて來る、學校の教師なら最低俸給の問題になつて來る、家を借ると五十圓の家賃が要る、洋服は着なければならぬ、子供は教育してやらなければならぬ、貯金もしなければならぬ、斯う考へて見たときには一ケ月何程なければならぬといふ樣に計算して最低俸給を幾何などいふことが起る、英吉利の勞働者から申しますれば、勞働者だつて人間である人間である以上は相當な生活をさせて貰はなけれ

ばならぬ、自分が食うだけではならぬ自分の一家が食うに足る賃銀を貰はなければならぬ、細君が幾ら子供が二人になれば一人の時より餘計貰はなければならぬ、斯う云ふ最低賃金を考へて要求する、偖吾々の仲間の俸給はどうであるかと云ふと誰も不滿足である、然し縣内の事情日本國内の經濟的根據を考へると、此の如き希望も多少の制限をしなければ問題にならない、それと同じ樣に日本全體の農業者をして文化的生活を爲さしめやうとしても今急に之を實現することは不可能である、日本に於きましては三杯の飯を四杯食つたら破産します、今日以上飯を食はせる事は出來ない或は三杯でも多過ぎるかも知れない、さう云ふやうな譯でありまして、小作料が高いから、それをもう少し安くしたからといふて小作人に文化生活をさすことが出來るであらうか、尙ほ一歩進んでは地主の土地を取上げて小作人に與へても一町歩に過ぎない限り文化生活を爲すことは不可能である、之と同時に取上げられた地主は全く飯は食へなくなるから之を何とかして食はせなければならぬ、是は文明國の施設として當然免るべからざる事である、是等の者に飯を食はせて行かなければならぬ、飯を食はせて行くには露西亞の「ポリシェキ」のやうに、働かない者は飯を少なく食へと云ふやうにでもしなければならぬ、それはどうでも構はないがそれは別問題としまして日本國の土地を利用して現在の農業者が皆文化的生活を營むことが出來るかと云ふとそれはむづかしい話しである、それならば其中の少數の者が文化的生活を營んで宜いか、日本の農業者は五町歩耕作しなければならぬ、斯うなつて來ますると日本の農業者の二千八百萬人の中の五分の一以外は文化的生活が出來ないことになるさうでせう、日本の一農家は一町歩餘を耕して居りますから、五町歩を以て人間らしい生活を行ふ事が必要なりと致しまして、さうして實行する事になりますると、二千八百萬人の人口の五分の一のみが農業に從事することになるのである、殘り二千八百萬人の五分の四の二千二百餘萬人は一うするか、其適當なる方法を考へなくてはならぬ、日本の工業は盛ならば宜しいが、併ながら工業の勞働者の境遇と云ふものは、今日の農業界に居りまする所の勞働者の境遇と較べてそれだけ幸福でありませうか、成程工場勞働者には八時間勞働の實施せられたものもありました、八時間勞働となつたのに著しく改善せられたる如くでありますが、日本人は勞働する場合に於きましては、成べく細長くやるやうに今までやり來つた、歐羅巴人は仕事に全力を集注する八時間勞働と言へば、何時何分に始めて何時何分に終ると云ふと、正確に其通りに仕事を始めて其通りに仕事を終る、それが八時間勞働で正味八時間働く、日本人は正味八時間は働かない、小學校の先生は一番能く働いて居ります是は事實だ、官廳の人々の働く時間の如きも極めて少ない農業者の勞働時間は極めて多い、日の長い間は餘程働く、京都の農會で調査致しましたのでは、一年間に三百七十日働いたと云ふ事になる、どうしてさう働いたかと云ふと是は當然なので一人の勞働時間を十時間として之を一人と名づける、農家は朝早く起きて夜遲くまで働くから、一年間で三百七十日と斯うなつて來る譯である東京の中央停車場の前にある丸ノ内「ビルディング」の建築をした技師は亞米利加人であるが、亞米利加人が日本人を亞米利加式にドシ〳〵使つて見た、所が日本人の勞働者は一番早く弱つてしまひ、亞米利加人と同じにやれる者はない、さう云ふ事の習慣にならない、煙草を喫つたり立つて居て話をしたり汽車の通るの

を、眺めて見たりやつて居る所の氣樂なものであるから、其氣樂な勞働を廢止して正直にして短い時間に十分な勞働をして、餘つた時間を以て少し娯樂の爲に使ふとか或は修養も致したい、と云ふ事で八時間勞働と云ふ事が必要になつて居りますが、日本に於きましては八時間勞働後の時間を利用するの設備がないから餘つた時間を無駄に費してしまうか、或は夜業をして仕事をするやうな事で八時間勞働の効果がない、八時間勞働と云ふやうな勞働時間を短くした結果として何も得るところはない、歐羅巴の勞働者階級に於ては眞爲に多少餘裕が出來て居ります、けれども日本の此工場勞働者の間に於きましては理想としては宜いけれども、只今其樣な事を實現する時期でない、彼等は辛うじて生活して居るに止まる修養などは相變らず出來ない、況や勞働者の失業にならぬやうにし、又人間らしき生活をするやうな施設は出來て居らぬ、寧ろ其の生活狀態は小作人の生活よりも悲慘なものがある、さうすると工業界に於て生活狀態を改良する爲に農業者二千二百餘萬人を容れる餘地が何所にあるであまりせうか、さう云ふ問題が若し起つたとしたならば是は重大な問題であります、農業政策として農家の中の或る特別の人々だけに利益を與へて、二千二百萬は人何所へやれるか、さうふ云政策は決して成立つべきものでない、それでさう云ふ相談は此國内に於てしたつて駄目だ、天下は廣い人間到る所青山あり人間は何所へでも行ける力を持つて居る、と斯う申しましても日本人の行く所は一體何所にあるか、亞米利加へ參りますには中々やかましい私が墨西哥の國境に行つた時、丁度其所に巡査が居つてお前は免狀を持つて居るか、と斯う聽かれたから、一體お前は吾々に對してのみ何故其樣な特別な取扱をするのかと逆襲をする、イヤさう云ふ事を言つて下すつては困る、吾々は役人で役目であるのだからどうか其邊は宜しく考へて呉れ、斯う云ふ事を言つて居るのである、亞米利加では吾々の旅行券まで取調べる、さう云ふやうな事までして日本人を恐れて居るのである、亞米利加でさへさう云ふ事であるから何所へも向つて行く所はありはしない、さうすれば此多數の人と云ふものは今まで包容して居つたのであるが、之に對して急に何等かの活路を見出さなければならぬとしても今日はとてもそれに成功の見込がない、さうすれば「サンガー」夫人が入用になりますが、それは將來のことである、現在居る所の人間をどうするかの解決にはならない、そこで文化生活を行ふと云ふ事は是は將來に於て、何とかして文化生活を出來るやうに努力するといふことなら宜いが、今急に其問題の解決は出來ぬ、又農業を引合はしむる樣にすることも農業の方面から直ぐ解決の附くものでない、國民全般の經濟生活の改善に問題であつて、而も國家の存在とも密接の關係ある國家問題までに結付いて居る問題である、是に於て農村問題は單純の農業問題農民問題とは離れてしまう、吾々六千萬人の國民の總てに關聯した所の問題になつて來る、私共は斯う考へなければならぬだらうと思ふのであります、殊に國家問題と致しまして農業の問題を考へて見ますると、少數の人だけを農業上から見て引合ふやうな方法を立てゝ、さうして此六千萬の國民を養ふことが出來るかと云ふ問題も起つて來る、今まで一町作つて居つたものを五町歩とすると、それで日本國民を養ふ事が出來るかと云ふ問題になりますと、生産高は私は寧ろ增加しない農業者それ自からの懷中を宜くするかも知れぬが、生産高と云ふ方から申しますると經營面積を大にする方が減る、小作人を廢めて地主は自分

の土地を耕作すると云ふ方法にして、文明の利器を使ひ「エンヂン」とか「トラクター」とか云ふやうなものを使つて、農業をやると云ふ事は出來は致します、けれども其途を取ると却つて生産高が增加せずして却つて減る、所が食物の自給は今日のやうに戰爭が終り平和が來ては、必ずしも固執するの要がない譯でありますが、其前提は既に誤つて居る、今日の國と國との間には斯うやつて平和になつたやうなものであります、けれども中々事實に於きましては私共の見た所では平和と云ふものは容易なものでない、「ヴエルサイユ」の條約の結果國は減つたかと云ふと、却つて增して居るのであります　皆さんも地理學の方で調べたお方もありますか知れませぬが、多くの小さい國が獨立して生れたのであります、其小さい國々は各々其國境を嚴重に守つて居るのであります、さうして吾々が旅行をすれば吾々の懷中にまで手を入れやうとする、墺太利、獨逸あたりへ入らうとすると、お前は幾らの金を持つて居る三千「クローネ」と免狀があれば出せと言つて迫つた、そんな三千「クローネ」なんて金は持はしないと言つてそれで通つたんですが、三千「クローネ」は幾らかと云ふと日本の金にして一圓に過ぎない、一圓の金のことをやかましく言ふ、それ程國境を嚴重にして居る、さう云ふ工合にして國の數が殖えて國境を守る兵隊も多く置かなければならない、墺太利勾牙利の間には私が參りました際に於ては、勾牙利の王樣が飛行機で瑞西から國へ歸へる、さうすると反對黨はそれはいけぬといふ遂に國境が閉鎖されて居たやうな譯で國々が中々やかましい、此間「ウルグアイ」と云ふ國には御承知の通り內亂があつたのであります、支那の如きは絶えず內亂がある、世界の各國が斯う云ふ風で平和々々と云ふが何所に平和があるか、何かあれば直ぐ革命でも起りさうな國は幾らもある、獨逸の中にはストライキが起ると飯も食へない水も飲めないと云ふ虞のある所もある、就中維也納の如きは何時食物暴動が起るか分らぬ其情なさ加減は可憐なものであります、此大戰爭の後には平和が長く續くことであるか、只今の所に於ては何時國境の問題が起らぬとも限らぬ世の中であります、ワシントンに於ける四國協約は十年間の軍備縮小を決議したに過ぎない歐羅巴に於きましては「ゼノア」會議がありましても、それは三年間かの不可侵協約を作り上げたに過ぎぬさうして少も平和の樣子はない、さう云ふ譯でありまして一國內に於ては食物の自給はどこまでも必要である、少なくとも世界の各國に於て斯の如き情態續く限り、又世界に食物を供給する場所を持つて居ない以上は、どうしても食物の供給を多くすると云ふ事は、必要である食物を減ずると云ふ事はどうしても出來ぬのであります、國と致しましては原料から考へても同じことで出來るだけ國內に於て、原料の供給を裕にする事を考へなければならぬことは言ふまでもないことである、日本は原料がないが故に一層原料を多くすることに努力しなければならない、無いからして他國から融通して貰うと云ふやうな事を言ふ人があるが其の融通に依りて國內の產業を衰退せしめ國民の職業を減少せしむることのあるのを氣付かざるは思はざるの甚だしいものである、吾々はどこまでも生產物の增加を圖り其の方法を盡すと同時に、生產物の販賣を農業者の手に納め、需要品の購入は又農業者の手で致すことにし、農具機械などは之を最も經濟的に使用する、と云ふ方面に一層多くの努力をしなければならない、交通機關の如きものも農村に於ては甚だ不十分でありますから、それ等の方面の改善も圖つて農產

物の出入の便利を與へると云ふ事も考へなければならない、金融の問題から申しましても中央の金融市場と地方の金融市場とを較べると、地方の金融市場は農業者に對して極めて不利益なる狀態にあるから、信用組合を設くることの必要あり、組合のある所に於ては一層其の活動を促すことも必要である又事情の許す限りに於て社會的方面に於きまする改善をし、衛生的施設例へば農村をもう少し清潔にするとか用水の配布をよくすることも必要と思ふ、蚊の驅除などにも一層努力の必要があらうと思ふ其外に申して見ますると色々ありますが、農村に於て惡風の矯正すべきものは之を矯正する手段を講じなければならぬ、隨分地方に依ては色々の惡風がありはしないか、例へば本縣などに於て私は機會のある度にお話致しますが酒の密造の罰金を納めないやうにする方法はなからうか、皆さん御承知でありませうが、大正二年に私の調べた所に依ると罰金額が十萬圓を越して居つた、其の後矯正の爲に努力せられた樣でありますから近頃は減つたに相違ないと思つて居ましたが調べて見ますると大正八年に於きましては增して十二萬圓になつて居つた、勿論大正二年からは其間に增減もあつたでありませう、併ながら達觀すると年々十萬圓は缺けた年は少なく、大正七年に於ては少し缺けて居つたが、兎に角年々十萬圓からの罰金を取られる者のあるのは、本縣としては此方面の努力が足らないではないかと思ひます、勿論日本の法律の上に缺ける所があつたならばそれを直すと云ふ事もしなければならぬ、惡弊だからして其惡弊のみを矯正する方法を執るだけでは充分でない之と同時に、他の方面に於ては制度の缺けた所を作り替へる事にも努力しなければならぬと思ふ、皆さんの中の大半は教育に關係のある方々と思ひますが、教育の方面からの矯正も必要と思ふ且つ酒は之を組合又は會社にて造ることも考へねばならぬ、單に罰金に依りて惡弊を矯めやうとしても目的を充分に達するものとは思はれるに、過去の若し法律に缺けた所があれば其方法を立てゝ行くと云ふ事實は證明して居る以上は主として農業者方面に於ける問題解決の方法でありますが、國策としても考へねばならぬ例へば自作農維持の方法を立つ事とか自作農を增加するの途を講ずる事もありませうし、本縣の如き開墾地の多い所では縣の事業と致しまして、開墾をして困難なる所の農民を之に移すことの必要もありませう、外の縣の困る者を本縣の如き所に來るやうにするやうな手段も必要でありませう、又農家の負擔も相當に多いのでありますから、之を出來るだけ減少せしむると云ふ事も必要でありませう又縣の施設の中で農業者の生活を良く導くと云ふ事の爲に、まだ〳〵しなければならない仕事も多いだらうと思ひます、例へば農事試驗場は唯農事の試驗をするだけのものでなくして、寧ろ農業試驗場は如何にして農業者の生活全體に對してどうすれば都合が宜くなるか其方法を攻究してやる事も必要であらうと思ひます、從來亞米利加の農事試驗場の如きは此地方の農家の改善をするにはどうしたら宜いか、農家の生活改善法如何、さう云ふ事を農事試驗場が研究して發表するのである、或は農家の副業問題にしても或る農事試驗場が農家に適當なる事項の研究をして、是は斯う云ふ手段で實行をすれば最も便利で利益であると云ふ事を當業者に知らしめてあります、今後は農事試驗場は農村に於ける一切の人々の全生活を改善する上から見まして此等の點に付きても、も少し努力すべき點がありはしないかと思ひます、又國及縣などと致しまして更に重大な問題は物價を下落せしむる

ことであります、物價はも少し徹底的に下落せしむる方法を實行しなければならぬ、今日の物價を國の法律を以て下落させる事は出來ぬことはないけれども、それは可なりむづかしいのであります、其手段方法に付きては尙一層研究を必要としますが、それよりも消費者自ら其の位に當るべきではないであらうか實に日本程物價の高い國はない、現在日本に於て生活するよりも金を持つて外國に行つて生活した方が宜い、文化生活を行ふには外國に行く方が却つて安い、一番生活費の安いのは墺太利でありまして、獨逸人でも墺太利に行つて飯を食つて居る、それから獨逸の物價は安い、其外の國は英吉利などに於きましても此間お話もあつたらうと思ひますが、ずつと戰爭中よりも今は物價が安くなつて居る、日本に於きましては相變らず貨幣の數量が多い紙幣が餘計に發行せられて居るから、色々な物價下落の施設も一向成績が擧つて居らぬ、是に於てか消費者自からの努力が必要で、高い時には物を買はないことにする一體日本人は非常に贅澤で電車などに乘つて見ると、日本人の着て居る洋服は皆贅澤なものである、向ふの人は絹裏などを使う人はない、第一電車などに乘つて見ますと、倫敦などでは地下電車の中でも日本人のやうな立派な服裝をして居る者はない、日本人は貧乏な割合に比較して贅澤である、斯う云ふ點に於きましては消費者にも罪がある、消費者がもう少し物價の下落と云ふ方面に努力しなければならぬ、是は政府の政策と云ふ事も必要でありますが、それと伴つて消費者に於ては高い物は買はぬことゝ爲し、又消費組合等の手段方法を執り、公設市場の能率を高むるならば更に一段の効果があると思ひます、諸君此國は世界に於ける五大强國とか三大强國とか言はれまするけれども、其貧弱な程度に於ては戰爭に參加して打擊を受けた國程にもとても行かない、さう云ふ國の狀態にある事から考へても國民全體をして、もう少し職業上に於きましては能率のある國民にしたいものである、働きの力のある人をもう少し多く造つて行きたいと私は思ふ、吾々は職業に關する所の教育を授けるやうにしたいものと思ふ、普通の教育とは自分の職業に關する事を基礎として教へる事でなければならぬ、今日の世の中に於ては國民教育の一割は上の學校に行くかも知れぬが九割位迄は上の學校に行かない、中學校に入學する人が少し許りで更に上の大學に行く者は極く少ない、教育とは何ぞやと言ふと特權階級を造るにあるものではない、國民全體から申しますると吾々の日常生活にもつと必要なる事を、もう少し力强く教へる事が、寧ろ國民教育と云ふものゝ本旨である、此國民教育を八ヶ年にする場合に於きまして、其の延長したる二年を如何にすべきかと云ふ問題があつたならば、私はそれは今日迄の小學校の二年の延長ではなく二年の延長は之をもう少し吾々の日常生活に必要な事柄を教へることにすべきものではあるまいか、かくするにあらざれば延長の意義を爲さない、さうして私は工業教育商業教育農業教育と云ふやうな實業教育は、是は中等教育としては本體であつて、今の中學校の方面は傍系であるべきではあるまいか、國民全體の教育を大學に於て引受くるといふならば中學校を本體として宜いけれども、全體の國民を其所までする事は實行出來ないし又必要もない、これは何所の國に於きましても其通りであります、實業教育は決して中等教育の變體でない、寧ろ本體であつて、此の方面に對して吾々は大に努力しなければならない、中學校教育は之に對しては寧ろ横町の教育である、是は特別にやるべき教育である、亞米利加の

學校に參りましてもさう思ひます、英吉利に於きましても中學校は金持の子弟か士族だけの學校で、平民農民の教育或は小作人の教育と云ふものは實業教育を以て本體とすべきものと思ふ、是に於て、日本の國民教育は吾々の日常の生活に必要なることをも、もう一歩強く進んで教へるやうにしたい、中學校の豫備門然として居るべきことではない。又小學校だけで實業學校又は中學校に進むことの出來ない者には實業補習教育を授けることは亦た必要である、どうか皆さんと共に教育をします上に於きましては、吾々日本國民は此國を一層盛ならしむる上に於て總て聯帶責任の下に立ち、各自其本分を盡すと云ふ事を深く心の中に銘し發奮努力するものならば、地主小作人問題の如き農村を離れて都會に行くと云ふ問題の如き、色々やかましい所の農村に於ける問題は影を潜めはしまいか、吾々多くの人々は只ぼんやりして居つて、さうして寧ろ餘り懸け隔つた遠い將來の事を考へ、現實の急務を離れるやうな傾きがありはしないか、將來の事を考へることも勿論必要でありますけれども、其將來の事を考へると共に現在に於て各自の本分を盡さしむる爲めに各自の職業に從事するに必要なる教育を諸君の手に依りて施して戴きたいと思ふ、殊に農業補習學校の健實なる發達の爲めには國家も大に努力する今日に於て殊に農村を顧みなかつた從來の政策を改めた今日に於ては一層大なる各位の盡力を得たいと思ひます、時間を餘計に取りました點に付きまして特にお許を得たいと思ひます。（拍手）

實業補習學校に於ける公民教育

文部省書記官　關屋龍吉

私は實業補習學校に於ける公民教育と云ふ事項に付きまして、少しく御靜聽を煩したいと思ひます、就きましては既に一昨日でありましたか、文部省の諮問案に付て色々有益のお說が段々出ました事でありまして、最早私が此所で申上げます事は蛇足に過ぎないかと存じますが、何かの御參考にもなれば大變仕合に存ずる次第であります、尙ほ念の爲に申上げて置きますが、私のお話申上げる事は別に文部省の意見と云ふのでないのでございますから、其積りでお聽取を願ひたい。又實業學務局としての意見でもございませぬし、唯自分一個としての考を申上げるのであります、隨つて只今折角實業學務局で調査をされて居ります、公民科の案などが出ました際に私のお話申上げる事と、非常な相違などが起つて來るだらうと思ひますが、右樣な次第でありますからどうか誤解のないやうにお願致します、それから私のお話はもう方々で度々繰返して居り新しい話をしたら宜いのでありませうが、さう云ふ譯に參りませぬ同じ事でありますから、それで東京で昨年の夏大分委しくお話申しました、其際に御出席になつて居りました方は二重にお聽きになるやうな譯でありますから、さう云ふ方はどうぞ御遠慮なく御退席を願ひたい、少し委しくお話したい積りでありました、所が時間の制限がありまして大分遲れて居りますの

で、場合に依ると省略するかも知れぬし、前後脈絡を失ふやうな事があるか知れませぬが、それだけはどうぞ前以て御諒察を願ひたいと思ひます。

私は自分の話を大體公民教育の意義と云ふこと、それから實業補習教育と公民教育との關係、公民教育の内容、それから公民教育の教授方法、此四ッに分けてお話し致したいと思ひます、尙此外に公民教育の徹底法如何と云ふ事につき聊か愚見を申述べたいと思ひますが、時間が到底あるまいと思ひます、最後に少し希望も申加へてお話を終る事に致します。

第一公民教育の意義公民教育とは何ぞやの問題でありますが、どうも此公民教育の事を論ずるに公民と云ふのはどう云ふ事を意味するか、隨つて又公民教育と云ふのは何處までの範圍になつて居るか、斯う云ふ事も問題になるのであります、定めし諮問討議に色々お說が出た事と存ずるのでありますが、それで大體日本で此公民教育と云ふ事を從來各方面から論じて居られまするのを拜見致しまするに、凡そ三ッの傾向になつて居るやうであります、第一は此公民教育と云ふものを非常に廣く解して之を國民教育と云ふ風の意味に取つて居る一派の學者があるやうであります、國民教育と云ふ言葉が或は語弊があるか知れませぬが、私の申上げるのは是から先きに說明致しますが、公民教育の内容よりももつと廣くなつて居りまして、普通教育と云ふものを根柢に置いて、公民教育を殆ど道德修身と同一に取扱ふ一方から修身を以て國民の立場を心得させて行く、斯う風に言ふ教育學者が一二ありますやうでありまして、其人等の說に依ると非常に公民教育が廣くなつて、若しさう云ふ說に從ひますと其結果は公民教育としては、一ッの獨立して課するものは存在しないやうになりはせぬかと私は考へるのであります、もう一ッの派は是は寧ろ學者でなくして、實行の方面の方の多く執つて居られることでありますが、公民教育と云ふものは自治民育である斯う云ふ解釋の仕方であります、是は例の農村補習教育の農村自治民育と云ふ事に、公民教育を解釋せられて居る向が非常に多いやうに私は認めて居ります、即ち公民と云ふ言葉を市町村制の所謂公民と斷定をされまして、それから割出した結果だらうと思ひますが是は昨年六月新潟で第一回の補習教育講演會を開いた其際に同樣の諮問案が出ましたが、矢張公民教育の意義が分らぬ、故に先づ前提として公民教育とは立憲治下に於ける自治民としての教育と斯う云ふ風の前提を置いて、それで議論しようぢやないかと云ふことで其答申を見ますと、殆ど自治制を生徒に授ける斯う云ふ事が主眼であるやうでありまして、是は大體新潟で決議がありましたのでありますが、全國を通じてさう云ふ大勢にあるやうに承知致して居ります、それからもう一ッは立憲思想の涵養斯う云ふ風の言葉で公民教育を現して居る一派がありますが、是は政治家の方面に多いやうでありますが、近頃は此言葉は廢れて餘り用ゐられませぬが、以前まだ公民教育と云ふ言葉などが餘り用ゐられませぬ時分に、立憲思想養成と云ふ文字が用ゐられました、其内容は主に議會政治立憲政治の本體を國民に知らす必要がある、斯う云ふ趣意で主張された言葉でありまして、之に依りますると第二に申上げました、自治制に關した自治民育の方は全然内容に含んで居りませぬ、隨つて次ぎに私が申上げます公民教育の趣旨は、只今申しました第二と第三と二ッが一緒にならなければ、少なくも私の考へて居る公民教育は不完全であらう

と思ひます、日本の是等の說の要旨は大體其樣な事でありますが、外國の學者の說なり實際の例を見ますと、總て一致して居ります點は公民敎育は、國家組織に關する正當の理解を人に與へるのが公民敎育である、斯う云ふ事に凡そ一致して居ります、例へば公民敎育とは國家生活に關する知識と之に關する判斷を與へる敎育である、斯う云ふ說を唱へて居る人もあります、或は又公民敎育とは公民が實際組織する國家を認めるに必要なる力を養ふ敎育である、或は公民敎育と云ふのは、公民が秩序ある生活を爲すに就て知らねばならない必要なる事項、卽ち衛生禮儀作法進んで國家の組織を知らしめ經濟に關する事項を修得さす、之等の例に依つても解る樣に公民敎育は謂はゞ國家組織と云ふ事を一番眼目に置いて居るのであります、で私も亦同樣左樣な考へなのでありまして、公民敎育は先づ以て國家組織と云ふもの國家の制度と云ふものを、第一の出發點としなければならぬものである、又最後まで國家と云ふものに根柢を置かなければ公民敎育は十分でない、斯う云ふ風に信ずるのであります、何故に左樣に國家制度に重きを置くのか、國家制度に重きを置かなければ公民敎育は成立しないのかと申しますと、國家の制度と云ふものが人間にどうしても必要であり、吾々の人類の生存上缺くべからざる制度である、斯う云ふ事を承知すればそれで萬事は諒解出來る譯でありまして、國家の組織制度に關しては、古來色々の學說のあることは皆さん御承知の通りであります、で近世大工業の勃興と共に段々思想が變化致しまして、國家の制度に對して色々の議論が起つて最近に至つては、甚しい極端なる無政府主義とか、或は又世界主義と云ふやうなものを、直ちに實行せんとする無謀なる人は彼方此方に出て居るやうでありますが、併ながら是までの人間の經て來た經歷を考へて將來を推測つて見ると、又一番著しい例は今度の大戰爭の最中の各國民の狀態並に戰爭後に各民族が獨立した一つの國家を造りつゝある、現にさう云ふ只今の狀況から見ましても人種があり民族がある以上は、國家制度は人間の生活とは離すことは出來ない、國家制度があつて初めて人間の本當の意義のある生存も出來る、文化の發展も出來るのではないか、どうしても國家の制度がなければ人間は生存が出來ないものだ、と極論しても然るべきかと思ふのであります、其國家が如何なる職能を持つて居るかと云ふ事に付きましては色々の說もありますが、さう云ふ事は此所で論ずると大變事が面倒でありますから、又時間もありませぬからそれは省きまして、兎も角も人間に取つて國家の制度はどうしても缺くべからざるものと云ふ事が旣に許されてあるとするならば、此國民たる者が自分等がそれが無くては一日も生存出來ない、國家の組織制度に付て十分に理解し、國家の制度に非常に重きを置いて延いては人類社會一般の向上に努力をする、斯う云ふ事にならなければならぬのは固よりであります、隨つて此國民が十分に此國家を理解して居なければならぬ、斯う云ふ必要が起つたのでありまして、唯併し外國などでも國民を何所まで一體自覺させるか、斯う云ふ事に就ては近年まで色々の說がありまして、ロックやフンゼルト等の如く、出來るだけ國家の活動を限定して國民の活動を自由にすると云ふ說があるかと思ふとトライチケなど　まだ近頃の人であるにも拘らず、政治と云ふものは少數の者がすべきである、隨つて國家の事を十分知悉するのは少數の人で宜い、多數の者は政治に付ては愚にして置いて面倒な事は知らせないで、民は依らしむべし知らしむべからず、東

洋の專制國である支那で言つたやうな事を、獨逸の而かも非常な學者であり政治家風の人である所の有名な人の口からもさう云ふ言葉が出て居ると云ふやうな譯で、中々外國でも色々の說がある併ながら今日の樣なデモクラチツクな非常に民衆的な時代にトライチケのやうな思想が行はれるものでない、國民は出來るだけ自覺させて國家に對する相當な理解をさせる事が必要であることは勿論であります、左樣な必要があるならば公民教育で以て國家と云ふものを正當に國民に理解させなければならぬ、それを指して公民教育と言ふべきものであらうと私は思ひます、殊に又國民を自覺させることに付きましても總て人間には反社會性があります、で御承知のジエームスブライスが亞米利加で公民たるに反對の原因並に是が矯正方法如何、と云ふ有名な講演をしましたのが本になつて出て居りますが、其中に大變吾々に參考になることが書いてあります、ブライスは公民たるに反對の原因は不熱心と黨派心と利己心とである、それで此三つがある爲に謂はゞ公民が出來て來ない、隨つて國家として立派なものが成立たない、何とかして此惡い三つの思想を除いてさうして立派な公民を持つた國家社會としなければならぬ、不熱心に對しては誠意の觀念を養ひ黨派心に對しては自制心を養ひ、利己心に對しては公共心を養ふやうにしなければならぬ、其手段は一體何所にあるかと言ひますると、ブライスは之を二つに分けまして、外部的の方法と內部的の方法と二つある、外部的の方法としては法律の力法令の力に依て壓えるより外仕方がない併ながら其法律的內部的の法令の力で壓えると云ふ事は抑末であつて進んで內部的の矯正手段としては外にはない唯公民教育あるのみ、教育に依る殊に公民教育に依て之を矯正して行くより仕方がない、斯う云ふ事を言つて居るのであります、即ち此完全なる公民教育を施して只今申したやうな三つの惡い思想を抑へ反對の良い方を助長する、斯樣にして良い國民を造る斯う云ふ國民は謂はゞ良世界民である、國際的に立派な世界人類全體の社會の形を爲すのでありまして、私共此本を見ましても成程と首肯するのであります、左樣の今申上げましたやうな點から申しますと、私は少なくも公民教育は國民を國家社會に關する自覺と知識と情操とを主として養ひ、公民教育は何時でも之を眼目として敎へる、斯う云ふ事を回提に置なければならぬと斯う信ずるのであります、斯樣な前提よりして後とから申上げるやうな敎育方法となる次第であります、で御參考に尙一二の說を御紹介しますとケルセンスタイナの事は既にお話に出て居つたことと思ひますがケルセンスタイナは公民教育に付て斯う云ふ風の定義を下して居ります、『公民教育と云ふのは學校に於て生徒をして國家社會の一員としての自覺を得せしめ、彙て自己の職業に關する經濟的知識と並に道義心とを涵養するを以て目的とする教育なり』ケルセンスタイナの說から申しますると、公民教育の本旨は二つある一面に於ては國民としての相當の理解を與へることが一つ、それから個人的の能率を發達させる職業上の能率を發達させる此二つである、斯樣にケルセンスタイナは說いて居ります、御承知でもありませうがケルセンスタイナにしましても、其外の獨逸の學者にしましても一體獨逸の補習教育に關する學者實際家は總て職業を補習教育の中心にして公民教育は職業教育の中に就て個人の道德的の方面の事を敎へる、斯う云ふ風な事を申して居るのであります、それで私は自分で斯う云ふ風な定義を下し度いと思ひます、それは今申しましたのや色々引入れて作り

上げたやうなものでありますが、公民教育と云ふのは國家社會に對する道德を背景として是が制度に關する概括的知識を涵養して及訓練を施すを目的とする教育なり、斯う云ふ風に自分では定義を致したいと思ひます、先づ第一に此公民教育と云ふのは只今段々申上げました通り、國家社會の組織制度、經濟の觀念を得せしめると云ふ事が公民教育の目的である、即ちもつと約めて申しますならばヒユードグレーが申しましたやうに法制經濟に關する概括的知識を涵養するを目的とす、斯樣に言つて差支ないだらうと思ひます、偖次に此概括的知識を涵養すると申しましたが、是が肝要な點かと思ふのでありまして之が法制科經濟科と云ふ一つの學科と公民教育が違つて居る肝要な點かと思ひます、即ち法制科、經濟科では理屈を教へる公民教育で理屈を教へるのは結構でありますが、主たる目的は理窟を教へるより實際的知識を授け訓練を施すのが目的でありますから其公民教育に於て教へる時には、法制經濟に於て教へるやうに理屈立つて系統立つて教へる必要はない、經濟科ならば生產交易分配消費と四大項を分つて之を色々に述べる、けれども公民科では其必要を私は認めないのであります、それも說明出來れば結構でありますけれども必しも說明しなくても宜い、そこで運輸交通の話をし通信の話をする或は又食糧の話をし保險の話もする、さう云ふ事項々々に分けて話してそれで澤山だ、單に經濟の觀念を大體獲得させる斯う云ふ事に目標を置いて居るならば、それで澤山だと思ひます、又法令に關する事にしても國家の觀念に付て說明する合に法制科として教へますならば、國家の三要素それから進んでは國體政體に關する非常に進んだ說明もしなければ十分の理解が與へられますまいが、民科に於きましても勿論國家の三要素とか國體政體等に關してはなるべく精細に述べねばなりませぬが併しながら法制科の樣に精細に分けなければなりませぬ、進んで學說を述べるとか或は又國家の組織に付て隨分複雜な事があります、事を其樣な一々說明する必要は毛頭認めないのであります、又法令の說明權利義務の說明斯う云ふ事にしても、所謂法制科で吾々が中學などで學びました、あう云ふ風な事を委しく述べる必要はないと思ふ、法令とは何ぞやと言へば國家が吾々にる命ず規則である、斯う言つて公民科では十分でないかと考へるのであります、委しくやれゝばそれに越した事はありませぬが、それから次には公民教育では國家社會の道德觀念を背景としなければならぬ、元來中學校等に於ては法制經濟に關しては修身科の時間で教えても宜いと云ふ事になつて居ります、併ながらそれは唯時間の都合上の問題でありまして、中學校で法制經濟と修身と一緒になつて、道德的教育を法制經濟科で授けると云ふ事は絕對にありませぬ、要目に書いてありますのではさう云ふ事はないのであります、去ながら公民科に於て此道德の觀念を除外して唯知識を授けると云ふ事に止まるならば、それは私は公民教育の精神を全然沒却したことになると思ひます、公民教育に於きましては私の信ずるのは個人道德を說くのも結構でありますが其點で修身と混同してはならぬ、公民科として之を取扱ふ以上は公德と云ふ言葉は語弊があるか知らぬが個人道德に對して、之を國家社會に對する所謂公德と云ふ方面を、特に考へて取扱つて戴きたいと斯う思ふのであります、例へば地方自治のことを說くにしても自治制と云ふものは斯う云ふ風になつて居て、議員選擧の時は斯うだ或は又市會は斯う云ふ風にして開か模る、さう云ふ事よりは寧ろ模範村の例でも取つて來て、さうして斯う云ふ風に村

民が自覺して來て此模範村の實狀は斯う云ふ風だ、と云ふやうな道德的の事柄を敎へる、經濟の事にしても勤儉力行とか或は協力互助の精神とか云ふ風のことを頭に入れて、如何なる事柄を說くにしてもずつと其中に流れて居る脈絡根抵を失はないやうにする、是が背景としてと云ふ言葉で現したつもりであります、何時でもどんな事柄を說くにしても其點を忘れないやうにして敎育致しましたならば、公民敎育と云ふものは其意義が明かになると斯う私は信ずるのであります、尙ほ其點に付てもう少し委しく申上げたいと思ひますが時間がありませぬから此位にします。

次に第二に實業補習敎育と公民敎育の關係に付て一言申上げます、卽ち公民敎育は果して只今申上げましたやうな敎育內容であると致しますならば、公民敎育は國民全般の敎育である必しも實業補習學校に限るものでない是は明な話であります、隨つて一般の國民に對して公民敎育を施す方法はどうしたら宜いかと、云ふ事は一ツ別に攻究すべき問題だらうと思ひます、併ながら一ツ申上げて置きたいのは、外國では大變に公民敎育は發達して居るやうでありまして、一般國民の讀むべきもので諸君も御覽になりましたらうが英國にシチヅンリーダーと云ふものがあります、薄い簡單な本であります、日本の中學校などでも敎科書に使用して居る所もある樣でありますが、英吉利國民の精神と云ふことに付てどんな人が見ても能く分る、其本は旣に五十萬部を越えて出て居る又英吉利本國のみならず殖民地用の本も作つて居る、非常に良い本で澤山の色々の面白い實例を持つて來て公民敎育の要項を說いて居る實に良く出來て居る是と同じやうな種類の本が日本に出來ない事を私は非常に遺憾に思つて居る、竹越與三郎さんの著した市民讀本と云ふ本がありますけれども、甚ださう申しては惡いが到底較べものになりませぬ、殆ど吾々は其存在さへも知らぬ位で、もつと完全なものが日本にも出來て欲しいと思ひます、さう云ふ風な色々な本でも此思想を養成する方法はありませう、それから小學校に於てはどうかと云ふと、小學校では讀本に公民敎育の材料を大分揭げてあります、殊に高等小學校讀本には御承知の通り公民科の內容に觸れた事項が大分入つて居ります、併ながら小學校では國語科の副產物として、生徒に公民的の觀念を與へるに止るのである小學校てはまだ生徒の環境は學校と家庭とに限られて居るのでありまして實社會とは直接の關係はない、此頃は敎育の社會化社會の敎育化と云ふ樣な言葉が流行致しますが、外國あたりの進んだ所では學校を社會的にすると云ふことで、小學校が直接に社會と接觸することは是は小學校の目的を完全にし得るものと考へて居るが、まだ日本の今日の樣な狀態では唯國語の副產物的に公民科の知識を多少でも授ける、斯う云ふ事で私は小學校では十分であらうと思ひます、又秩序的に中等敎育を履んで行く斯う云ふ靑年に對しては、中學校なり師範學校なりは實業科法制科經濟科並に修身科是等の學科に於て授ける事項と或は地理歷史などで敎えられる事項と色々併合致しまして、公民敎育は相當完全に施されて居る併ながら此所に一番大事であつて而かも是まで事實敎育されて居らなかつたのは、實業補習學校の生徒に對する公民敎育であります、小學校生徒が一度學校を出て實際社會に出ると、家の仕事をするか或は餘所に雇はれて其仕事に從事する、さうなれば其靑年の環境は小學校に於けるとは全然一變して、實社會の職業が生活の中心になつて來る社會化はそれ以後の靑年に必要ある、小學校

に於けるとは全然違ふのであります、隨つて其職業が國家社會なくしては存在し得ない譯でありますから、さう云ふ青年が國家社會に付て知りたいと云ふ考は非常に熱烈である、それに對して正確なる知識を與へ適當なる訓練をすることは非常に必要である、隨つて中學校とか其他補習學校以外の生徒に秩序的に教へるのと違ひまして、さう云ふ者には最も分り易く最も利き目があるやうに、教育する必要が段々起つて來るだらうと思ひます、而かも小學校を出ました青年の中で補習學校に通ふ樣な者は補習學校が日本の如く義務教育でない以上は、さう云ふ者は非常な篤志家でありますから、さう云ふ青年に對して而かも數から言ひますと、先づ七八十萬の生徒が居りませう、此地方の中堅となる青年に向つて公民教育を適當に　すことは、國家の爲に大きな効果を擧げる方法であらうと確信するのであります、然るにも拘らず日本に於ては實業補習學校の公民教育は洵に振ひませぬ、大正に至りまするまで明治年　には公民教育はなかつたのであります、斯樣な事を申しますと或は御當縣なり或は隣縣の御出席の方々の中には或はもつと前に公民教育が存在したと云はれる方があるかも知れませぬ、前に甲府で講演をしました節明治四十年か三十年かに公民科を課したと云ふやうな事を言つて居られた方がありましたが、私が彼方此方で時々話を承りまするとと地方に於きまして、方々から模範的と言はれた學校の教科課程などを是まで段々見て居りますのでは、明治年間には餘り組織立つた少なくも組織立つた秩序立つた、公民教育と云ふものは實行されて居なかつたやうであります、其以後段々公民教育の必要を認められるやうになつて、殊に我國の公民教育は內務省の力に依り自治精神の鼓吹に伴つて發達した事實があります、

內務省の地方制度の振興運動、斯う云ふ事が公民教育を起させた一ツの原因となり、段々地方でもさう云ふ考が起つて來て、大正四年に東京高等工業學校で補習學校を設けて、之に文部省が大變金を入れて模範的補習學校を始めて、一週一時間公民科國民心得と云ふ學科を置きました、每週一時間宛二年に亘つて此教育を施したかく秩序立つて此教育を科したのは少なくも商工補習學校に就ては、是が初めであらふと信じます。

私が此お話を申上げるのは、一番初に自分が此教育を引受けまして大正四年から今日まで續いて、此學科を教へて居りますから要するに今日お話申上げるのは、其貧弱な經驗談を申上げるので立派な學說として申上げる、さう云ふ事は私には出來ないのでありますから其積りでお聽取を願ひます、是は沒くなりました手島精一さんの盡力でありまして今更感謝措く能はざる譯であります、其後農村でも起り都會でも起りまして、大正八年に文部省から出ました報告書には、公民教育に關する記事が大變殖えて居ります、さう云ふ風に大體なつて居りまして文部省でも殊に實業學務局が一ツの局として獨立して、それから間もなく實業學校令の改正に着手せれまして、各方面の意見を聽き、實業補習學校の規定に付て根本的の改正をした、それが大正九年に出ました現在の補習學校の規定であります、それで御承知の通り既に其中に公民教育は立派に入れられた譯であります、で改正前は日本の實業補習學校は其名は實業補習學校であるが、殆ど職業に關する方面は僅に過ぎない至つて貧弱な樣子でありまして、場合に依りますると漢文の素讀位しか補習學校に於てやらない、斯う云ふやうな所が山間僻地では多少あつた、そ

れも經費もないし人も足らないからそれは小言を言ふ事は出來ませぬが、幸にして今度は課程が改正になりまして新教材では、實業補習學校では公民教育と職業教育とを二大眼目として、獨逸と同じに公民教育を職業教育の中に含めまして、實際公民教育と職業教育を二大眼目としたのであります、斯斯う云ふ事に既に制度は出來た譯でありますから、是からどうか一ッお互に出來るだけ勉強して實績を擧げるやうに、內容の充實に努めたいと切に考へるのであります、で日本は其樣なことでありますが、之を先進國の獨逸あたりの例に取りましても矢張初めは日本と同樣な過程を履んで、實業補習學校は職業に關する知識を授け並に小學校に於て學んだ學科の補習をする、斯う云ふ規定で補習教育の義務教育が出來ないたのであります、所が其結果は日本と同じやうに、實業補習學校の機能を十分發揮することが出來ないで、只今から二十七年前にバヴアリアが此規定を改正して大正九年に、日本で公民教育を眼目にして教育しなければならぬ、斯う云ふ風に規定が改正されたと同じ樣な改正があつたのであります、其結果として今日の獨逸の補習教育の實際が出來た譯であります、其點から日本は二十七年遲れて居る、現在の規定に依て是から事實の上に於て之を取返さなければならぬ、佛蘭西はたしか千八百九十五年でありまして、市民學を小學校にまで入れました、それから瑞西は矢張佛蘭西よりは少し前に市民學を小學に入れた、それ等の國より日本は之を實施したのは非常に遲れて居ると斯う云ふ譯であります、實業補習教育と公民教育との關係は、第三項の內容と云ふ事と關聯して居りますから一番大事なことゝ思ひますが、是等の事は其意義の定め方に依て色々矢張說が異つて來る譯であります。

第三は公民教育の內容であります、公民教育の內容は二ッに分れる卽ち教授の方面と訓練の方面と二ッに分れて居ると思ふ、で教授の方面に於きましては道德的の方面と法制經濟に關する知識を授けるのと二ッの方面でありまして道德的方面は先にも述べました樣な公民教育の根底をなすものでありますから之も決して看却してはなりません、それから法制經濟の知識を授けることに付きましては、凡そ三ッの傾向がありまして、自分の村を中心にして極く近い自分の村の事を先きにして、それから後に餘所に及ぶ斯う云ふ風にするのと或は抽象的地方の制度を說き其次に遠くに及ぶと云ふやり方と、或は國家の制度全般に亘つて說くのと三ッの傾向があるやうであります、それから又訓練と云ふ事に付きましては日本ではどうも訓練は實際餘り能く行つて居らぬやうであります、山形縣から御出席のお方が山形縣では訓練が能く行つて居る、と云ふ風の事を昨日でありましたか、お述になりましたのを拜聞致しました洵に結構な事でありまして、私は殊に農村などに於ては訓練はやりやうに依ては効果を擧げられると思ひます、役場の事務の執方を見せたり或は議員選擧を見たり、相當に學校以外に於て直ちに實物が見られる、さう云ふ點から洵にやり易いと思ひますが、それは兎に角としてどうも一般に訓練は缺けて居る、又實際はむづかしい渡邊さんから既にお話もありましたが、亞米利加の事も能く研究して見ましたが、亞米利加では公民教育を知識としては授けない訓練として授けるのが公民教育の特色である、斯う云ふ風に一般的に信じて居ります、其極端な例は彼のゲーリー學校であります、ゲーリー學校では生徒をして出來るだけ社會的に活動させる、さうして經濟的に生徒を活動させるのが趣意であるやうに思ふ、從

てゲーリー學校では公民科として特別の學科を設けない、其代りに生徒をして會議をやらせる學校に於て生徒の中から議長を出し、副議長を出し書記も出し生徒の中に委員を設けて議を纒める、學校全體の行政を生徒に依て實行せしむる、是が非常に有効なる公民教育であると斯樣に申して居る併し私は遺憾ながら之を直ぐ日本に持つて來て實に立派なものである、其通り眞似をしたら宜いとは申上げないのであります、それはゲーリーの學校ではやかましい校長が居つて初めて出來ることで、之を何所へ行つてやつても宜いとさう云ふ事は出來ぬだらうと思ひます、矢張一般的の普通の方法に依り訓練を施す、と斯う云ふより外仕方がないと思ひます、尙ほ獨逸では國民心得とそれから處世心得生活上の心得と此二ツを結付て居ります、生活上の常に心得へなければならぬ禮儀作法の事とか、或は衛生上の事柄とか云ふやうなこと、急救療法人が川で溺れたとか電氣に感じたときはどんな風にする、或は一寸繃帶を卷くにはどうする、或は禮儀作法等處世の心得、と云ふやうなものを補習學校の公民教育として列べて居ります、是は獨逸の特長でありまして、日本には出來るだけさう云ふやうなものを列べてやつて居る所は、寡聞にして私は存じませぬ、遺憾ながらそれは時間の上から一寸さう云ふ事は許さないのかも知れませぬ、それから職業が中心でありますから職業に關する規則であるとか、職業に關する心得を一番先きに教へる、次に我國の實例は私は是までの學說であるとか施設になつた實例等を大分調べて持つて居りますが、遺憾ながら時間がありませぬから御參考に供することは出來ませぬが、先づ大體之を引括めて申しますと只今申上げましたやうに、自分の村を中心にして非常に委しく說いて居る向きがある、例へば此村の鎭守はどうだとか寺院は何宗であつてどう云ふ歷史を持つて居るとか、或は村の役場はどうだとか村會議員はどうだとか云ふ風に調べて、村の戶數とか村の財政とか所謂村の現狀を生徒に說明する、斯う云ふやうなやり方を爲さつて居る所が隨分あります、それからもう一ツは一般的に町村自治から說いて行く方法で、是が一般に私の承知する所では多いやうであります、新潟の會合の時に調査委員から此の方法が一番宜いと云ふ報告がありました、それから第三は一般に國家制度に付ての說明をする方法で、其中には或縣の補習敎育研究會で作られた公民科敎授案など丶云ふものは實に精密なるもので、或は普通の法律論より農業法規戶籍法警察司法自治法國家法と云ふやうに實に委しくやつて居る、項目だけを拜見すると實に驚く程で農村に於て是だけの委しい事を生徒に敎へる先生は、一體どれだけ深遠な學問をお持にならなければならぬか、果して其郡の中にさう云ふお方が何人お在になりますか、斯う云ふ事を失禮ながら想像致しまして少しく迷つた譯でありますが、併ながらさう云ふ風な委しい敎授要目だけをお作りになる努力だけは、吾々は非常に感服しなければならぬ、文部省がもつと早く敎授要項を作らないから其樣に御苦心になるので、今日まで何を愚圖々々して居るのだと、あなた方から御批評を被ると此方から兜を脫いで謝罪を致さなければならぬ次第であります、それから極めて簡單ではありますが中々良く出來て居るのは大阪の小學校長會で公民敎育調査書を作りました、それが大變良く出來て居ります、簡單に讀上げませう。

一、我が國體國民性ノ根本的精神ヲ涵養スルコト

二、立憲自治ノ法制度ニ關スル知識ヲ確實ニスルコト
三、國家社會ノ組織及其活動ニ關スル知德ヲ培養スルコト
四、産業經濟ノ組織及其活動ニ關スル知德ヲ培養スルコト
五、公民生活上特ニ必要ナル德性ヲ涵養スルコト
六、我國ノ世界ニ於ケル地位ヲ理解セシムルコト
七、大阪市民トシテノ使命ヲ自覺セシムルコト

是だけでありますけれども、私は非常に要領を得て居ると思ひます、大正八年の大阪小學校長會の調査書であります、で斯く色々の實例を考へ又此理窟から割出しますと、略ぼ公民教育の內容は國家觀念の養成と云ふこと、それから自治民育、それから經濟思想の養成、此三ッが公民教育の眼目になつて居るやうであります、國家觀念の養成自治民育經濟思想の涵養と云ふ私は此何上にもう一ッおまけに附加へたいのは、海外發展氣風の養成、斯う云ふ點をもう一ッ附加へたいのであります、第一國家思想の涵養、第二自治精神の皷吹、第三經濟觀念の養成、第四海外發展氣風の涵養、此四ッの事項を公民教育の內容として實際自分は取扱つて來ました第一に國家思想の涵養に付きましては、一番是が公民教育の根本でありますから力を入れて說明しなければならぬが、先づ國家の成立國家は如何にして成立つて、國家の制度と人類と云ふものはどう云ふ關係になつて居るか、國家の制度が人類に缺くべからざるものであると云ふ事を理解させる、それが濟みましたならばそれを持つて來て日本の國に當嵌めて見て、日本の國の成立つた三要素統治者はどうだ國民はどうだ領土はどうだ、隨分今までは日本の國と外國との關係を知らないで、外國の事は自然に尊敬して居るやうな者もあつた、一體日本を外國と較べてどんな狀況にあるかを能く理解させなければならぬ、日本人は自尊心があるかと思へば又中には非常に卑屈な精神がある、中にはどうも少し英國に居たからとて日本人にして而も我英吉利ではと云ふやうな言葉を使つて、自から我が祖國を輕んずるやうな人もあります、又中には日本男子と云ふと豪い者にして、其以外に人間はないと云ふやうな意氣込の人も居る、それを正當に理解させて即ち日本國民性の非常に良い點と惡い點を擧げて相當な判斷をさせる、又萬世一系の皇室に付きまして是が根本的の說明をして、此點に付ては出來るだけに道德的と云ふと語弊があるか知れませぬが、もつと哲學的に十分に說き、此頃の青年は中々生意氣でありますから、吾々は新しい思想家だと云ふ風に、生ま嚙りに走つて居りまして飛んでもない考をして居りますから、それ等の者には矢張親切に敎へてやりませぬと誤解がある、其の誤解を充分に明にする、それから次に國法の事を擧げ、一國を經理する規則を說明する、それから次には國家の中心である　天皇及皇室と云ふ事に付て一章を設ける、それから次には日本の國家の特質であり我民族の特質である處の家の觀念を與へる、それから祭祀の事に及ぶ近頃獨逸の本などを見ますると獨逸あたりでは、日本の家族制度に就て眞面目に研究をして居ます、然るに我が國ではやゝもすれば家族制度の惡い點のみを見て之を破壞しなければならぬと云ふ新しがりやも澤山ある、成程家族制度に伴ふ弊害は十分諒解しなければならぬが、併ながら家族制度を日本から取られた後とは

どうだらうか、斯う云ふ事も能く諒解しなければならぬだらうと思ふ、隨分外國かぶれのした人などは日本人にはどうもファミリーと云ふ言葉はどうしたつて到底其意味を譯せない、家族と譯したつて勿論意味をなさぬ、實に何とも言はれない無限の味を含んで居る言葉だ、斯う云ふ風な事を得々として說く人があります、洵に可笑しい日本の家と云ふ觀念は向ふの言葉には現はせない、さう云ふ足許を忘れて居ると云ふ滑稽な事もあるやうでありますから能く其邊を諒解させなければならぬ、次に臣民吾々國民の話を致しまして、國籍の事から戸籍の話をして、戸籍の取扱出生死亡或は婚姻の屆出は、何日以內に屆出ないと科料に處せられると云ふ風の手續を話し、それに次で臣民の權利義務を說明します、それで先づ國家の構成の說明がすみましたならば次に國家の活動に移る國家の活動は立法部卽ち帝國議會の話をする、それから立法の事が濟みました所で行政に移る、(或は是は司法を先にしても宜いが)、行政に移る行政には又中央の行政と地方の行政とありますから、時間がありますたらばさう云ふ觀念を與へて中央行政と自治行政を說きます、是が順序として適當な事であらうと思ひます、それから次には司法卽裁判所の關係、それから裁判所と警察の關係保健衛生のことも警察に付て話をする、それから此裁判所に付ては民法と刑法との大體の話をしますが、どうもそれは私が實行した所が餘り宜く行ない、此所で說きますよりは、寧ろ別に時間を取りまして三時間でも四時間でも進んで、もつと時間があつたならば長くやつても宜い、併ながら時間がなければ此所でも宜い、それから次には敎育と宗敎の話、敎育の事は大體の制度だけで宜いが、宗敎に至つて人は信念なくしては生きられない、唯法律命令義務權利の觀念だけに止まらずして、どうしても一ツの信念がなければならぬ、と云ふ事を是非生徒に敎へいた、それは何も一宗一派の說明は要りませぬ、自分が何を信ずるからと言つて、それを說くことはよくないのでありますが、人生と宗敎の信仰に付ては相當に力說して居る次第であります、で先づ大體國の中の事は分りますと、今度は外國との關係外交關係或は通商關係がどうあらうか、中には外交官と領事官とを混同して居る者がある、普通の人でもそれ等の區別は中々むづかしい、現在の外國との通商の特別關係日英同盟華盛頓會議と日英の關係、或は日佛協約此間の華盛頓會議と云ふのはどう云ふもので、今日の國際關係進行に付ての說明、斯う云ふやうな外國との關係に次では、どうしても國防の事も必要であるから、日本の國防のこと卽陸軍海軍の一般の組織、外國との比較殊に軍閥との軍國主義だとか、外國で宣傳して日本に對して色々な事を言ふ、それ等の事を理解させる必要があります、其次には日本の財政關係を述べる明治二十六年には僅に八千何百萬と云ふ歲出であつたものが、今日では十五億何萬約十六億となつたと言つて、其進步の有樣を說有しました後とで、統計などを示して說きますと生徒は日本のゑらい事を聽いて喜びますから、斯う云ふ點を充分に說明した後に之でも外國に比較すればまだこんな低い程度であると云ふ事を明にする、それに此中で稅制の事をどうしたつて二時間三時間話すのが宜いだらうと思ひます、それから次には經濟觀念の養成であります、私は先きにも申しました如く經濟の一般原理を時間があれば說いて居ります、それから運輸交通の事それから通信の制度、通信の制度の所で手紙の出し方郵便の取扱の特殊のものを敎へる、それから次には貨幣と銀行券の話、それから銀行會社

産業組合のこと是等の事を章を分けて話し、銀行に付ては銀行の事務のこと預金の種類どう云ふ風にして爲替は立組むかと云ふ事の實際を知る必要がありますから、其説明を加へるやうにしたら宜いだらうと思ひます、それから最後に日本の産業の狀態に付きまして、現在の産業狀態並に産業の保護奬勵の方法を説く産業の狀態に關しては農商務省あたりの統計もありますから、さう云ふものを示し又産業の保護奬勵の事に付きまして、或は保護に關する農商務省の規定もあります、或は又各種の組合に關すること、是も産業奬勵の一ッの方法であります、關税政策の保護關税是も一ッの産業保護奬勵の方法であります、それ等の事は少し委しく説明をする、尙ほ此中で保險の事と度量衡の事を話さなければならぬ、是は別に何所で説く方が宜いと云ふことはないが、殊に今度はメートル法に變る譯でありますから、之を能く説明してやらなければならぬと思ふ、私は時間がありませぬから産業の中で附加へて、保險の話度量衡の話を致して居るやうな譯であります、是だけが濟みまして尙ほ時間がありますれば、經濟學の理論の概要を述べる。最後に殊に公民科で話を必ずしなければならぬのは、日本は此儘で人口が增殖致して行きましたならばサンガー婦人の説を用ゐなければならぬ、固より其説が宜いか惡いかは私は聽かぬから知りませぬが、どうも人口問題は大問題である、英吉利の如きは人口が殖えても殖民地があるから、英吉利ではあれで一生懸命にやつて行くから非常に殖えながらもやつて行く、獨逸の如きも殖民地は英吉利よりずつと少ない數であるが、獨逸國民は北米なり南米なりに非常な根抵を下して他の國内に殖民するさうしてブラジルヤ其の他の國々に獨逸民族の勢力を確定して居る日本の國民にしてもさうでありまして一昨年でありましたが、拓殖局が此點に注意して、小學校時代から國民に殖民地に關する觀念を養はなければならぬ、と云ふので殖民地要覽と云ふものを印刷して無代で全國の學校に配付しました、文部省が其取扱をしましたがあう云ふ事も宜いことであります唯拓殖局でやりましたのは朝鮮、滿洲、臺灣、樺太、所謂日本の殖民地だけであつたのでありますが、日本の領土外の發展に付ても、近頃は段々殖民地も多くなつて參りましたから、それ等の土地の狀況に付て惡い點は斯うであるが良い點は斯うであると殖民地に關する知識を與へて、學校に於て殖民思想を宣傳したいもんだと斯樣に私は考へます、隨分さう外國へ行く事ばかり考へる者が多くなつても仕方がないと云ふ事もあります、けれどもいかに奬勵した所で十人が十人皆外國へ行くと云ふものでもありませぬ、長野の或農學校では此點に注意して次男以下の者に對してはなるべく海外發展をしたら宜からうと云ふことをすゝめて居る學校がある樣で是は横井時敬博士などもそんな風な事は御熱心で、私も直接さう云ふ事を學校長から聽いたことがあります、先づ大體其樣な事を説明する其外に忘れてならぬのは時事問題であります、公民教育に於ては時事問題が一番効があるやうな感じが致すのであります、是が一番生徒の興味を引き一番効果がある、時々起る事件を今まで教へた事と結付て生徒に話をする、斯う云ふ事が大變必要であるのであります。

時間は參りましたがも一ッ公民教育の教授方法であります、どう云ふ方法に教授すべきか私一人の經驗を、あなた方多數の方の御經驗になつて居る、此所で申すのは甚だ潛越のやうでありますが、大體公民教育の教授方法は今まで執つて居りますのを見まするとと、三ッの方法があるやうであります、それは

先きに申しましたやうに村を中心にして說いて行く一ッの方法と、それからもう一ッは或は是は四ッと言つても宜いかも知れぬが、一般的に自治制を主にして說いて行き、それから段々國家の方に擴げて行く方法と、それからもう一ッの方法は時事問題を捕へて事項別に敎授して行く方法と、もう一ッは先づ國家の組織（自治精神も亦此中に含めて）、から其の活動並に經濟觀念の養成に次で海外發展の氣風を養ふ（斯う云ふ事が一ッ凡そ此の四ッに分ける事が出來る、前の二ッは生徒の印象が良いと思ふ、自分の直接に眼の前に其所に見て居る事項でありますから、頭に這入り易いのでありますが惡い點から申しますと、敎える事柄が前後する爲說明が困難であり又殊に都會に於ては生徒の頭に自治體と云ふもの丶觀念が大體缺乏して居ますから敎える人は六ヶ敷しい敎授法としては洵に結構でありますが實際は大變むづかしいと思ふ、それからもう一ッは事件別の敎授法、事件別の敎授法是が一番印象が深い、例へば華盛頓會議なら華盛頓會議は一體どう云ふものだ、其華盛頓會議に於ける日本の立場はどうで、外國との國際關係はどうであると斯う云ふ事を說きまして、それから外交關係は斯んな風になつて居ると說いて行き、或は軍備の制限はどうで日本の軍備はどう云ふ風になつて居る、或はニコラエフスクの虐殺があつた其場合には、其機會を捕へて國家の制度、軍備の事など說明すると生徒は非常に印象を深くして、現に十分新聞で見て居る事を說明されるから是程印象を深くすることはない、尤もあゝ云ふ事件が度々突發した日にはそれこそ大變であり、又常に都合よく事件が發生するものでもありません、從て私は一番穩健であると思ひます、國家觀念自治觀念を養ひ、それから經濟思想を說き、海外發展に及び時々に重要な時事問題を入れて今迄敎えたに結付ける、私は色々今申しましたやうな方法を現在執やつて見ましたが此方法が一番生徒に分り易くもあり又要領を得て居るやうであります、併ながら其以外の方法をお執りになつて、それで以て非常に成績が擧つてゐる向きもありますれば、それも參考の爲に自分にお知らせを願へば結構と思ひます、最後に參考としてケルセンスタイナーが要項として申して居ることでありますからそれだけ御話します、ケルセンスタイナーは公民敎育を爲すに當つての注意として、公民敎育を爲すに當つては初めから國家だとか社會の爲に村の爲に、とかさう云ふ事を突然に言ふのは是は考へものだ、先づ生徒の利己心に訴へるかくすれば御前等の爲になると敎える人の利己心と云ふものがよくないと云ふことを最初から打ッ附に言つてしまふよりも、最初御前等の爲になるからかくせよと敎えて知らず識らずの間に生徒を公共的に引入れるやうに敎へる、又さうせんければ本當でないと斯う云ふ事を言つて居ります、實際の効果から見て非常に宜い事だらうと思ひます、それから第二になるべく具體的の事項を用ゐて抽象的の事項を避けるやうにしろ、それは補習學校に於て殊に斯う云ふ學科に於ては相當の事だらうと思ふ、それから第三には總ての政策とは無關係たるべし、さうすると青年團が選擧運動に狂奔するとか、政策に關係するとか或政黨の政策を援けるとか何とか云ふ事は、一體公民敎育でやることは禁物だ、第四に歷史上の重要人物に付て出來るだけ取扱ふ、斯う云ふ四ッの注意であります、でそれは非常に良い事で、何れ公民敎育を吾々が取扱ふ上に於て注意すべき事であらうと思ひますから、特に一言申上げる譯であります、それから公民敎育では成べく一時間に一事項を授ける、一時間

で讀切にする、實業補習教育の事項は一時間で切る、と云ふ事が宜いのでありますが、併し實際私共は一時間一事項と云ふ事はむづかしい、殊に少し込入つた事は三時間も四時間も一事項に掛るから、成べく時間の途中で他の事項に移らぬやうに注意して居ればそれで宜いだらうと思ひます、次に數字を成べく多く取扱ふことが必要であります、是は公民教育の大事な要項で殊に日本人は數の觀念に極く乏しいから、此點は斯う云ふ公民教育に於て頭を數字的にすることに努めたい、統計書は日本の國勢院から出して居りますが、あれは大變高いので誰も持つことは出來ないが、幸にして新聞社で出して居ります、色々の統計書があります大ざつぱであります併ながら唯大勢を見るにはあれに依てでも數の觀念を養はれる、それから年齢の考慮農村の補習教育にお當りになつて居ると、さう云ふ事はないか知らぬが、私共工業の補習教育に當つて居ると年齢の關係が非常にある、例へば藏前の補習學校の如きは十四五歳から五十歳位の者迄來る相當の地位を有する者で電氣なり或は機械に關係のある人が、其方の事を少し習ひたいと言つて來る人があります、さう云ふ人に對して公民教育を授けると實に初めは汗を流すやうな事がある、何となれば公民科は一ッの形式立つた學科でも何でもない、常識の十分に發達した人は其樣な事は充分承知して居る人が澤山ある、さう云ふ人に適當と思ふ事を吾々が話せば、それを話して居ると子供の十七、八位の者には全然興味がない、そこで面白可笑しく一席の講談でも子供にするやうに話でもしなければ居眠をする、農村でも何所でも眞面目な事項を話をして面白いと思ふ者ほ、年を老つた四十年以上の者で、子供に面白いやうな話は何だ下らぬ話をして、貴重な時間を費すと云ふやうな顏をして大變面白いと云ふ感じはしない、私共は此點には非常に困ります併ながら困る、困ると言つたとて仕方がない、出來るだけ其所を調和して一方に面白いと思ふ事で、一方に分らぬ事がありましても、其所は我慢して行けるやうにするより外仕方がない事だと思ひます。

もう時間が迫りましたが、最後に名稱の事を少し附加へて置きます、外國では大體名稱は一定して居りますが、日本では或る區別で其の内で公民料と云ふのが一番多いやうであります、國民科と言つて居るのもあります、前の臨時教育會議では國民科と云ふ言葉を用ゐたやうに私は記憶して居ります、それから公民心得、市民科、市民學國民學と云ふやうに色々の名を附けられたが、學と云ふことは少し遠慮したい、學と云ふのは少し烏滸がましい、歴史であらうが、修身であらうが何でも構はないで持つて來て、それに多少系統を附けて列べるんで、學と云ふ程のもんぢやアありませぬ、大變輕蔑するやうであるがさう云ふ譯ではないが、學と云ふのは少し當らぬやうです、公民科と云ふのが一番普通でありますが、公民と云ふ言葉は市制町村制にある公民と云ふ言葉と混同する恐がある、現在日本の樣に公民科の内容を市町村制の説明に限つて居る樣な國は何所を搜したつてない、故に左樣に狹い解釋をしなければ公民科と云ふ名稱で結構であります、先年文部省で藏前に此學科を置きま此際に多數の參事官の説に依つて國民心得と云ふ名前で宜からうと云ふので、用ゐましたが他では薩張用ゐて下下さいませぬが、どうか御贊成の方は用ゐて戴きたい、時間が無くなりますから此點は止めます。

最後に一言希望を申上げて置きます、公民教育と云ふものは以上申しましたやうに別に組科立つた學

問でもありませず、法制科とか經濟織とか云ふものとは全然違ふのであります、隨つて若し諸君の中に公民科と云ふものはそんなにやかましいもので、公民教育と云ふものはそんなにむづかしいものなら、吾々に其樣なものを强ゆるのは無理な話で、吾々は法制なり經濟なりの專門の知識を特に受けた譯でない、それに對して之を强ゆるのは無理なことである、斯う云ふお說があるのは一應御尤に思ひます、併ながら只今も申した如く是は別に學問ぢやない、別に組織立つた法制科でもなければ經濟科でもない、要は唯生徒に國家社會に對する一ッの觀念を起させる、感情を奮起させる、國民を道德的に自覺させる、市民的に自覺させる、其外は附け足しで後とは生徒が法律の本を讀み經濟の本を讀んで、充分なのであります、青年が非常に感じ易い感激性に富んだ青年に對して、其感情を巧く導いて公民的に自覺させ國民的に自覺させる、それで此教育の目的は達したものと云はねばなりません必しも教師其人が法制科大學に這入つて法制經濟の知識を得るさう云ふ必要はない、補習として教へるに過ぎませぬから、諸君が師範學校でやられた學科で何等差支ない、師範學校で學んだ法制經濟の知識で澤山である、之を利用するに過ぎないと信ずるのであります、それからもう一ッは出來るだけ生徒を生意氣にしないやうにしなければならぬ、兎角國家のこと丶か權利義務の觀念とかを聞く段になると、動ともすれば生徒が生意氣になる、さうして權利を振廻す隨つて寧ろ權利と云ふ事より先づ以て義務を教へる、さうして穩健に出來るだけ教へてやりませぬと、兎角生意氣になる其結果業村の選擧運動に携はつて、職業を忽せにするやうな事になるから餘程注意しなければならぬ、それからもう一ッは新聞を利用する習慣を養ふやうに

願ひたい、今日は吾々は新聞を度外視しては行けぬ時代であります、成程中には新聞には隨分黨派に偏した事もありますが、左樣な部分は省いて宜いのでありまして、公平に見て吾々が知らなければならぬ事を新聞に依て知るのであります、吾々は時事問題は新聞に依て知る、斯樣な缺くべからざる新聞を、吾々が公民教育で取扱ふのを忘れるのは非常な誤りと言はなければならぬ、それで長野縣あたりでは新聞を取つて之を生徒に時間中に讀まして居る學校もあるやうであるが、必しもさうまではしなくても新聞を先生が讀まれて其新聞の中の重要な事は生徒に教へて行く斯う云ふ事で、澤山であります尙ほ二三の事項が殘つて居りますが、丁度十二時になりましたから遺憾ながら私は是で御免を蒙ります、尙ほ他日何かの機會にもう少し委しくお話が出來れば仕合せと思ひますが、今日は是だけにします、私のは甚だ乏しい實驗談に過ぎんのでありますから、諸君の間で尙ほ斯う云ふ點で注意しなければならぬと、云ふお氣附の點がありませうから、若しさう云ふお氣附の點がありましたら教へて戴くことは唯に私一個の仕合のみでありませぬ此段を附加へて御願致して置きます。（拍手）

○閉會の辭

文部省督學官　關口壯吉

甚だ略服でありまして失禮の段は御諒恕を願ひます、三日間に亘りました本講演會も主催地の關係の方々の非常なる御配慮と、又此所へお集り下さいました各位の御熱心とに依りまして、茲に豫定の通り無事閉會することを得ましたのは、主催者と致しまして最も喜びと致し且つ光榮と致す次第であります各講演に付きましては何分時間の制限と云ふことがございまして、十分諸君に御滿足をお與へ申したかどうであるかそれは分りませぬでありますが、少なくとも將來此教育に御盡力を下さいますことに付さまして御參考にはなつたことゝ信ずるのであります、又此講演會に續きまして一昨日昨日と二日間御協議會をお開き下さいまして、吾々は更り合ひまして拜聽致したのでありますが、始終有益なる御意見を伺うことを得ましたのは、是又感謝に堪へない次第であります、之を以て閉會の辭と致しますが、どうぞ諸君に於きましては將來十分の御建康を保たれまして、此教育の爲に益々御盡力あらんことを切に希望するのであります。（拍手）

○挨拶

秋田縣内務部長　細川長平

私は開催地縣の主催者と致しまして一言所感を述べ御挨拶且つ御禮を述べたいと存じます、私共此地方に生活を致して居りまする者は中央に住んで居る人々と違ひまして、地方生活に於きましては空氣も良い又米も旨いのが安く手に入る、其他腹を肥す口腹を肥すと云ふ方の營養を得ることは極めて便利なのであります、で地方の生活は口腹を肥す點に於きましては洵にのんびりした樂な生活が出來て、口腹の營養と云ふものは良好であると考へて居ります、併ながら頭腦の營養は甚だ不良であります、研究心とか或は知識慾と云ふことに於きましては、決して都會在住者に讓らないと思びますが、併ながらどうも環境の關係でありませう、研究心知識慾を滿足せしむる機會が又資料が乏しいのであります、隨つて年を老りますと勿論當然老朽するし、又春秋に富んだ人でも何時か此環境の爲に所謂若朽を生ずるのは要するに頭腦の營養の不良であると云ふ所に原因すると思ふのであります、然るに此度は文部省の主催に依りまして斯道の大家の御高見を親しく承りましたし、又實業學務局各位の御指導を受けまして、吾々頭腦の營養の不良を感じて居りまする者に、立派な營養をお與へ下さる機會を得ました事は、洵に有難く存ずる次第でありまして、此點に於きまして文部省當事者各位に深謝の意を表する次第であります實業補習教育の現狀に付きましては先日來色々御協議になりましたが、現狀は甚だ遺憾の點が多々あり